

西鶴は「海の道」で旅?

西鶴は、大坂天満宮の連歌所宗匠、西山因に師事し、その俳諧の門流、談林俳諧の旗手として活躍し、特に一人多くの句を作り続ける矢数ば、江戸時代の大坂を代表する作家です。時は17世紀後半。西鶴並び立たずと申しますが、西鶴が大坂で活躍していく時期、芭蕉はすうと江戸を拠点としていました。ちなみに西鶴と芭蕉は一つ違い。享年まで一つ違ふと面白い2人です。

芭蕉の辞世の句「旅に病で夢は枯野をかけ廻る」はあまりに有名で、その句碑が南御堂にあることから、芭蕉と天阪が廻わり深いと思っている方がおられます。西鶴の方も「好色一代男」「日本永代藏」「世間胸算用など」浮世草子という当時の小説の作家として知られ

難波西鶴と 海の道

【1】

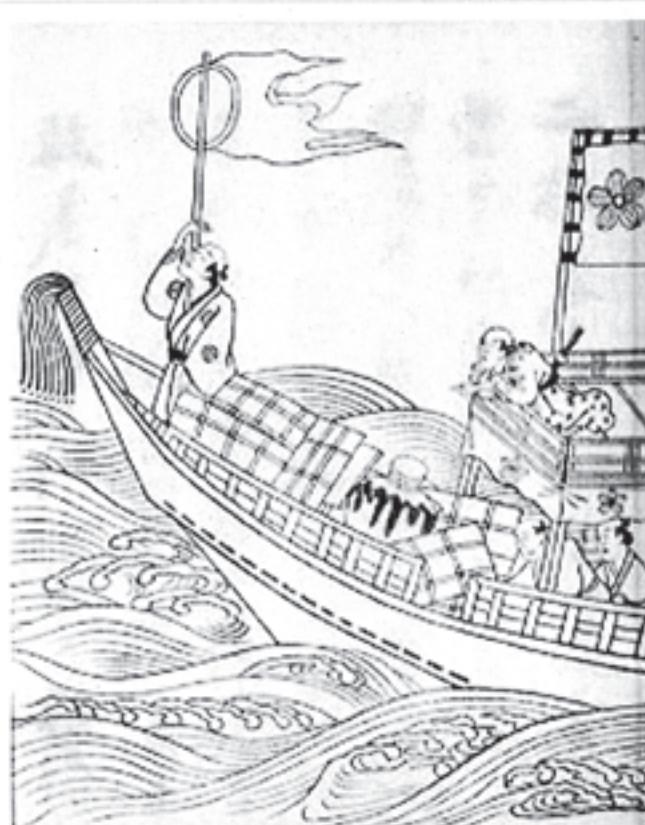
ていますが、散文作家として活躍したのは晩年のほんの十数年。その生涯の多くは俳諧

です。いまだに誰かこのレコードを破つたとは知りませんから、まさにギネスブックもものです。じっくりと句づくりを

する芭蕉とは対照的ですね。芭鶴の名手として知られています。住吉神社では一昼夜で2万3500句も詠んでしまいました。

芭鶴は、大坂天満宮の連歌所宗匠、西山因に師事し、その俳諧の門流、談林俳諧の旗手として活躍し、特に一人多くの句を作り続ける矢数ば、江戸時代の大坂を代表する作家です。時は17世紀後半。西鶴並び立たずと申しますが、西鶴が大坂で活躍していく時期、芭蕉はすうと江戸を拠点としていました。ちなみに西鶴と芭蕉は一つ違い。享年まで一つ違ふと面白い2人です。

芭鶴の辞世の句「旅に病で夢は枯野をかけ廻る」はあまりに有名で、その句碑が南御堂にあることから、芭鶴と天阪が廻わり深いと思っている方がおられます。西鶴の方も「好色一代男」「日本永代藏」「世間胸算用など」浮世草子という当時の小説の作家として知られ



西鶴自筆の「好色一代男」最終話の挿絵

諸国ばなしの取材経路解き明かす

森田 雅也（もりた・まさや）
関西学院大学文学部文学言語学科教授。博士（文学）。日本近世文学会常任委員、俳文学会委員、日本文芸学会常任理事など。著書「西鶴浮世草子の展開」（和泉書院）、編著「西鶴諸国はなし」（同）、分担執筆「新編西鶴全集第三期・第四期」（勉誠出版）等多数。昨年より西鶴記実行委員会代表。

芭鶴も一時、桃青と名乗つていたころは江戸の談林派の人でした。では、西鶴と芭鶴は同門。直接会ったことがあるのでしょうか。芭鶴は西鶴の宗因園匠とは句会に同座しているのですが、西鶴との同座はないようなのです。この辺は平将門と藤原範友が会つたことがあるのかというのも同様の難しい課題なのです。

さて、芭鶴と言えば「奥の細道」。関東、奥羽、北陸など（全行程約6百里（2千4百キロ）を踏破した）とは、これも驚きです。芭鶴はほかにも多くの紀行文があり、生涯によく歩いています。優れた詩人とは、芭鶴があげる西行、宗祇などのように旅を好み廻るとするものなのでしょうね。それでは西鶴の場合はどうなのでしょうか。

あまり西鶴と旅について問題視したり、研究した先人はいないようです。西鶴は「西鶴諸国はなし」の序で「世間んでもお読みください。

西鶴と船、西鶴と海。このシリーズは、芭鶴が「陸の道」を歩いて作品を書いたように、西鶴は「海の道」を取材企画です。江戸時代の北前船経路として持っていたのではないか。こんな假定を一回

一回解説をめぐしていぐという企画です。江戸時代の北前船に乗ったような心持ちで楽しむのがいいのか。「こんな假定を一回解説をめぐしていぐ」と書いている。この一文を信じれば、西鶴もまた、旅を住み处とした詩人といえるでしょう。西鶴の残した約20作品に及ぶ浮世草子は、そのほとんどが短編集で諸国のことな

難波西鶴と



【2】

森田 雅也

今日の私たちとは、日本の地図というとほとんどの人が描くことができるでしょう。西鶴の「の」に世紀の日本人もすでに今日の地図に近い日本の形を認識していたようです。

しかし、船を利用する人たちには違った地図がありました。海路図もそうですが、それよりもっととわがままな地図、具体的には、自分の最寄り港を中心として日本中に広がる「海の道」です。例えば、17世紀の大坂の人たちは、船で江戸へ向かえば、前後、北海道松前に向かえば、

風が良ければ十数日、博多まで4日前後などというような所要日数、時間による遠近地図を描きました。大坂から江戸まで陸路でも約14日。大坂

が取れません。ですから、藩主は1万石の最低の大名として扱われたのです。代わりに諫・昆布・鮭などで交易しました。

結婚裕福な藩でしたが、元来蝦夷地はアイヌの國。藩の公益利益独占をめぐって、西鶴が俳諺で頭角を現し始めたころの寛文9(1669)年、大規模なシャクシャインの戦いが起こっています。

その松前からの航路は、近い東回り航路より安全な西回り航路が用いられました。目の前の難所津軽海峡を越え、

漂流の危険性がある三陸、水戸沖などを回って江戸へと入る航路より、日数はかかる

も、目に見えぬ佐渡島あるいは酒田を目指し、福井、兵庫、島根、下関を回り、瀬戸内海

を利用した西鶴作品には松前を舞台とした話が多くあります。「西鶴諸国ばなし」の序には「松前に百間」の昆布がありましたが、200㍍近い昆布ではラッコも体に巻く

のに苦労しますね。

(関西学院大学文学部文学

『諸国ばなし』の情報源に

いますね。松前の人たちも大坂は近く、江戸は遠いという感覚だったでしょう。新幹線が青森までつながり、ぐんと東京が近くなつた今とは違います。

江戸時代の北海道には松前一藩しかありませんでした。でも、大藩ではなく、1万石でした。当時の北海道では米

の場合は、江戸へ行かなくても天下の台所大坂で売れば高価で取られます。もうけたお金で船一杯のお米を買って松前に戻るわけです。大坂で松

前昆布というブランドが多いのはこのためです。

摩藩は大坂で売り、買い物をしています。昆布は自藩にとろで琉球産の砂糖を譲りました。沖縄料理にクーパー(コンブ)を利用した料理が盛んなのもそのためです。

この海の道を情報源として利用した西鶴作品には松前を舞台とした話が多くあります。「西鶴諸国ばなし」の序には「松前に百間」の昆布が

あるのですが、200㍍近い昆布ではラッコも体に巻くのに苦労しますね。

(関西学院大学文学部文学

の言語学科教授)

食文化を運んだ航路

海の道守つた常夜灯

初回に西鶴の「好色一代男」の挿絵を挙げましたが、世々介が「女譲が島」へと向かう帆船は「好色丸」。船の種類は舟才船です。江戸時代を通じて活躍した千石船もこの種類です。米を千石も積めば、元禄期なら1億円の商いです。そんな船を動かしているのは、元禄期なら7、8人の船頭と水主でした。動力は風です。やりをつければ水主が増え、コストは高くなります。ですから、風任せの帆だけがいいのです。

森田 雅也

と潮に恵まれれば早く乗車とした航海になりますが、一つ違えば「好色丸」は進まず、風向きによつては漂流・転覆・座礁の憂き目に見ます。仮に先回のように松前から江戸へ向かう船が、銚子沖などで偏西風のような西から東への強い風を変な角度で帆に受ければ、太平洋に流れ、そのまま黒潮にのってハワイまでも流れかねません。

と潮に恵まれれば早く乗車とした航海になりますが、一つ違えば「好色丸」は進まず、風向きによつては漂流・転覆・座礁の憂き目に見ます。仮に先回のように松前から江戸へ向かう船が、銚子沖などで偏西風のような西から東への強い風を変な角度で帆に受ければ、太平洋に流れ、そのまま黒潮にのってハワイまでも流れかねません。

油盗んだ老女の悲哀描く

その点、西回り航路であれば、打ち上げられても日本海沿岸。瀬戸内海に入ればもっと安全です。しかし、旅といふものは、海に限

らす陸においても、順風満帆とは限りません。雨の日は屋でも暗く、深い霧の日もあれども流されかねません。

もあります。

そういう旅人のトラブルに備えたのが、どんな寺や神社にもあつた「常夜灯」です。江戸幕府は、これを命の道しるべとして、灯火



西宮えびす(西宮市社家町)に残る「常夜灯」

そんな「常夜灯」の油を盗んだ老女の末路が「西鶴諸国はなし」巻五の大です。若いころは美女として男たちをとりことした老女でしたが身の不運もあり、88歳にして食い詰めてしまします。そこで油盗人。場所は河内一の宮「枚岡神社」。今も立派です。

相次ぐ被害に神官たちが張り込んでいるところが、乱れ髪の老女が現れては問答無用で首をはねてしまます。老女としては無念の死です。以来、その首は口から火を噴きながら飛遊し、旅人にただまですが、襲われる直前に「油盗」と言えば、不思議と命が助かります。

理由は「あぶな」を仏教のありがたい言葉「阿毘毘訣」を聞く連れるというのです。笑いたいですが、さまである老女の身となれば悲しい話ですね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

海の道から届く米

江戸時代、米を酒載した千石船は、大坂や江戸といった都市部を目指しました。特に西鶴のころの大坂は江戸より好まれました。何しろ、天下の台所ですからね。

当時、徳川家の直接領地である天領も、各藩も税収入のほとんどが米です。武士が当時の公務員なら、例えばその俸給は年米50俵といふように決まっています。米50俵なんて食べれないと喜んでいません。人は米のみにて生きる者にあらずなのです。

【「武士の家計簿」など話題になりました】西鶴の『おは堂島』では

江戸時代、米を酒載した千石船は、大坂や江戸といった都市部を目指しました。特に西鶴のころの大坂は江戸より好まれました。何しろ、天下の台所ですからね。

森田 雅也

が、その家計簿は慶弔費や何やらで収入の半分以上が現金で消えてしまいます。そんな

こと

つてもういかですね。

個人も藩も幕府もその

ことを考えていると、

米商人が甘くざざく

わけです。私に米を任せれば、100万円の

収入を110万円にしま

す。いい話です。

米商人にとっては、

100万円の米を11

0万円で売つても11

0万円だけ顧客に渡せばいいわけですから、

十分に利潤が稼げま

す。米をひいひい高く

売ればいいか。それ

は大坂の米相場次第。

西鶴の『おは堂島』では

難波西鶴と



【4】

元手にした「わらしべ長者」も

なく、北浜にありました。連載2回目に書いたように大坂から広がる「海の道」から、米が千石船などどんどん運ばれています。米俵は大坂の浜にまぎしく俵積みされます。米役人といふものがいました。下級役人ですが、米の品質を調べるために、大坂の浜にまぎしく刺し、竹の筒に入ります。数十の筒で検査します。

本永代藏巻一の三浪風静かに神通丸。読んで元気になって下さい。



『摂津名所図会』(関西学院大学図書館所蔵)「中之島」届いた米俵を入れる様子

れていました。「この権限は買い手の商人の手代などにもあります。たゞやりの小火なも大手商人相手の銀行業にまで発展し、ついには大名相手の大銀行家になります。そうする元手に金融業、さらに大手商人相手の銀行業と、老舗の大商人が入り婿を願い、「わらしべ長者」のような身分になります。

この話は西鶴の『日本永代藏巻一の三浪風静かに神通丸』。読んで元気になって下さい。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

西洋文化に興味抱く庶民多数

江戸時代は鎮国していきましたが、中国、オランダ、琉球王国、朝鮮王朝とは国交がありました。そもそも「鎮國」という語は、西鶴の「うにオランダ商館にオランダ人としてやってきた見聞好いのドイツ人医師によつてヨーロッパに広められた語です。西鶴の作品に「日本永代蔵」「本朝二十不

森田 雅也

孝などがあるように、西鶴に限らず当時の人々には、世界市民として生きているという感覚がありました。外国人排他は、攘夷思想が広がる幕末になつてからです。このころには、西鶴の「うにオラ

難波西鶴と海の道

【5】

国際人だった西鶴

江戸後期の文人、木村兼蔵堂も有名な国際人ですね。藏書家、本草学、画家など博覧強記の兼蔵堂ですが、ユニクな研究で知られています。例えば、「一角纂考」(1795年刊)。北極海のイッカク鯨から一角獣、ユニコーンの存在にまで論究しているのです。木

しますが、逆につづきに西洋文化を学び、「西洋紀聞」という書物を著しました。諸外国の歴史・地理・風俗などを学習のため、ひそかに写本で読まれたといいますから、日本人にも世界に興味をもつた人が多かったといつになりますね。

大坂北畠江生まれ、江戸後期の文人、木村兼蔵堂も有名な国際人ですね。藏書家、本草学、画家など博覧強記の兼蔵堂ですが、ユニ

クナ研究で知られています。例えば、「一角纂考」(1795年刊)。北極海のイッカ

ク鯨から一角獣、ユニコーンの存在にまで論究しているのです。木

村兼蔵堂は世界地図が頭に入っていたのでしょ

うね。彼のコレクションは数だけではなく、頭微鏡を持つなど

登るべき国際的視野の持主でした。その詳

細は別の機会にまた、他にも国際人の名は

「竜の子」とは、オトカゲです。インドネシア産コモドドラゴ

ンもその一種です。「竜の子」とは「コドモドラゴン」。偶然ですが

「竜の子」は、オトカゲです。インドネシア産コモドドラゴンもその一種です。「竜の子」とは「コドモドラゴン」。偶然ですが

難波西鶴と 海の道

【6】

森田 雅也

前回、西鶴も含め、江戸時代の人々が存外、國際人だったといふことを書きましたが、「海の道」が世界に通じている以上、海洋国日本の血が騒ぎます。第4回で西鶴の「日本永代藏」(1688年刊)巻一の三「浪風静かに神通丸」後半のサクセスストーリーを紹介しましたが、前半

は日本物流の要として、難波の港のにぎわいを描写しています。そのタイトルの「神通丸」については、一近代泉州に唐(から)かね屋とて、金銀に有徳なる人(金持ち)出船來ぬ。世わたらず大船(せん)をつくりて、その名を神通丸とて、三千七百石つみて足からく、北國の海(松前から日本海一帯)を自在に乗りて、難波の入り港に八木(米)の商売

海の道を通った巨船たち

建造費の割に活躍伝えられず

をして、次第に家榮へけるは、諸事につきて、その身調義(面売上の工夫)のよきゆへぞかし。一び、原文にあるといふに起因します。その「唐かね屋」には、実在のモデルがいました。泉佐野市の豪族として有名な食野家の一族で、大坂新戎町に廻船問屋を営み「大通丸」という巨船を所有していた「唐金屋庄三郎」です。刊行のころ、40歳前後の働き盛りでした。

ただ、「大通丸」は資料から四千石ほどの大船と推測されます。が、「日本永代藏」のようになります。これでは、幕府もたまりません。

これを超えた船が謎の「快風丸」です。建造したのは徳川光圀、あの「水戸黄門」です。建造年は不明ですが、元禄元(1688)年に、この船で蝦夷探検に成功しています。

この船の積載は、船体からは約一万二千石。「安宅丸」を大きくなり回ります。しかし、実際はもっと少なかつたという算出もできます。(参考文献:石井謙治『和船II』)

巨船三隻に共通するのは、建造費の割に活躍が伝えられていないことです。まるで大艦巨砲主義の遺物「大和」のようですね。

しかしながら、このがどうが、

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

「下らない」語源は商いから

おかげで貴方がおかけまで貴問が二つありました。(一)今まで、船の話が多くなつたので、一つの質問は西鶴と朱印船について、もう一つの質問は西鶴と樽廻船についてです。

おかげで貴問が二つありました。(二)今まで、船の話が多くなつたので、一つの質問は西鶴と朱印船について、もう一つの質問は西鶴と樽廻船についてです。西鶴の活躍した時期からは、前者は早すぎますし、後者は後時代です。しかし、全く関係ないわけではありませんので、お答

森田 雅也

えしたいと思います。

まず、朱印船とは、

近世初期に豊臣秀吉や

徳川家康などから異國渡航許可の朱印状をも

らうて海外で貿易を行

った船のことを指しま

す。特に活躍した場所は、安南・ルソン・シナムなど東南アジア各

國ですが、角倉・末吉

・末次・茶屋などの商

人が有名ですね。

帆装にはヨーロッパ式

難波西鶴と海の道

【7】

の技術を取り入れていました。ですから、西鶴のころのよのな沿岸を回る舟財船ではなく、大洋航海に適した大きな船でした。

日本から銀・銅・鉄・硫黄・樟脑・米穀のほか、閨器・漆器や刃物などを輸出し、輸入品は生糸・絹織物・綿布をはじめ、染料・漢方薬の原料などを

た。

遠洋航海ですから月日もかかりますし、天候に左右されることが多く、リスクも高かつたのですが、高い利益を上げて、豊臣秀吉・初期徳川政権の経済的基盤の一つになりました。

しかし、キリスト教の取り締まりや、農業より商業資本主義に

なることを恐れた為政者たちがこれを平戸、

心でした。1升瓶で今

のお金で2800円ぐら

いする上方のお酒

は、江戸では大人気で

した。ところが、江戸

の地酒は、江戸の水が

ますぐ、醸造技術も低

かったので、5分の1

ぐらいの値段で取引さ

れていました。味が格

段に違ったのだそう

です。

西鶴はその商いに注目したが、今まで見

てきたような長崎商い

の実態が描かれる

ことになったのでしょう。

遠洋航海に対して沿岸

航行となつた代表が、

樽廻船といふことにな

るかもしれません。

『国史大辞典』によ

れば、樽廻船とは「江戸時代に灘や伊丹など

の上方から江戸積みさ

れる酒樽(四斗樽)を

主に、大坂・西宮から

江戸へ積み送られた樽

廻船問屋仕建ての酒荷

(関西学院大学文学

部文学言語学科教授)

西鶴と朱印船、樽廻船

遠洋航海ですから月日もかかりますし、天候に左右されることが多く、リスクも高かつたのですが、高い利益を上げて、豊臣秀吉・初期徳川政権の経済的基盤の一つになりました。

しかし、キリスト教の取り締まりや、農

業より商業資本主義に

西鶴のころの酒は、

新酒を江戸に送る

とで競ったのは後の話

ですが、上方から江戸

に下る物は、酒に限ら

ず上等で、「(一)から賣

るもの」という言葉が出

たとれます。

まだ船田伊丹の酒が中

心でした。1升瓶で今

のお金で2800円ぐ

らいする上方のお酒

は、江戸では大人気で

した。ところが、江戸

の地酒は、江戸の水が

ますぐ、醸造技術も低

かったので、5分の1

ぐらいの値段で取引さ

れていました。味が格

段に違ったのだそう

です。

「海の道」から人魚も来た?

第2回で西鶴の「ろは「海の道」で大坂と松前(北海道)が結ばれていたので、情報も入りやすかったということを書きました。西鶴の『武道伝来記』(貞享4(1687)年刊)巻二の四「命とらるる人魚の海」も松前のお話です。

宝治元(1247)年3月20日に津軽の大浦は、「海の道」で大坂と松前(北海道)が結ばれていたので、情報も入りやすかったということを書きました。

森田 雅也



【8】

各国に残る人魚伝説

多くの「人魚」は金色に輝き、身体は良い匂いが香り深く、声は雲笛笛(ヒバリの鳴き声)のような音色を出すきれいな調子であったと伝えられているとします。日本の「人魚」はとても素晴らしいマーメイドだったのですね。

この話は単なる伝承ではない、「本朝年代記」という江戸時代に刊行された歴史記録書ではなく、「西鶴櫻痴」など鳥の怪物からきたものだそうです。イギリスではマーメイド(女性)、マーマン(男性)と男女別の呼び名を持っているとのことです。

中国の場合、「山海經」という書物に、人魚は形がナマズに似て四つ足で、人間の赤子のような声で鳴くとされています。手足は宝石の珊瑚で、奥羽の海には珍しい魚がとれることが多かったのです。手足は宝石の珊瑚で、奥羽の海には珍しい魚がとれることが多かったのです。

「人魚」話は次回も続くます。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

人魚伝説というものがあるのだそうです。

「日本大百科全書」によれば、「人魚」は

複数残りますが、人魚を食べたことによって800年の寿命を得た比丘尼、尼僧の伝説です。

ヌ、イタリアではシレーナと呼ばれているのですが、いずれもギリシャ神話のセイレン

「西鶴櫻痴」などにも載りますが、逆に人魚という靈力の高い神に近いものを食すとその術として、800年死ぬなくなるという解説も成り立ちます。

たとえ不老不死の人魚が増すばかりか悲しがれませんね。「人魚」話は次回も

「命とらるる人魚の海」

難波西鶴と 海の道

【9】

森田 雅也

前回の人魚伝説に続き、西鶴作『武道伝来記』(貞享4(1687)年刊)巻二の四「命といふる人魚の海」の話です。松前藩の海岸を取り締まる奉行に中堂金内といふ人がいました。人々を警戒していると、鮎川(未詳)といつた手応えがあり、そろで、白波がにわかに立ち騒ぎ、5色の水玉がたくさん飛び散り、波が2つに割れ、そこから「人魚」が現れました。この光景。ウルトラマンか何かの怪獣登場のシーンとそっくりで

すね。いや、逆にいから取ったのかもしれませんが。

いずれにせよ、船頭たちは驚いて絶してしまいます。金内は果敢にも半弓(小剣の弓)を取り出し、矢を放ちます。矢は人魚に当たったまま、波間に消えていきます。

やがて高波も静まり、一同は岸に着きま

う入り海で夕暮れ時となり、小舟に乗って帰路についたところ、浜から1つも行ったところを警戒している

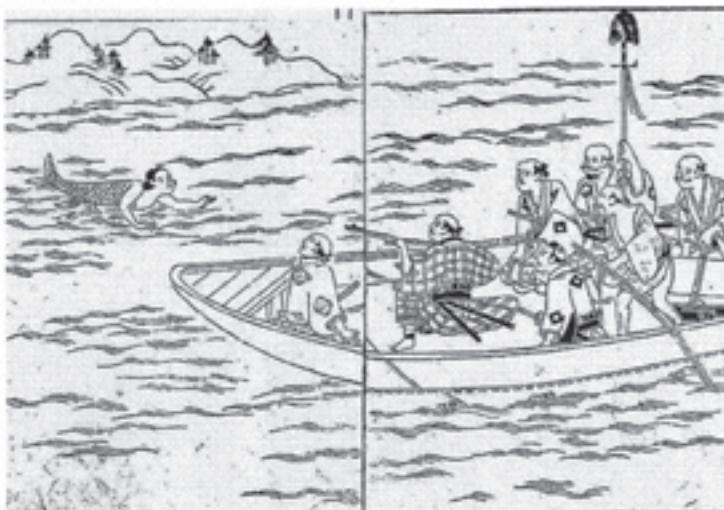
重臣の中から、世の中で不思議はいくつであります。矢は人魚に当たった手応えがあり、そのまま、波間に消えていきます。

金内は意地でも人魚の死骸をあげようと私財をなげうつて捜索しますが、結果が得られず失意のうちに病死してしまいます。1人残された金内の娘は、父

の足は4本に決まっていました。金内は果敢にも半弓(小剣の弓)を取り出し、矢を放ちます。矢は人魚に当たったまま、波間に消えていきます。

金内は意地でも人魚の死骸をあげようと私財をなげうつて捜索しますが、結果が得られず失意のうちに病死してしまいます。1人残された金内の娘は、父

の跡を追って死のうとしますが、親の敵を捨て置くのかと諭され、助太刀を得て、青崎百右衛門を見事討ち果たします。



『武道伝来記』巻二の四挿絵。「人魚」を射る金内。なぜか、半弓ではなく、鉄砲で射ている(関西学院大図書館所蔵)

重臣誰もが金内の武道と剛強さに感心し、明日にも殿にこの手柄を老に職務報告とともに

この一件も話します。しかし上げ、お褒めの言葉を賜りますが、どこにでもひねくれ者はいるものです。

青崎百右衛門という

皮肉にも、その後すぐには金内の矢の刺さった人魚の死骸が発見されただという報が入り、金内の無念が晴れます。ですが、武家ゆえの悲劇。これも人魚のたまりなのでしょうか?

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

難波西鶴と



【10】

森田 雅也

摩川に現れたアザラシ
をめぐって、「タマち
やん」フィーバーがあ
りましたから、江戸時
代でのパニックは容易

前回は松前の人魚伝
説の話でしたが、日本
に珍獸が漂着した話は
多くあります。特に江
戸時代後期の瓦版には、
そのことが面白おかしく報道されていま
す。戸時代前期の俳諧書
が3つもある大クジラ
が捕まつたという瓦版
もあります。迷子のヒ
ゲクジラですが、現代
でも打ち上げられた
り、迷い込んだだけした
分析すれば、たまたま
流れ着いたサンショウ
ウオだったのです。現
代でも10年ほど前に多

「これは挿絵からも「ア
ザラシ」に間違いあり
ません。
それでもやはり、人
魚の類の報道が多く
たようです。

富山県の四方浦には
戸時代後期の瓦版には、
そのことが面白おかしく報道されていま
す。戸時代前期の俳諧書
が3つもある大クジラ
が捕まつたという瓦版
もあります。迷子のヒ
ゲクジラですが、現代
でも打ち上げられた
り、迷い込んだだけした
分析すれば、たまたま
流れ着いたサンショウ
ウオだったのです。現
代でも10年ほど前に多

「ラッコ」の存在は
よく知られています。
た。室町時代の辞書に
も「獣虎」とあり、江
戸時代前期の俳諧書
「毛吹草」には「松前」
の記述に「獣虎」とあ
ります。

富山県の四方浦には
戸時代後期の瓦版には、
そのことが面白おかしく報道されていま
す。戸時代前期の俳諧書
が3つもある大クジラ
が捕まつたという瓦版
もあります。迷子のヒ
ゲクジラですが、現代
でも打ち上げられた
り、迷い込んだだけした
分析すれば、たまたま
流れ着いたサンショウ
ウオだったのです。現
代でも10年ほど前に多

「ラッコ」の存在は
よく知られています。
た。室町時代の辞書に
も「獣虎」とあり、江
戸時代前期の俳諧書
「毛吹草」には「松前」
の記述に「獣虎」とあ
ります。

「ラッコ」の存在は
よく知られています。
た。室町時代の辞書に
も「獣虎」とあり、江
戸時代前期の俳諧書
「毛吹草」には「松前」
の記述に「獣虎」とあ
ります。

日本に漂着した「珍獸」たち

海の道を利用

魚の誤認については、
世界的にジュゴン説が
有名です。沖縄に生息
するので、漂着して誤
認されたとする説もあ
りますが、少し無理が
あります。迷子のヒ
ゲクジラですが、現代
でも打ち上げられた
り、迷い込んだだけした
分析すれば、たまたま
流れ着いたサンショウ
ウオだったのです。現
代でも10年ほど前に多

「ラッコ」の存在は
よく知られています。
た。室町時代の辞書に
も「獣虎」とあり、江
戸時代前期の俳諧書
「毛吹草」には「松前」
の記述に「獣虎」とあ
ります。

人を化かすタヌキの話

難波西鶴と 海の道

[11]

森田 雅也

前回はラツコの話でしたが、今回は北海道のタヌキの話です。

タヌキは、古くは「たけ」とも呼ばれていたのですが、日本ではキツネとともに人を化かす動物として有名ですね。

四国の芝石衛門狸や佐渡島の話を始め、豊力の強いタヌキが存在したことは知られていますが、同時に童謡もあります。和尚の木魚とも争って腹鼓を打ちすぎ

て死んでしまった「誠誠寺」のタヌキや童話の「分福茶釜」在でありますね。

タヌキの靈力についてでは、キツネとともに人を化かす動物として有名ですね。

数馬の妻の嘆きはひどく、醜女であった容ぼは日に日に瘦せ衰え、顔は青白くなり、見るからに恐ろしい形相に変わっていきます。妻はそのまま死んでしまいますが、茶毘に付した後も、近所の人が若崎の家にこの女の幽霊を見たといいます。わざが広まっていきます。

朝二十不孝」「直享3(1686)年刊」卷四の四「本に其人の面影」という話を紹介します。

息子たちとしては、母の幽霊が出没するとある、和尚の木魚と浪人暮らしをしている

岩崎数馬という武士がいました。妻はもともとは立派な家柄のお嬢様でしたが、零落したこの家で苦労しながら2人の息子を育てあげます。ある日、数馬は

あっけなく世を去ります。丈にも母に向かって矢ぬらしますが、弟は氣を放ちます。

そうすると母の姿が消えたので、その場を見ると舌だけぬきの鼻筋に矢が通っています。早速この武勇は城下の評判となり、殿様の耳にも聞こえます。西鶴の「本に其人の面影」という話を紹介します。

岩崎数馬とい

にはできません。そん

な時、家の庭に母の面影が見えます。兄は恐ろしくなって、「どう

りませんでした。

弟は、不孝者として松前に居られず、去つていくという話です。

この殿様の裁定。名君なのでしょうか。暗愚

なのでしょうか。

寛文9(1669)年に松前の殿様の收奪に抗議して、アイヌの首長シャクシャインが全蝦夷地のアイヌを糾合して大蜂起しますが、和議の場でシャクシャインは謀殺されてしまします。有名なこの事件についても、松前殿様が名君か暗愚かわかりません。何か西鶴のメッセージを思

うのは、考えすぎですか。

え変化のものでも母親に弓を射た親不孝者と一緒にお取り立てにはな

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

カムフラージュして発信

森田 雅也

前回は松前でタヌキが亡くなった母の姿に化けて兄弟の前に現れ、弟に射殺されたという話を紹介しました。タヌキ退治の話などは、北海道という遠く離れた場所だから、虚構で適当に作つたのではないかと言えます。例えば、高徳の僧が大きな力で退治した

り、歴史上の有名な武将がムカデやヒヒを退治する類いの話は全国に存在しますから、松前限定の話とは言えないのではないかと思われても仕方がないでしょう。

しかし、誰が伝えたか分からぬ説話や昔話の場合と違つて、西鶴の「狐の狐狸」の類いの話は、西鶴自身が話の発信源と分かっているのですから、あの話は限られたまましまいました。

海の道

【12】

狐狸に化かされる 「共通理解」利用

す。例えば、「好色五人女巻」の二番頭で「天満に七つの化け物あり」としてあける、「大鏡寺前の傘火（からさび）」「曾根崎の逆さま女」「池田町のわらひ猫」などの七つの怪異話は、当時、天下の台所としてぎわついていた天満に、実際に世間で広まっていた都市伝説だったのでしょ。それを西鶴は、「これ貴、年をかねし狐狸ばなし」巻四の一「形は屋のまね」には、大坂道頓堀で上演中の当時人気の井上播磨操の芝居小屋で勝手に暴れています。この芝居小屋の人形芝居たちが、誰もいない深夜の坂道頓堀で上演中の当時人気の井上播磨操の芝居小屋で勝手に暴れています。この芝居小屋の人形芝居たちが、誰もいない深夜の坂道頓堀で上演中の当時人気の井上播磨操の芝居小屋で勝手に暴れています。これは当時の多くの人々が、人間はたいてい「狐」や「狸」には化かれてしまつのだという、諦めに近い、共通理解を持つていたことを逆に利用したものと言える

つまり、都市に伝わることで怪異性は薄れています。これも当時実際、道頓堀に、大なり小なりこの風評があつたと考えられます。同じく、「西鶴諸国

そうすると、前回の松前の話も虚構では済まされないでしょう。松前が大坂に近かつたことは今まで書いてきました通りです。未開地というより都市伝説です。そう考えると、少なくとも母親の幽霊出現とその兄弟の退治程度の話は適応していたのではないでしょうか。

西鶴が、大都会大阪のまったく根も葉もない怪奇話を作品化したとすれば大変なうそつきになります。第一、狸の語はカムフラージュだったのです。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

(1)でも西鶴は怪異

確かな交渉ルートあつた?

森田 雅也
数回にわたり、西鶴が北海道からの正確な情報を駆使して、作品化していく例をあげました。それは、西鶴はその北海道松前から的情報をどのように得たのでしょうか。

西鶴の足跡を検証

難波西鶴と 海の道

【13】

とがあり、確かな交渉ルートを持っていたことは考えられないでしょうか。

それならば、西鶴は北海道まで行くことができたのでしょうか。

この「おの旅」と大きく違う点は、單にそこに行きたいからと言つて、自由には行けないといふことです。

「入り鉄砲に出女」

西鶴はその北海道松前から無難な答えは、西園

北國まで行くことが

できたのでしょうか。

この「おの旅」と大

概所持する往来手形には、男子の関所通過が大抵所持する往来手形に対し、女子が通るには「書外にもかなりの手続」があります。た(『国史大辞典』)。とはいうものの、男子なら誰でも「へでり」航路に従事している水主も含めた人々から伝聞したり、取材したという可能性でしょう。しかし、西鶴が直接、松前に行った

江戸時代の通行許可には「関所手形」と「往来手形」が必要でした。が、男子の関所通過が大抵所持する往来手形には、「書外にもかなりの手続」があります。た(『国史大辞典』)。とはいうものの、男子なら誰でも「へでり」航路に従事している水主も含めた人々から伝聞したり、取材したという可能性でしょう。しかし、西鶴が直接、松前に行った

西鶴の「好色一代男」は主人公「世之介」の一冊と言えますが、卷四の七で父の奥大な遺産を受け継ぎ、「大大じん」となります。本来なら働かなくてもいい

が描かれています。ところが、巻七の五人の妻女が領地へ戻る」とを厳しく取り締まつたことを指しています。

江戸時代の通行許可には「関所手形」と「往来手形」が必要でした。が、男子の関所通過が大抵所持する往来手形には、「書外にもかなりの手続」があります。た(『国史大辞典』)。とはいうものの、男子なら誰でも「へでり」航路に従事している水主も含めた人々から伝聞したり、取材したという可能性でしょう。しかし、西鶴が直接、松前に行った

西鶴の「好色一代男」は主人公「世之介」の一冊と言えますが、卷四の七で父の奥大な遺産を受け継ぎ、「大大じん」となります。本来なら働かなくてもいい

が描かれています。ところが、巻七の五人の妻女が領地へ戻る」とを厳しく取り締まつたことを指しています。

江戸時代の通行許可には「関所手形」と「往来手形」が必要でした。が、男子の関所通過が大抵所持する往来手形には、「書外にもかなりの手続」があります。た(『国史大辞典』)。とはいうものの、男子なら誰でも「へでり」航路に従事している水主も含めた人々から伝聞したり、取材したという可能性でしょう。しかし、西鶴が直接、松前に行った

西鶴の「好色一代男」は主人公「世之介」の一冊と言えますが、卷四の七で父の奥大な遺産を受け継ぎ、「大大じん」となります。本来なら働かなくてもいい

同時代に生きた芭蕉と西鶴

森田 雅也
北海道より、南に下
がると、西回り航路の
東北における一大集散
地「酒田」があります。

山形の酒田港は、海
の道は大坂へ通じます
が、最上川舟運の拠点
もありました。江戸
時代の最上川と言え
ば、「奥の細道」の「五
月雨」を集めて早し最上
川の名句を思い浮か
べます。

松尾芭蕉は元禄2年
18日～25日酒田に逗
留しています。

元禄2年と言えば、
それまで西鶴が猛烈な
勢いで浮世草子を世に
出版し続けたにもかか
わらず、この年の後半
から同4年まで、浮世
草子の執筆を断つてい
た、謎の時期です。病
気説がもっぱらですが、目の病、結核等、
現段階ではいずれの説
も決め手に欠ぎます。

再び、芭蕉と最上川

難波西鶴と 海の道

【14】

ついでですが、「奥の細道」では「最上川風」の家が「尾花沢」には、みわのくより出でて山形を水上ます。(てん・はや・ざなみ・おおせ)とあります。涼しきをわが宿にしてねまること」という句を詠んでしまつほど、リラックスしてわが物顔で清風の家でくつろい

ては酒田の海に入る」を描写しています。

芭蕉は江戸深川を旅立つて以来、松島、平泉と太平洋側から日本海側の象海を目指して、慌ただしい東北の旅を強行しますが、「豪風」は「清風」とは何者でしょう。

鈴木清風、名は道祐。通称は島田屋八右衛門。別号に残月軒。尾花沢でも有数の紅花問屋の主人でした。紅花は口紅の原料でもあります。ですが、この時期は衣服の紅色の安価な染料として庶民からもではやられ飛ぶように売れています。腰を擱えたとびたつと足が止まります。言つてもいいでしょ

う。芭蕉が5月17日～27日もの長逗留をした理由は、知る由は、同じ豪商「清風」の家が「尾花沢」にあつたからです。涼しきをわが宿にしてねまること」という句を詠んでしまつほど、リラックスしてわが物顔で清風の家でくつろい

を待っていました。

前回、書いたように

清風は商人として往来

手形を持っていました

から、日本全国どこへ

でも船に乗って行くこ

とができます。

事実、清風は尾花沢から最上川を下り、酒

田に出て、江戸や京阪

まで往来し、多くの俳

人と交わりました。は

じめは談林派だったの

ですが、のちに芭蕉に

学び、芭門となります。

芭蕉を家にとめて盛大

に歓待したのは師匠だ

から、当然だったわけで

す。でも初めは西鶴と

同門の談林派であった

ことには注目できま

す。次回に續ります。

2人のかかわりとは

芭蕉は江戸深川を旅立つて以来、松島、平泉と太平洋側から日本海側の象海を目指して、慌ただしい東北の旅を強行しますが、「豪風」は「清風」とは何者でしょう。

鈴木清風、名は道祐。通称は島田屋八右衛門。別号に残月軒。尾花沢でも有数の紅花問屋の主人でした。紅花は口紅の原料でもあります。ですが、この時期は衣服の紅色の安価な染料として庶民からもではやられ飛ぶように売れています。腰を擱えたとびたつと足が止まります。言つてもいいでしょう。

芭蕉が5月17日～27日もの長逗留をした理由は、知る由は、同じ豪商「清風」の家が「尾花沢」にあつたからです。涼しきをわが宿にしてねまること」という句を詠んでしまつほど、リラックスしてわが物顔で清風の家でくつろい

ては酒田の海に入る」を描写しています。

芭蕉は江戸深川を旅立つて以来、松島、平泉と太平洋側から日本海側の象海を目指して、慌ただしい東北の旅を強行しますが、「豪風」は「清風」とは何者でしょう。

鈴木清風、名は道祐。通称は島田屋八右衛門。別号に残月軒。尾花沢でも有数の紅花問屋の主人でした。紅花は口紅の原料でもあります。ですが、この時期は衣服の紅色の安価な染料として庶民からもではやられ飛ぶように売れています。腰を擱えたとびたつと足が止まります。言つてもいいでしょ

う。芭蕉が5月17日～27日もの長逗留をした理由は、知る由は、同じ豪商「清風」の家が「尾花沢」にあつたからです。涼しきをわが宿にしてねまること」という句を詠んでしまつほど、リラックスしてわが物顔で清風の家でくつろい

東北にあつた？西鶴と芭蕉の縁

前回、「最上の紅花大尾」と吉原すすめに
もてはやされた鈴木清風（1601～1722）
が、芭蕉と西鶴との接点として重要な人物としましたが、その続ぎです。

清風は最上川の舟運を利用して、紅花を酒田港へと集積し、西回り航路を利用して、京阪へ、江戸へと往来しました。特に西鶴・芭蕉の全盛期、10歳ほど

年下であった彼は公私
に活躍したでしょ。
清風はまた、紅花問
屋としてだけではな
く、その財力によつて
金融業でも成功してい
ましたから、江戸にも
屋敷を持つており、そ
の豪遊をもつて、吉原
遊郭でも名前が知られ
ていました。清風の名
は東北屈指の大富豪と
して有名だったのです。
す。
おなみに「本間様に
は及びもないが、せめ

鈴木清風という豪商

[15]

てなりたや殿様に」という俗謡で知られる酒田の天下の大富豪・本間家はこの時期は頭角を現していません。特躍は、70年ほど待たなくてはいけません。

俳人としての清風は菅野谷高政著「詩譜由庸姿」〔延宝7（1679）年刊〕に独吟歌仙一巻が收められています。この書は「常に心醉する高政が、京都談林の力を誇示しようとして出版したものが」〔『俳文学大辞典』〕ですか？ 清風は、西鶴の師、西山宗因の京都談林門下の先鋒にあつたということです。

同門と言つても、一世を風靡した談林派を非常に荒っぽい分け

をすれば、宗因を
に江戸談林、京都談林、
大坂談林に分かれて
言えます。西鶴は、
談林、芭蕉は元江戸
林、清風は京都談林
ですから、同門とはい
活躍の場、交流の場
違ったということじ
るかもしません。
かし、三都は陸で、
でも強く結ばれて
す。

「稻庭」「詠説」欄を刊行するほどの本格的な学芸の場でした。京薦、江戸での俳人との中にはやはり西鶴と芭蕉、江戸俳壇と大坂俳壇とを結ぶ重要人物で、西鶴門の椎本才磨もいました。

西鶴と清風のつながりは伝記のない西鶴ですから明確ではありませんが、芭蕉は一門あげて、江戸小石川にあつた清風の座敷で句会を行つていました。とりもつたのは才磨でした。

西鶴と芭蕉の縁は案外、東北にあつたのかとも知れませんね。

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (319) 356-4000 or email at mhwang@uiowa.edu.

天満と変わらぬにぎわいの酒田港

山形の酒田港は、西鶴が難波でその名を徐々に高めていったのと軌を一にして、繁栄をしていきます。誠に不思議なことです。

【山形縣史 卷二】
(大正9) の「靈元天皇天和三(1683)

年」の条には、その繁栄ぶりを以下のように記します。「酒田港へ入津仕候廻船、縦て諸國之船出入仕候得共、上方より商売物取分多

山形の酒田港は、西類、出雲より鉄、美濃より茶、南部・津輕・秋田より材木、松前より肴、最上より大豆真外雜穀に御座候、井二和泉・讃岐・加賀・越前・越後よりも船參申候」

「世之介」も2回訪問

難波西鶴と

海の道

森田 雅也

く參候物、播磨塙、大坂・境・伊勢より木綿

・

・

・

【16】

に全国から商人が集まっていたわけです。
もちろん、一大集積地ですから、のこぎり商引の総額はずいぶん高いでしょう。

東北海運史研究の第一人者渡辺信夫氏は、天和3年の調べによると、酒田入港の船数は春より9月までに2500艘から3000艘であった。月平均315艘から375艘、

1日平均10艘から13艘となる。滞在時間が10日間ほどとし、1艘の乗組員が3~4人から16~17人となると、千人から1500~1600人の商人や船員が

港に上陸していたことになる。」(「海からの文化 みちのく海運 史 平成4 河出書房」と、当時の酒田港にざわいを分かりやすい数字で示して下さっています。それだけ地の総額はすさまじいものだったでしょう。

史 平成4 河出書房

けしき、桜は浪花につ

る、誠に「花の上漁ぐ

所ぞ」と記しています。

世之介26歳のころは

「蟹の釣舟」と読むは

「蟹の釣舟」の歌でイ

メージされる、のどか

な漁村であったとしま

す。

もう一度は卷七の五

「諸分の日帳」です。

世之介は53歳という設

定ですので、27年後と

なります。

「好色一代男」は「歳

立て」と言って、全54

章を7歳から60歳まで

起つた出来事と1章

ずつでつづっています。

卷七の五はどう描

かれているのでしょうか。次週に書きます。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

難波にやつてきたビジネスマン

西鶴は「好色一代男」巻七の五のみ、本来は仕事を持たないはずの世之介に、「米商人」という、西回り航路には欠かせないビジネスマンに仕立てました。世之介は酒田の表に高嶋屋にてあひ初、「と書かれている日帳には、難波に集まる争奪戦の内米の買付けにやってきています。そこには遠く離れた大坂新町のなじみの「和州太夫」から便りがありました。それは3月の毎日を記した「日帳(日記)」

森田 雅也

でした。

「あけぞむるより、

朝ごみの客は中の鳴の塩屋の宇石衛門手代にて、是は頗な身どて

世之介に、「米商人」という、西回り航路に高嶋屋にてあひ初、「と書かれている日帳には、難波に集まる争奪戦

の内米の買付けにやつてきてます。そこには遠く離れた大坂新町のなじみの「和州太夫」から便りがありました。それは3月の毎日を記した「日帳(日記)」

一体どんな人たち?

【17】

難波西鶴と海の道

ない」と云ふが、半ばにも至らない14日まで読んで、慌てて大坂へ飛び帰って行きます。

色男世之介を夢中にさせた和州という太夫も気になりますが、こ

こでは日帳に出てくる難波にやつてきたビジネスマンに注目し

たいと思います。

1日・塩屋の手代

2日・肥後の八代衆

3日・4日・唐津の大尽

7日・8日・最上の衆

11日・播磨の網干衆

という客筋です。

まず、「塩屋」です

が、大坂の地誌「難波鶴」(延喜7年刊)

には、大坂中の島における諸藩の

蔵屋敷の名代として

「塩屋」の名があげら

れていますから、この

塩屋なら相当な豪

商であつたはずです。

また、「江戸時代の大坂海運」(昭和37年、大阪港史編集室)には、

大阪海運(昭和37年、大阪港史編集室)には、

大阪所在の廻船問屋

は市内の各河岸に軒を

連ねていたが、このう

ち廻船廻船および樽廻

船についてみると、寛

永年代には泉屋、毛馬

屋、大津屋、頭屋、塩

屋、富田屋の名がみえ

ている」とありますか

ら、「この「塩屋」であれ

ば有力廻船問屋です。

さらに「享保十二丁

未年 御触書之留並び

浜方記録」には、「米

会所堂鳴永来町塩屋庄

次郎屋敷」(「大阪市

史 第三」明治44年)

とありますから、「この

部文学言語学科教授)

場合の「塩屋」も大き

な米問屋です。

いずれの「塩屋」の

場合でも、その手代

なら一流の商人です。

「肥後の八代衆」も球

磨川水系の積出港とし

て、川港の人吉、海路の

肥後港を有している、

肥後米を商う米穀商で

す。「最上の衆」は、すで

に述べた庄内米、紅花

など)を商う商人たちで

す。「播磨の網干衆」は

播州米を商う米穀商で

す。「唐津の大尽」だけ

不明ですが、唐津は交

通の要衝。大商人がい

たことも事実です。

それでは、西鶴はな

ぜんの商人たちを知

ついたのでしょうか。

次選で述べます。

(関西学院大学文学

部文学言語学科教授)

西回り航路と東回り航路

難波西鶴と 海の道

【18】

森田 雅也

前回は「好色一代男」巻七の五に登場するビジネスマンの話でした。いずれも米商人、もしくは海運、川運関係に携わっていたと考えられる人々でした。ここでもう一度、巻七の五の米商人世之介にこだわってみます。本文には「出羽の国庄内といふ所へ下りて、米など調て、大坂への舟便もまはり遠く」という一文があり

西回り航路開発は、寛文12(1672)年のことですから、天和2(1682)年刊行の『好色一代男』に載るとは、「とても新しい話題です。

西回り航路を用いる

西回り航路開発は、寛文12(1672)年のことですから、天和2(1682)年刊行の『好色一代男』に載るとは、「とても新しい話題です。

西回り航路を開発したのは、酒田港から日本海の寄港地を経て、福井・敦賀港で積み卸し、陸路琵琶湖まで運び、琵琶湖の水運を利用して淀川を経て大坂の北浜へ至るルートでした。

西回り航路と西鶴文学との関係について

私は、庄内の積み出し港酒田から大坂へ上る直接の舟便ルートですから、西回り航路を指していることになります。

ます。「大坂への舟便」とは、庄内の積み出し港酒田から大坂へ上る直接の舟便ルートですから、西回り航路を指していることになります。

は、初回から取り上げてきました。旧来の敦賀・琵琶湖ルートと違が、陸路や川船などの積み替えがなく、料金が安くなることから、一気に利用頻度があがります。幕府は江戸時代初めから、日本各地の天領で安全に運ぶ、通米ルートの確保を模索してきましたが、寛文10(1

670)年、知恵と才覚だけで貧農から一代で成功した富商河村瑞賢(1618~99年)に、幕府は奥州信夫郡の幕領米数万石を江戸に回漕を命じました。

瑞賢はこの命令を機会に、従来の東北地方から江戸への通米ルートが太平洋沿岸を南下し、銚子から川船で利根川・江戸川を経て江戸に運していたのを、新たに寄港地を整備し、房総半島を迂回して直接江戸へと入る幹線航路を開発しました。

これが東回り航路ですが、その成功を評価した幕府は、さらに瑞賢に命じて、日本海を西へ航海し、下関から瀬戸内海に入り大坂に達する西回り航路を開発せ、成功させます。庄内藩が西回り航路を用いたのは、『酒田市史改訂版』(1987年)によると延宝元年としますが、郡代高力忠兵衛の建議により、通米改革が行われ、藏米の大坂回漕の経費削減を行ったという記録などからは翌年の延宝2(1674)年実施とした方がいいよう

です。
そうすると、「好色一代男」巻七の五は延宝2年以降が設定された。これが東回り航路で直接江戸へと入る幹線航路を開発しました。

これが東回り航路ですが、その成功を評価した幕府は、さらに瑞賢に命じて、日本海を西へ航海し、下関から瀬戸内海に入り大坂に

達する西回り航路を開発せ、成功させます。庄内藩が西回り航路を用いたのは、『酒田市史改訂版』(1987年)によると延宝元年としますが、郡代高力忠兵衛の建議により、通米改革が行われ、藏米の大坂回漕の経費削減を行ったという記録などからは翌年の延宝2(1674)年実施とした方がいいよう

です。

これが東回り航路ですが、その成功を評価した幕府は、さらに瑞賢に命じて、日本海を西へ航海し、下関から瀬戸内海に入り大坂に

天下の台所へ効率よく運搬

前回から西鶴の「好色一代男」巻七の五に何げなく書かれていた西回り航路の利用についてこたわっています。西鶴当時の難波は、「天下の台所」として全国の物資を集散地として日本経済の中心になりました。元禄時代はインフレ経済であったといわれます。それは事実です。

西鶴は、酒田から大阪への西回り航路の利用についてこたわっています。西鶴は、西回り航路が開発されたのも、地方の生産物を一大消費地大阪へ運び込むかというのが理由です。いかに運作なく運搬がコンサートをして、もうけたいとします。

森田 雅也

が、一部を除いて、経済・社会全体を混乱に陥れるような悪性インフレではありませんでした。特に大阪は景気拡大に伴い経済需要が増大しての現象ですから、経済が混乱しているわけではありません。

難波西鶴と 海の道

【19】

西回り航路開発の理由

庄内藩が庄内米を地元で消費すれば、それはそれで経済は回るのですが、小規模な利益しか生まれません。ところが、大阪へ持つて行くだけでもうけが大きくなります。その運搬ルートを敷設・琵琶湖ルートから西回り航路に変更することで、よつ庄内藩の利潤を上げようとしたのが、前回に触れた郡代高力忠兵衛の建議だったのです。

K-I-P-O-Pという言葉はご存じと思います。この事件を準近な例で説明してみます。

この事件を準近な例で説明してみます。

K-I-P-O-Pという言葉はご存じだと思います。韓国でも日本でも十分に人気がある歌手がコンサートをして、もうけたいとします。

ソウルで1万人を集めています。

あまり、いい例では

庄内藩の高力忠兵衛で自分の名前が覚えてもらえば、日本全国でもアーティストと知られ、その経済効果は計り知れません。

ところが、歌手は悩んでいました。どの交通機関でソウルから東京へ行くのが安くあがかるかということです。

しかし、「井の中の蛙」の藩内の長老には、役下の建議で行つたこの回米ルートが気にしました。この回米ルートが気に入らなかつたのでしょう。延宝2(1674)年天和元(1681)年にはまた、敷設・琵琶湖ルートに戻っていました。続きは次回に。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

「1章1歳」構成の好色一代男

庄内藩代高力忠兵
衛と西回り航路の話。
農村支配役人の責任者
だと思います。

庄内米は、明石米、
近江米などとともに江戸時代を通じて好まれた、日本でも有数のアーランド米でしたから、売ります。豊かにできます。

役職上、少しでも米を高く売って現金収入

森田 雅也

を増やそうとしたので

難波西鶴と 海の道

【20】

さて、西鶴の「好色一代男」巻七の五の話に戻ります。その章題は「三月三十日の日帳」です。陰暦では、1カ月の日数が異なり、29日が小の月、30日が大の月と呼びました。

庄内藩が西回り航路を採用していた延宝元年より「好色一代男」刊行の天和2(1682)年の話となっています。

「好色一代男」の作品構成を単なる趣向とせず、まともに信じれば、巻七の五は53歳の話ですから、延宝3(1685)年での話となります。延宝3年の「三月」は大の月ですから、「三月三十日の日帳」と題しても正しく、庄内藩の西回り航路採用

代男」は年立てという方法で書かれています。全54章は、第1章の7歳から最終章の60歳まで、1歳につき1章ずつで構成されます。西鶴の「好色一代男」巻七の五を延宝3年の話として読むといふことになります。

延宝3年の西鶴は、4月に妻を失い、追善のためには吟千句を行っています。巻七の五では遠く海を隔てた酒田の地で大坂の恋人を思っていると、世之介の前にその彼女の面影があらわれる。という情話です。

「好色一代男」の作の前にその彼女の面影があらわれる。という情話ですが、巻七の五は53歳の話ですから、延宝3(1685)年での話となります。延宝3年の「三月」は大の月ですから、「三月三十日の日帳」と題しても正しく、庄内藩の西回り航路採用

時間が持つようになつた」としますが、むしろ「好色一代男」は年立てといふことになります。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

適材適所 無駄なく働く

西鶴の「日本永代藏」にも書かれて、船の運営は、まさに「舟人馬かたの道」といふべきである。そこで、その「舟人馬かたの道」を、この連載で、じっくりと見てみたい。

酒田の繁栄ぶり「日本永代藏」にも

西鶴の「日本永代藏」(元禄元(1688)年刊)にも、酒田の繁栄ぶりが描かれています。つまり、「舟人馬かたの道」の「舟人馬かたの庭」は、一章まるごと酒田の豪商の描写から始まります。しかし、その書き出しは北国の雪深さの描写から始まります。まず、「北国の雪深、毎年春丈三尺降らぬと云ふ事なし。神無月(10月)の初めより、山道を埋づみ、人馬の通り絶えて、明年の運営の声をも聞かず」とします。つまり、酒田で

「舟人馬かたの道」の「舟人馬かたの庭」は、一章まるごと酒田の豪商の描写から始まります。しかし、その書き出しは北国の雪深さの描写から始まります。まず、「北国の雪深、毎年春丈三尺降らぬと云ふ事なし。神無月(10月)の初めより、山道を埋づみ、人馬の通り絶えて、明年の運営の声をも聞かず」とします。つまり、酒田で

「舟人馬かたの道」の「舟人馬かたの庭」は、一章まるごと酒田の豪商の描写から始まります。しかし、その書き出しは北国の雪深さの描写から始まります。まず、「北国の雪深、毎年春丈三尺降らぬと云ふ事なし。神無月(10月)の初めより、山道を埋づみ、人馬の通り絶えて、明年の運営の声をも聞かず」とします。つまり、酒田で

西鶴の「日本永代藏」(元禄元(1688)年刊)にも、酒田の繁栄ぶりは描かれています。つまり、「舟人馬かたの道」の「舟人馬かたの庭」は、一章まるごと酒田の豪商の描写から始まります。しかし、その書き出しは北国の雪深さの描写から始まります。まず、「北国の雪深、毎年春丈三尺降らぬと云ふ事なし。神無月(10月)の初めより、山道を埋づみ、人馬の通り絶えて、明年の運営の声をも聞かず」とします。つまり、酒田で

森田 雅也

は4ヶ月弱、雪で道が閉ざされて、鮮魚どころか干物も手に入れられず、いやが心にも、精進の生活を送っているのです。

【21】

難波西鶴と 海の道



「日本永代藏」卷二の五「舟人馬かたの庭」
(関西学院大学図書館所蔵)

かれます。

「表口三十間(54メートル)、裏行六十五間を、家蔵に立ちづけ、台所の有り様、目を見ましける。米・味噌出し入れの役人(係)、焼木の請け取り(係)、肴奉行(魚係)、料理人、椀(わん)の部屋を預り、菓子の明春煎(まつばせせん)茶にしておくりぬ。諸事を兼々たくはへ置きし故に、渴命に及ばざりき」とするように、北国の冬は積物を用意し、家にてもり、近所付き合いもなく、半年、安い煎じ茶ばかりを飲んで過ぐすのです。生き残らえることができるのかは、いろいろな物の苦えがあるからだたというのであります。

そこで、いよいよここに坂田(酒田)の町に、鐘屋といへる大門の家の繁栄ぶりが描

ります。

「表口三十間(54メートル)、裏行六十五間を、家蔵に立ちづけ、台所の有り様、目を見ましける。米・味噌出し入れの役人(係)、焼木の請け取り(係)、肴奉行(魚係)、料理人、椀(わん)の部屋を預り、菓子の明春煎(まつばせせん)茶にしておくりぬ。諸事を兼々たくはへ置きし故に、渴命に及ばざりき」とするように、北国の冬は積物を用意し、家にてもり、近所付き合いもなく、半年、安い煎じ茶ばかりを飲んで過ぐすのです。生き残らえることができるのかは、いろいろな物の苦えがあるからだたというのであります。

そこで、いよいよここに坂田(酒田)の町に、鐘屋といへる大門の家の繁栄ぶりが描

ります。

「表口三十間(54メートル)、裏行六十五間を、家蔵に立ちづけ、台所の有り様、目を見ましける。米・味噌出し入れの役人(係)、焼木の請け取り(係)、肴奉行(魚係)、料理人、椀(わん)の部屋を預り、菓子の明春煎(まつばせせん)茶にしておくりぬ。諸事を兼々たくはへ置きし故に、渴命に及ばざりき」とするように、北国の冬は積物を用意し、家にてもり、近所付き合いもなく、半年、安い煎じ茶ばかりを飲んで過ぐすのです。生き残らえることができるのかは、いろいろな物の苦えがあるからだたというのであります。

そこで、いよいよここに坂田(酒田)の町に、鐘屋といへる大門の家の繁栄ぶりが描

難波西鶴と 海の道

【22】

森田 雅也

前回より西鶴の『日本永代藏』元禄元(1688)年刊]巻二の五「舟人馬かた鎧屋の庭」に描かれた酒田の豪商「鎧屋」の様子を取り上げています。雪深い山形の庄内は半年近く、人もモノも交流が絶たれます。芭蕉が「奥の細道」の旅に出たのは元禄2(1689)年3月27日のことです。新暦では5月16日になります。同年9月6日(新暦10)

月18日)、大垣に到着するまで歩いた旅はた

くみに東北の雪を避けています。

ですから、「日本永代藏」の「世に船ほど、重宝なる物はなし。」

とは切実な北国の人々の本音なのでしょう。

酒田の人々にとっても、物流は経済の要です。

西鶴の豪商「鎧屋」の本音なのでしょう。

酒田の人々にとっても、物流は経済の要です。

西鶴の豪商「鎧屋」の本音なのでしょう。

いたれりつくせりのもてなし

よのです。「好色一代男」で酒田の世之介が米商人として長期滞在していたように、商人にとって何よりも大事なのは、宿泊場所の提供だったのです。

卷二の五では鎧屋の様子がさらに続きます。「亭主、年中袴を着て、すこしも腰をのさず。内儀は、かるひ衣装をして、居間をはなれず、朝から晩まで、笑ひ顔して、なかなか

上方の問屋とは各別、人の機嫌をとり、身過ぎ大事に掛けける」と上方の問屋のようにお

うのは、少しサービス過剰の鎧屋のありさま。もともとこれは西鶴独特的のユーモアかもしれませんね。

さて、さて、「座敷、数か

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

酒田の豪商「鎧屋」

おまけに「都にて運葉女」といふを、所謂にて「いやぐ」といへる女三十六七人、下に綿物、上に木綿の立て鳴を着て、大かた今織りの後ろ帯、これにも女がしら有りて指図をして、客に一人づつ、寝道具あけおろしのために付き置きける」といえるでしょう。

「寝道具あけおろし」は、その職種の方便で、一人ずつ付けて、その差配役まで置くといふのです。

「運葉女」とは、得意客の接待、給仕、寝道具の相手などをつとめた女を指します。かつて軽はずみな、品行の悪い女を「はすっぱ

な」と呼んでいましたが、ここに由来しています。

客の給仕や夜とぎを

する女を大勢雇うとは、いかなる問屋かといふかしく思われるかも知れませんが、これも当時の社会運営からすれば、若い手代など

海千山千の商売人集つた「燈屋」

**難波西鶴と
海の道**

森田 雅也 は独りもなし

山形県の北部、日本海に面する酒田は、最上川の川運を利用して庄内米の大集散地になりました。寛文12(1672)年、河村瑞軒(1672)が貯米庫を設け、大坂へ向けての航路を開拓しました。江戸時代を通じ、近江商人のよう

引き続き、西鶴『日本永代藏』元禄元(1688)年刊「舟人馬かた燈屋」の庭の酒田の豪華燈屋の様子です。

「十人よれば十國の客、難波津の人あれば播磨網干の人もあり。山城の伏見衆、京・大津・仙台・江戸の人、入りまじりての世間喧嘩し、いづれを聞きても皆かしこく、その一分をほきかねつる

商人知る貴重な学習の場

【23】

大問屋「燈屋」には、日本の物流の要ともいえる筋金入りの商業マシンが諸国から大集合しています。「難波津の人」は、もちろん大坂難波の米商人。「好色一代男」世之介が米商人という設定で酒田に来ていた」とも書きましたね。

「播磨の網干衆」は播州米を商う姫路の米穀商です。揖保川水系の干港を有していましたので、大商人が多くいました。ちなみに西鶴の頃より少し後の世になると、酒田には本間家という大商人が現れます。ですが、初代は播磨の網干で修行しています。何か、米所同士のビジネス上の深いさずな

があったのでしょうか。何事ももつもばにかまへて、人の跡につきて利を得る事かたし。又、大気にして主人に損かけぬる者は、よき商賣をして活躍しました。そして、「京・大津・仙台・江戸」のビジネスマン。皆が入り交じっての情報交換。誰もがその情報を生かしているというのです。その商人たちは、「年寄りたる手代は、我ためになる事をしておるが投機的な商売をやつてのけるものもいる」というのです。皆したたかです。海千山千のビジネスマンが集まる燈屋の実態は、当時の日本の商人を知る貴重な学習の場であったといえますね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

抜け目ない商人はだれ?

難波の西鶴『日本永代藏』〔元禄元（1688）年刊〕巻一の五「舟人馬かた鎌屋の庭」は遠く海を隔てた酒田の豪商「鎌屋」の様子を活写しますが、商人魂にも及ぶ教訓も教えてくれます。

前回の本文に引き続き、「(一)の間屋に数年あまた商人形気を見及びけるに、はじめの馬おりより、萬籠をあげて、都染めの定紋

付に道中着物を脱ぎかへ、鞆皮取りすて、新かしき足袋・草履、鞆撫・新かでつけて咬楊枝、誰拂・新かに見すぐき采財をうくろひ、「このあたけりの名所、見に行く」とて、用を勤めし手代を案内につれる人、今まで幾人か、して出られしためしなし」という記述があります。

冒頭の「商人形気」を「数年」「あまた」は西鶴だとじうじうとおきま

森田 雅也

難波西鶴と 海の道

【24】

なるでしょ。この部分をもってしても、西鶴は酒田まで頻繁に通っていたという」とになるのですが、そのせんさくはさておきま

す。「いよいよ、跡月中頃の書状の通りと相場に着替え、ヒキガエルの背中の鞆のよう革で作った道中用の刀の鞘袋（鞆皮）を取り捨て、新しい足袋、草履に履き替えて、鞆の毛を油でなでつけ、くわえ楊枝で格好をつけ、誰に見せつけたいのか、お洒落な格好をして、手代の案内で、色街に繰り出して

これに比べて、続いだのが違うのです。金額に到着するや、は、気付け所各別なり。ここに着くといなや、重若ひ者に近寄り、なんざくはさておきま

る商人は、気のつけないところに着くといなや、重若ひ者に近寄り、なんざくはさておきま

す。この酒田の鎌屋で見ていると、鎌屋に着するや、遊び着の紋付に着替え、ヒキガエルの背中の鞆のよう革で作った道中用の刀の鞘袋（鞆皮）を取り捨て、新しい足袋、草履に履き替えて、鞆の毛を油でなでつけ、くわえ楊枝で格好をつけ、誰に見せつけたいのか、お洒落な格好をして、手代の案内で、色街に繰り出して

は程」と、入る事ばかりを尋ね、千鈞のぬけ自のない男、間なく、上がたの巨那殿より身代よしとなられるける」と記します。

こういう面に気配りができる商人は、大概成功します。千鈞に持ち手を作るため目を抜くように、抜け目ない

か」「所々で色色はかはりたる事はないが」「日々で色色はかはる物にて、日和見さだめがたく、あの山の雲たちは、二百日をまたに風とは御らんなされぬか」「当年の紅花の出来は」「青苧の花の出来は」「青苧は何程」と、入る事ばかりを尋ね、千鈞のぬけ自のない男、間なく、上がたの巨那殿より身代よしとなられるける」と記します。

先述の遊蕩目的の商人で、成功した者はいません。主人待ちながら、まもなく主人に

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

西鶴ならではの世界観構築

難波の西鶴は、北前の拠点の一つ、酒田の豪商「鎌屋」を描くことで、出世する商人の見分け方まで書いています。物には仕やうの有事ぞかし」と結論づけています。

難波の西鶴は、北前の拠点の一つ、酒田の豪商「鎌屋」を描くことで、出世する商人の見分け方まで書いています。物には仕やうの有事ぞかし」と結論づけています。

商人の行動から万物の理

西鶴の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと言えるでしょう。続いて、「この鎌屋も、武蔵野の「ひん」広く取りしめもなく、間屋長者に似て、何国にありますか?」と尋ねます。

西鶴の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと言えるでしょう。続いて、「この鎌屋も、武蔵野の「ひん」広く取りしめもなく、間屋長者に似て、何国にありますか?」と尋ねます。

西鶴の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと言えるでしょう。続いて、「この鎌屋も、武蔵野の「ひん」広く取りしめもなく、間屋長者に似て、何国にありますか?」と尋ねます。

難波西鶴と海の道

【25】

森田 雅也

の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと

言えるでしょう。

西鶴の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと

言えるでしょう。

西鶴の世界観の構築は、西鶴が西鶴たるゆえんと

て書き進めた鎌屋なのに、武蔵野台地のように手広く商いすぎで、世間の問屋同様、その経営状態は危うい

といふのです。ところが、西鶴はすこさず、鎌屋の優れている点をあげます。他の問屋は、堅実な固定収入の商いに嫌気がさして、別の商売に手を出してしまい失敗するが、鎌屋は、問屋商売を専一にして頑張っているというのです。

西鶴は、そのしたたり余り、元日の五つ前から、それより年中取り組む金銀を、長時におじ穴を開けて、これにうち入れ、十二月十日までまつて勘定を仕たてる」と西鶴は書きます。

ば、かなりす衰微して、家久しからず」

は正月の朝八時頃にならないと分からぬもの

で、普通は予測がつかないもの。なのに鎌屋は、もつけのあった時に来年度の台所用品を買ってしまったなどして、ちやっかりと着実に金銀をためていきます。

西鶴は、そのしたたかさこそ、「たしかな

は、算用のならぬ事なり。鎌屋も仕合せの有

ても夜の寝らるる宿なり」だとして、絶賛してこの章をじります。

西鶴は、そのしたたかさこそ、「たしかな

は、算用のならぬ事なり。鎌屋も仕合せの有

ても夜の寝らるる宿なり」だとして、絶賛してこの章をじります。

（関西学院大学文学部
文学言語学科教授）

一年中の商いの収支

西鶴と山形庄内との深い関係

西鶴が酒田より取材して完成した話は「好色一代男」「日本永代藏」だけではあります。「西鶴名残の友」巻三の五「幽靈の足よは車」にも、酒田の港、袖の浦の法師の話を載せています。難波西鶴と日本海山形庄内との関係は思いのほか深かつたと言えるでしょう。それはすべて米相場の情報戦に起因します。

米相場の情報戦

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

西鶴作品に米相場で大もづけして成功した商人は多く描かれますが、最も有名なのが、

『西鶴藏留』巻一の「津の国のかくれ里」
〔貞享5（1688）年刊〕の鴻池善右衛門です。

難波西鶴と 海の道

【26】

森田 雅也

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

西鶴の「好色一代女」
〔貞享3（1686）年刊〕巻三の一には、「跡がさがつても賣徳なる物、米の相場、あげまきががつき」とあります。後で下がつても買得なのは、米の相場と遊女「あけまき」の目つきだというのです。遊女「あけまき」は、「助六」の掲巻とも、西鶴当時実在した大坂新町藤屋の総角ともいえます。西国米大分賣ひ込み、白い米相場にからむ庶民の成句です。

海上交通の要衝 佐渡

森田 雅也
神龜元(724)年
 運流の地に定められ、
 ここまで、難波西鶴、順徳上真、日蓮、世阿
 と海の道を松前、酒田、
 佐渡と言えば、佐渡、弥などが流されまし
 と見えてきましたが、次
 は佐渡です。
 島。日本で一番大きな島として有名ですが、
 その歴史は独自の足跡
 を残しています。佐渡は、大化革新後に北陸
 道7カ国の中一つとして、越後國から分かれ
 て成立しました。小さくても一国であったの
 です。

佐渡は、西廻り航路開
 始の際、風待港として
 定められました。相川
 金山の算出金の積み出し港としても栄えた佐
 渡の小木ですが、近くに廟もあり、一つの文
 化圏を形成していました。

「存知のように、芭
 蕉は佐渡島には渡ら
 ず、元禄2年7月7日、
 〔芭存〕のよろま人形」
 という挿入人形は、独
 1) 年には、相川金山
 が開発され、江戸幕府
 の直轄領となつたので
 す。(『国語大辞典』)
 また、佐渡は世阿弥

芭存も「本朝校除
 事」に佐渡島からの人
 が事件に巻き込まれる
 話を挙げていますが、
 佐渡の花街は出て来ま
 せん。ただ、「好色一
 代男」巻三の五には、

難波西鶴と 海の道

[27]

特の道化人形として貴重な伝統芸能の残存の場といえるでしょう。

その自然や漁場としての素晴らしさはさておき、日本海に浮かぶ巨大なこの島が、海上交通、海運の要衝の地になり得たことはいうまでありません。

佐渡には、両津、赤泊、小木などの良港を持ちますが、とにかく水港は、西廻り航路開発の際、風待港として定められました。相川金山の算出金の積み出し港としても栄えた佐渡の小木ですが、近くに廟もあり、一つの文化圏を形成していました。

芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる話を挙げていますが、芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる」とを断念したところです。残念ですね。

森田 雅也

神龜元(724)年
 運流の地に定められ、
 ここまで、難波西鶴、順徳上真、日蓮、世阿
 と海の道を松前、酒田、
 佐渡と言えば、佐渡、弥などが流されまし
 と見えてきましたが、次
 は佐渡です。
 島。日本で一番大きな島として有名ですが、
 その歴史は独自の足跡
 を残しています。佐渡は、大化革新後に北陸
 道7カ国の中一つとして、越後國から分かれ
 て成立しました。小さくても一国であったの
 です。

佐渡には、両津、赤泊、小木などの良港を持ちますが、とにかく水港は、西廻り航路開発の際、風待港として定められました。相川金山の算出金の積み出し港としても栄えた佐渡の小木ですが、近くに廟もあり、一つの文化圏を形成していました。

芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる」とを断念したところです。残念ですね。

芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる」とを断念したところです。残念ですね。

芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる」とを断念したところです。残念ですね。

芭存も「本朝校除事」に佐渡島からの人気が事件に巻き込まれる」とを断念したところです。残念ですね。

あまり描かれなかつた佐渡

難波西鶴と 海の道

森田 雅也

衛門殿、鎧をはずし
ました」と言い捨てて
先を急ぎ去った。

佐渡の話をしていますが、西鶴『武道伝来記』「貞享4(1687)年刊」巻五の三「不斷心懸けの早馬」の事件発端部に佐渡の国が出でています。佐渡の奉行に仕えていた大番頭の椿井民部は、ある時差急の御用で召されたので、早馬で道を急いでいました。その時、樋島利右衛門とすれ違いましたが、下馬せず、「判右

椿井民部のとつた行為は作法にかなつたものですが、その言葉を聞いています。

機密事項あった?

[28]

礼として一方的に腰を立て、一門集めて、どういった意趣返しをすべきか相談をしました。一族の長老は、民部3千石、判右衛門300石であるからといつても、民部は人を見下すような人物ではないずしました」と言葉をかけたはずだと冷静さを求めたのですが、判右衛門は聞き入れず、身分にかかわらず、馬上で人とすれ違う場合、下馬してそれをどけるのが作法でしたが、急いでいる時には「鎧をはずす」といって、代わりとしていました。

西鶴当時、佐渡金山の労働者は、佐渡近郊の者から流刑人に変わったときで、機密事項もあり、民部は声をかけたものの、それが聞こえたかったでは仕方ない、この上は果たし合いで結果を出そとと日時と場所を提示します。

この経緯を聞いた者があって、奉行に報告があったといふ、奉行は2

人の行為は武道の道にかなつていると仲裁し、2人はこの上意を了しました。ありがたく受け止めます。

物語はここで終わらすに、椿井民部が佐渡を勝手に出奔して、江戸に向かう話になるのです。佐渡から離れた話となります。

西回り航路として

が、西鶴作品には、ほんと出でません。西回り航路として

は、酒田を出て、能登半島を、石川県の輪島、福浦(石川県羽咋郡富来町の地名)といった

港経由で越え、兵庫・中国瀬戸内海へと向かうために偶然寄る調整の寄港地だったのです。目的の地ではなく、主役になりづらかったかの者から流刑人に変わったときで、機密事項もあり、あえて、佐渡の町の詳で、新潟地域 자체をあつて、民部に届けます。

民部は声をかけたものの、それが聞こえたかったでは仕方ない、この上は果たし合いで結果を出そとと日時と場所を提示します。

この経緯を聞いた者があって、奉行に報告があったといふ、奉行は2

いう間に通り過ぎてしまいますが、新潟地域は東北文化圏と北陸文化圏をつなぐ連絡路のような役割だったのかかもしれませんね。

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

西鶴は敦賀をどう描いた?

難波西鶴と



【29】

森田 雅也

平通盛、南北朝時代の
新田義貞、戦国時代の
朝倉一族がそれぞれ抱難波西鶴と海の道に
ついて、松前、酒田、
佐渡、新潟と見てきま

したが、次は西回り航

路に入っていない敦賀

です。以下引用です。

天正元(1573)年、町数

41・人口1万5千余を

数えた。翌寛文4年入

津船2670艘、米75

万6千俵、大豆10万俵

が陸揚げされた。しか

が、馬鹿を稼ぎ、物資を輸

敦賀津は、北陸道

で琵琶湖水運と連結し

秀吉の時、蜂屋頼隆つ

いで大谷吉継が敦賀城

廻り5万石を領し、笙

ノ川西岸に平城を築

京畿に近接するため、

若狭を除く北陸道六カ

(国史大辞典)より)
引用が長くなりまし

たが、つまり、敦賀は

長く、北陸道と琵琶湖

水運をつなぐ要衝であ

事上の要地となり、敦

賀津を眼下に望む金ヶ

崎城には、源平合戦の

氏・小浜京極氏を経

難波西鶴と海の道に
ついて、松前、酒田、
佐渡、新潟と見てきま

したが、馬鹿を稼ぎ、物資を輸

送した。鎌倉末ころか
ら広くその活躍が知ら
れる。近江の大津・坂本、越前の敦賀、若狭
の小浜、山城の淀・山崎・木津などの交通の
要所に集住し、京都・
奈良へ物資を運送する
仕事を從事した。また、
室町中期には運送業だ
けではなく商人的性格

て、寛永11(1634)年酒井氏が領知し、川西の浜手に茶町を立て、今橋を架けて川中の旧町と結んだ。

寛文期には町の整備も完了し、敦賀は最も元氣な都市として、繁栄期を迎えた。寛文3(1663)年、町数

41・人口1万5千余を数えた。翌寛文4年入津船2670艘、米75万6千俵、大豆10万俵が陸揚げされた。しかし同12年河村瑞賢によつて西回航路が開発・整備されると、以後急激に海上交通が衰微した。

(国史大辞典)より)
引用が長くなりまし
たが、つまり、敦賀は
長く、北陸道と琵琶湖
水運をつなぐ要衝であ
ったわけです。琵琶湖水運は上方

畿内という中世・近世初期に限りなく栄えた地域です。ところが、これも重要な地域です。ところが、この敦賀と琵琶湖をつなぐルートが陸路しかなかつたのです。

そこで活躍したのが「馬借」でした。中世・近世の運送業者。馬の背に荷物をのせて馬賃を稼ぎ、物資を輸送した。鎌倉末ころから広くその活躍が知られる。近江の大津・坂本、越前の敦賀、若狭の小浜、山城の淀・山崎・木津などの交通の要所に集住し、京都・奈良へ物資を運送する仕事を從事した。また、室町中期には運送業だけではなく商人的性格

多くは問屋などの統制下にあつたが、在地の大消費地と結ぶ窓口ですから、これも重要な地域です。ところが、この敦賀と琵琶湖をつなぐルートが陸路しかなかつたのです。

つまり、敦賀(海運の拠点)ルートは、馬借の陸運と琵琶湖の湖運、淀川の川運が抱き合わせだったわけです。

この無駄を省こうと何度となく、敦賀運河開削案が計画されます。が、いずれも頓挫してしまいます。西回り航路が完成して、繁栄が

しまいます。西回り航路が完成して、繁栄が

が、いずれも頓挫してしまいます。西回り航路が完成して、繁栄が

が、いずれも頓挫してしまいます。西回り航路が完成して、繁栄が

その敦賀をいかに描いたか、次回からです。

(関西学院大学文学部
文学言語学科教授)

淀川に並び繁栄した敦賀港

前回は、江戸時代の敦賀港の歴史的な繁栄と衰退の説明でした。西鶴の『日本永代蔵』[元禄元(1688)年刊]巻四の四「茶の十徳も一度に皆」は、当時の敦賀を次のように描写します。「越前の國敦賀の港は、毎日の入舟、判金二枚なりしの上米ありといへり。淀の川舟の運上にかはらず。万事の間丸、繁昌の所なり」

にぎわいの中にも用心深さ

この当時、淀川水系が繁栄を誇る上方を支えました水上流通の要で、船の通行料が並べきだつたことは容易に想像ができます。が、その収益と同程度に舟の出入りがあった

敦賀港は、毎日、入

のが、当時の敦賀港た

港してくる舟が多くて、1日の入港税(上米)が平均して大判1枚(10両・約100万円)、年間約4億円近い税収入になるのです。が、これは天下の淀川の運上金と同額だと言うのです。

次に眼を陸に転じれば、「殊更、秋は立ちつく市(市)の借屋、目前の京の町」とします。ことに氣比神社の秋の祭礼のころになると、市の仮小屋が立ち続き、まるで目の前に京の町を見えるやうなにぎやかさであったというのです。

原文には、氣比神社の市とありませんが、敦賀と言えば氣比神社です。秋の祭礼に市が立っていたことも知られています。苦難も(奥

の細道)で訪れた(元禄2年8月14~15日)

名所ですので、その箇所をあげます。

難波西鶴と海の道

【30】

「あすの夜もかくあるべきにや」といへば、の津に宿をもどひ。それが繁盛しているので

す。

「越路の音ひ、なほ明

夜の陰晴はかりがた

し」とあるじに酒す

められて、氣比の明

神に夜參す。仲哀天皇

の御廟なり」。

遊行上人ともかかわ

り深い、敦賀の名所気

比神社は西鶴も知ると

ころだつたのでしょ

う。続いて敦賀の気風

は、「男まじりの女尋

常に、その形氣、北国

の都ぞかし」とされて

います。男の中に混じ

る女性の風俗も北国の

都と呼ぶにふさわしい

上品さだと言うので

す。そんな人出に、「芝居の」と心がけ、巾着

は、手のとひく事にあらず。この中にも、

錢を一文、只はとされ

しの世や」とします。

このにぎわいをあて

にして、芝居小屋が立

ち、巾着切り(スリ)

も集まるけれど、人々

は賢く、印籠、鼻紙袋

(貴重品入れ)にも用

心しているので、錢一

文もとれない、盗人に

は住みにくい世になつ

たというのですが、こ

れは敦賀の人々の用心

深さ、賢さを讃えてい

るのでしきうね。

(奥西学院大学文学

部文学言語学科教授)

難波西鶴と



[31]

森田 雅也

引き続ぎ、西鶴の『日本永代藏』元禄元(1688)年刊巻四の四「茶の十徳も一度に皆」に描かれる敦賀の話です。敦賀の人々の用心深さ、賢さをたたえた後、以下のように続けます。

「兎角正直の頭をきげて、当座の目那あひしらひに物質ひをまねき、商人手の者は世をわだけかねず」

何につけても、と

むかく正直に頭を下げて、その場限りの客に

でも、お得意の曰那客のようない扱いをして、諸国の商売人たちを招く。そんな商売上手の商人は、生活に困ることがない。

この教訓は、立派な商人を志す者への一般的な教訓ですが、これは、今から紹介する、敦賀の悪徳商人利助へ

の利助という意味だつたのでしよう。

「町はづれに、小橋の利助とて、妻子も持たず、口ひとつをその

日過ぎにして才覚男、荷ひ茶屋しをうしく拵へ、その身は玉だすきをあけて、くくり

利根に、烏帽子をかしげに被ぎ、人よりはやく市町に出で、「ゑびすの朝茶」といへば、かわかぬ人までも」の

です。

「荷ひ茶屋」とは、あえて訛せば移動喫茶店となるでしょう。1

杯いくつのお茶売りから、それを「えびす茶」として売るという創意

我が身一つで、その日暮らしてはいる利口な男が暮らしていた。しゃれた荷ひ茶屋をしらえて、自分の衣装はたすぎ掛けに、くくり

り袴姿もさわやかに、鳥帽子を面白くかぶり、他の人より早く朝市に出て、「えびす様の朝茶だよ」と呼び込

むと、縁起をかつぐ商人たちは、喉が渇いて飲んで、相場より高い12文ずつを売り上げ

西鶴の『日本永代藏』では、親譲りではなく、知恵才覚だけで、一代で金持ちになるのを商人の理想としますが、「小橋の利助」は、まさにその典型です。ところが一転、商人道を外れる利助。次回に続

くてもうかり、すぐに元手を作つて、葉茶店籠に投げ込んで行ったので、毎日積もり積もて、大間屋となれり」

敦賀の町外れに「小橋の利助」と呼ばれる、妻子を持たず、（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

敦賀の悪徳商人利助

創意工夫だけで大もうけ

敦賀の悪徳商人利助へ

の批判であり、プロローグなのです。そう考えれば、前回、敦賀の人を持ち上げたのは、敦賀人の特殊例として

正しい商売の道を外れて

引き続き、西鶴の『日本永代蔵』(元禄元(1688)年刊)巻四の四「茶の十徳も一度に皆」に描かれる「小橋の利助」の話です。

これまで、我がはたらきにて分限になり、人のほめ草なびき、歴々の乞賛にも願ひしに、「毫万両よりうちにて女房をよばず、四十まではおそからず」と、当分の物入りを算用して銀の溜まるを

森田 雅也

懇みに、淋しく年月を送りぬ。

前回見たように、「小

橋の利助」は、敷質の朝市で縁起を損ぎながら商人相手に「えびす茶」

と名づけて普通の茶を

売り、多額の利を得ま

した。このことは合法

的ですし、西鶴の好む「知恵・才覚」で親譲りなく金持ちになつた、商人のかがみともいうべき人物でした。

ですから、ここまで

は自分の力だけで「分

限(金持ち)」になつたと世間の人々の評判

難波西鶴と



【32】

人付き合い絶え惨めな最期

もよく、立派な商家から縁談を持ちかけられるほどだったのです。

と云ふが利助は「毫萬両(約十億円)貯まるまでは独身でいた。結婚など40歳までは遅くない」と、自らのもうばかりを気にして、お金が貯まるのだけを楽しみとして、寂しくひとりぼっちの人生を送っていました。そんな月日を送っていると、それより道ならぬ悪心発り、越中・越後に若い者をつかはし、捨り行く茶の煮辛を買ひ集め、京の染物に入る事と申しなし、呑茶にこれを入れさせて、人しづれずこれを商売しければ、一度は利を得たのです。

越中・越後に若い手代たちを派遣して、お

て家業へしに、天にそれをとがめ給ふにや、この利助、俄に乱人となりて、我ど身の事を國中に触れまはり、「茶辛茶辛」と口をただけば、「さてはあの分限、さもしき心底より」と、人の付合ひ絶えて、裏面をよべど行く人なく、おのづから次第よわりに、湯水のかよひ絶えて、既に末期におもひ、「我今生の思ひ晴らしに、茶を一口」と涙を漏す。という事態になりますつまり、利助は正しい道から外れて、悪い心が起きてしまつて、湯水も喉を通らなくなつて、末期の水にせめ放されて、体も弱り、湯水も喉を通らなくなつて、お茶を一口と涙を流しました。惨めですね。

茶を煮出した後の捨てた茶がらを買い集め、「京都の茶染めに用い」と触れ込みながら、その実は飲料用の茶に混せて売ったのです。もちろん、一時はもうかりますが、天がこれを行つた惡事を國中に言ひ回り、「茶がら茶がら」とわめき立てました。すると、あの金持ちは下劣な心の持ち主だったのだといふ付合ひもまた、「我今生の思ひ晴らしに、茶を一口」と涙を漏す。という事態になりますつまり、利助は正しい道から外れて、悪い心が起きてしまつて、湯水も喉を通らなくなつて、末期の水にせめ放されて、体も弱り、湯水も喉を通らなくなつて、お茶を一口と涙を流しました。惨めですね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

金銀にとりついた最期

前回、西鶴の『日本永代蔵』〔元禄元(1688)年刊〕巻四の「茶の十徳も一度に皆」の福井敦貞の「小橋の利助」は、茶がらを煮出して「えびす茶」として販売し、大もうけしながら、精神に錯乱をきたし、医者も見えた。

前々回までの利助は、無産の振り売りの身から知恵才覚だけでも金持ちになるといふ、まさに商人のかぎみでした。どうが今風に言う「商品偽装」をやってしまったわけです。

翌茶用のお茶に茶が重ねておらず、このままで紹介します。

前回、西鶴の『日本永代蔵』〔元禄元(1688)年刊〕巻四の「茶の十徳も一度に皆」の福井敦貞の「小橋の利助」は、茶がらを煮出して「えびす茶」として販売し、大もうけしながら、精神に錯乱をきたし、医者も見えた。

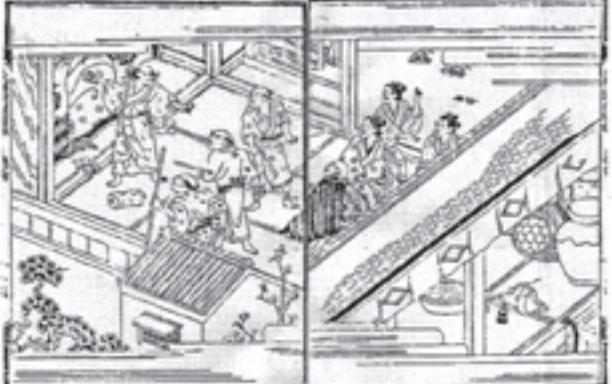
森田 雅也

らを用いて客に売るとは商売人として言語道断天罰を受けたのか、利助の体はどうにもし

(末期の水代わりのお茶を)目に見せても、咽に因果の閑居りて、息も引いて

角のない地獄の青鬼

【33】



関西学院大学図書館所蔵『日本永代蔵』巻四の四枚絵より

利助は店の者に内蔵(金庫)の金銀を全部、足もとや枕もとに並べさせ、死に際にもかかわらず、穏やかな精神状態になることができず、「自分が死んだら、この財産はいったい誰のものになるのであるか。考えれば残念だしうれしい」と、金銀にしがみつき、かみつき、血の涙を流し、顔

というように、どうどきで、顔つきはざなが、角なき青鬼の「とし」。
重ねておらず、その末期のお茶もまた、「往生際の

悪い」という醜態ですが、人に心を開かず、金も受けがすべての人

が、人生の終え方と言えるかも知れません。しかし、まだ暴れます。
面影屋内を飛びぬぐり落ち入るを押し付ければよみがへりして、銀を尋ねる事三四、五度に及べり。地獄の青鬼は家の中を飛び回り、人々が押さえ込

と、使用人たちも利助の病室に近づかなくななり台所に集まり、護身用の道具を持って身構えて、2、3日。やつかりぎ。

と静かになつたので、皆で確認に行くと、すごい形相で金銀にとつけたまま「くなつている利助の姿があり、皆々恐怖で腰を抜かしてしまいました。

(関西学院大学文学部
文学言語学科教授)

難波西鶴と 海の道

【34】

森田 雅也

西鶴の「日本永代藏」

〔元禄元（1688）

年刊〕巻四の四「茶の

十徳も一度に皆」の福

井敦賀の「小橋の利助」

は、茶がらを煮出して

「えびす茶」として、

人々をだまして販売し

大もつけしますが、天

罰が下ったのか、悲惨

な死を逃げます。

さらにその遺体を焼

き場に運ぶ途中、春の

の夕方、大雨が一軒に

わかにかぎり、大雨

とともに雷火が落ち、

利助の遺体を奪つてい
きます。まさに業の恐
ろしさですが、この場
にいた人々はおびえに
おびえて逃げ惑いま
す。もはや怪奇話です
ね。

利助の財産処分に遼
い親戚が集まります

が、この利助の執着が
こもる遺産に気持ち悪

がり、誰一人はしの
がり、誰一人はしの
せん。

一方、亡くなつた利
助はそうとは知らず、
また金銀への執着が断
ち切れず、この世をさ
まい、生前の売掛金
の取り立てに幽靈とな
つて現れます。

利助の幽靈を迎えた

利助の悲劇「敦賀の消長」を象徴

日本海一の茶の取引港だつた敦賀

助にもうつたお仕着せを脱ぎ捨てて皆出て行つてしましました。仕方ありませんので利助の遺産は処分され、すべて日那寺（菩提寺等）に寄進されます。が、住職がどんでもない破戒僧。京都に上つて男色、女色の二道にて放置されたことを思つて非常に悲しくまさしく悲劇と言えるのではないでしょうか。西鶴もこの話には珍しく説教を載せます。それは、同じ金もうけをするにもやつてはいけない仕事があると例を挙げているのです。

つまり、一定のモラルある商売をせよといふわけです。利助はルール違反の商人なので天に裁かれたという解釈になります。それではなぜ、敦賀の話なのでしょう。

実は、かつての敦賀は日本海側では一番のお茶の取引港だったのです。それが西回り航路の開発とともにその地位を奪われます。敦賀の消長は利助の悲劇に象徴されているのかも知れませんね。

犬殺し、乳飲み子を育てる「一時金をもらいながら餓死させる」と、溺死人の髪の毛を抜いて売る」となどです。

き、相手が幽靈だと承知しながら、さつたりと返済しました。これでは喜劇仕立てです。

きで、利助の遺した家を買う者がなく、そのまま「化け物屋敷」とされてしまう。

西鶴もこの話には珍しく説教を載せます。それは、同じ金もうけをするにもやつてはいけない仕事があると例を挙げているのです。

計画倒産、詐欺師と組んで持參金付の女房をもらう」と、寺の祠をもつて、丹銭を借り集めておいて破産すること、ばくち打ちの仲間入り、山師稼業、偽物の朝鮮二ソジン売り、美人局、

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

難波西鶴と

海の道

【35】

森田 雅也

前回まで西回り航路から外れた福井敦賀の話でした。敦賀は西鶴のころから徐々に衰微しますが、同様に戦国期、近世初期に栄えたながら、西回り航路に商業ルートを奪われた港として、小浜があります。

「西鶴諸國はなし」
〔貞享2（1685）年刊〕巻一の三「水筋のぬけ道」に若狭小浜の話が載っています。

小浜に漁師の使う網

糸の商売でやつけて

裕福に世間を渡る越後屋という店がありました。この店にひさとい下女が年季奉公していましたが、京屋の庄吉という行商人と恋仲になりましたが、京屋の庄吉になり、将来を誓い合いましたが、京屋の庄吉となりました。

ます。ショックを受けたひさは若狭の海に投身自殺して、行方不明になってしまいます。

そのころ、奈良秋穂の里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

若狭——奈良の水筋の存在利用

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

その里では、里人組がかりで農業用水のための池を掘っていました。

世之介庇護する裕福な商人

西鶴の若いころ、西回り航路ができるまでには、東北米、北陸米などを大坂まで回米するには、敦賀あるいは小浜でおろし、いったん陸上輸送で琵琶湖まで運び、湖上輸送を経て、淀川を下っていました。

先に一度は栄え、滅んだ敦賀の商人、前回はおそらく衰えたであろう小浜の綱糸屋の話を挙げましたが、とても大成功した小浜商人

森田 雅也

の話があります。

それは好色一代男

〔天和2（1682）年刊〕巻三の一「恋の

すて銀」です。世にすめば、袴・肩衣もむつかし。人の風情とて、朝毎に

髪ゆはするも心に懸

狭の小浜の人なり。

北国すぢの舟つきの

たはれ女、敦賀の遊

女、残らず見捨て、

今上方に住みぬ。

書き出しは、世間の付合いとは面倒なもので、毎朝整髪するだけでも気を使うが、隠

居姿（十徳）になれば

こそ楽阿弥ど、八幡

の柴の座といふ所に

たのしみを極め、東

に三十万両の小判の内藏を造らせ、西に銀の間、枕絵の襖

難波西鶴と 海の道

【36】

交通の要衝小浜の逸話

障子、都よりうつべしきをあまた取りよせ、誰おぞきるものなく、ある時ははだか

相撲、すずしの腰絆をさせて、しきぎはだへ黒き所までも見

すかして、不礼講のありさまなるべし。この人もとは若狭の小浜の人なり。

樂同弥だと、京都八幡

は、屋敷の東には30万両（約300億円）の金庫を作り、西の銀の間にには枕絵を描いたふ

すまを入れ、京都から美女を集め、人目もはばかりず、裸相撲などみだらな格好をさせて、自由奔放に遊んで

いたというのです。この人の出身は若狭の小浜。北国筋（小浜

を出版した41歳のころは自由な身を謳歌していましたと考えられます。

一代でもうけたのでしょか。やはり、小浜が戦国期以来集積地として飛躍的に経済的発展を遂げた地であるた

めに、裕福な商人を輩出されたのでしょう。

そんな隠居暮らしは樂同弥だと、京都八幡

が戦国期以来集積地として飛躍的に経済的発展を遂げた地であるため、裕福な商人を輩出されたのでしょう。

書き出しは、世間の付合いとは面倒なもので、毎朝整髪するだけでも気を使うが、隠居姿（十徳）になれば

こそ楽阿弥ど、八幡の柴の座といふ所にたのしみを極め、東に三十万両の小判の内藏を造らせ、西に銀の間、枕絵の襖

を残すものなのです。

西鶴も34歳で髪をそり、隠居したようです。上方に住んでいるとい

うのです。

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

難波西鶴と



[37]

森田 雅也

何度も繰り返して書いてきましたが、西回り航路が河村瑞賢によって開発された、寛文年間（1661～73）を境に、それまでの敦賀・小浜から琵琶湖への運搬ルートは衰微し

てきています。西鶴は、そのことに敏感に反応し、敦賀・小浜の衰退していく姿を描いています。

このルートの衰微は、琵琶湖の湖上運送

のあり方と琵琶湖周辺の都市の繁栄にもかかわってくるのですが、本シリーズは「海の道」ですから、無視するべきかも知れません。

その隆盛と消長

一方、堅田（大津市）では、殿原衆（地侍層）と全人類（農民・商人など）で構成される堅田衆が、惣的結合を強固にし、上乗権や関務権をアコニ、中世の湖上で絶大なる力をぶらついた。天下をおさえた豊臣秀吉は、坂本・堅田・木浜（守山市）から船百艘を集め、大津百艘船を創始する。

また、芦浦銀音寺（草

津市）を船奉行に任命、湖上交通の掌握を強め、大津百艘船仲間は、江戸幕府の保護を受け、その後も特權をもとに、琵琶湖の水運と商品流通に大きな影響力をもつ、坂本や奥島（近江八幡市）などに開拓を構えていた。

一方、堅田（大津市）では、殿原衆（地侍層）と全人類（農民・商人など）で構成される堅田衆が、惣的結合を強固にし、上乗権や関務権をアコニ、中世の湖上で絶大なる力をぶらついた。天下をおさえた豊臣秀吉は、坂本・堅田・木浜（守山市）から船百艘を集め、大津百艘船を創始する。

西鶴の「日本永代藏」は、副題を「大福新長者教」としています。

これは長者になる心得を説いた教訓書「長者教」（寛永4（1627）年刊）に対抗した、

新しい時代の金持ちになる指南書を意味します。

西鶴の「日本永代藏」は、副題を「大福新長者教」としています。

これは長者になる心得を説いた教訓書「長者教」（寛永4（1627）年刊）に対抗した、

新しい時代の金持ちになる指南書を意味します。

西鶴の「日本永代藏」は、副題を「大福新長者教」としています。

これは長者になる心得を説いた教訓書「長者教」（寛永4（1627）年刊）に対抗した、

新しい時代の金持ちになる指南書を意味します。

西鶴の描いた琵琶湖ルート

当時の庶民の代表

難波西鶴と 海の道

【38】

森田 雅也

「懐鏡」の僧山法師
以外では珍しい視点人

西鶴の「大津」、西回り
航路の開発によって、
琵琶湖の流通ルートを使
った運送量は激減し
ていますが、そのこ
ろの大津の人々を描い
たのが、西鶴の「日本
永代藏」「元禄元(1
688)年刊」巻二の
二「怪我の冬神鳴」で
す。西鶴はこの話をしよ
うゆ屋の商人喜平次
の視線を通して描くと
いう手法で用いていま
す。他の西鶴作品では

物の設定です。
その喜平次は、世の
中の貧富の差を大きく
がつた視点で見ていま
す。

「我、商に廻れる」
きびきにも、世は懲
喜賞福のわから有り
て、さりとは思ふま
まなづす。かしこき
人は素紙子さて、愚
かなる人はよき綿を
身に累ねし。とかく、
一仕合は分別の外ぞ
かし。然れども、そ
の身勤かずして、錢

が一文、天から降ら
ず地から涌かず。
正直にかまへた分に
も、埒は明かず。身
に応じたる商売をお
るそかにせじ」

喜平次は行商してい
る。世の中には、豪
華に沈む人、喜びあふ
れる人、貧しい人、金
持のひととわかれてい
て、これらの人々が立場
を入れ替わることは、
容易ではない。世の中、
賢い人ほど素紙子のよ
うな貧しい衣をまと
い、愚かな人ほど上等
の綿の衣を重ね着して
いると言うのです。

だからといって、ひ
ともうけして金持ちに
なれるかどうか、「一仕
合は、思慮分別のい
い悪いではない」とす
る喜平次の覚めた目
は、毎日、津々浦々の

世態人情を観察してい
る行商人の目なので
す。いわば、喜平次の
言葉は、大津に限らず、
當時の庶民の代表者の
言葉と言えるのです。

喜平次は、身に応じた
る商売を始めたのですが、
では、生きるために
はどう處したらいい
か。とにかく、働くか
いでは、錢一文として
天から降ってこない
し、地から湧いてこ
ないので。ただただ、
策は身に応じた商売を
おつそかにしないこと
だ、と結論するわけで
す。

文好は仕事のないこ
とを離すため、毎日往
診のぶりをして神社の
絵馬ばかり見て過ごし
ているので、付いたあ
だ名が「絵馬医者」。つ
らい人生ですね。

行商人喜平次の視点

「我、商に廻れる」
きびきにも、世は懲
喜賞福のわから有り
て、さりとは思ふま
まなづす。かしこき
人は素紙子さて、愚
かなる人はよき綿を
身に累ねし。とかく、
一仕合は分別の外ぞ
かし。然れども、そ
の身勤かずして、錢

夢がないというよ
り、無学なしようゆく
りが、大津で現実と対
峙しているうちに体得
した教訓といえるでし
ょう。そんな喜平次が

人は、関寺(今の大津
市達坂二丁目)のほと
りに住む森山文好とい
う医者です。

元々はそれなりの医
者だったのですが、あ
る時、簡単な風邪を治
せず、評判を落とし、
まったく来診する患者
も絶え、閑古鳥が鳴く
に同じ、呼ばぬ所へは
ゆかれず」と言い放つ
のですから、誠に豪快
です。

文好は仕事のないこ
とを離すため、毎日往
診のぶりをして神社の
絵馬ばかり見て過ごし
ているので、付いたあ
だ名が「絵馬医者」。つ
らい人生ですね。

(関西学院大学文学
部文学言語学科教授)

難波西鶴と



【39】

森田 雅也

本来、この人もそれなりの医者としてもう

大津の人々を描いた。西鶴の「日本永代藏」「元禄元(1688)年刊」巻二「怪我的冬神鳴」の話です。

この章では、誤診から仕事がなくなり、往診に行くふりをして、実際は一日中、神社の給馬を見て過ごして帰宅するだけの医者が、「給馬医者」とあだ名をつけられてしまった話をあげています。

所まで機械化を推進め、風車小屋は無用のものとなりつづきました。にもかかわらず、脱穀業のコルニー親方は以前と変わらぬ体で、風車小屋に小麦袋を持ち込みます。

誰が効率の悪い風車小屋での脱穀を依頼しているのだろうと村の人は不審に思っていましたが、案の定、誰かうの依頼もなく、ある日、親方の小麦袋の中身が白壁を砕いたもので、とうぐい親方の仕事はなくなっていたことがわかります。

この短編集には、オペラで有名な「アルベルの女」などが含まれます。プロヴァンス地方の明るい風土とは対照的に物悲しさが情趣とし

て標いますが、ドーテーの文体はユーモアに富み、西鶴の「給馬医者」と「コルニー親方」の書き方は酷似しています。

明治維新のころにフランスで書かれたこの作品と西鶴に直接の影響関係はありませんが、一度は栄えし者と見限られますが、母親だけは自分の賃居金としてもらっていた10貫目を与えようとしています。

しかし、商才のない仁兵衛では1年で使い切ってしまうだろうと、姉婿に預け、毎月80目(約18万円)を利息として仁兵衛に渡すように計られます。

仁兵衛一家は5人で

次にあがるのが馬屋町(現春日町)の坂本屋「仁兵衛」という人。この家はかつて大金持ちでしたが、商いで大損をしてしまいます。家藏

をしてしまう。家藏を売り払い、28貫目(約6千万円)だけが残りますが、再起を期して、34、35度も転職しますが、皆うまくいかず、ついに元手もなくなり

ますので、うまく切り盛りすれば生活できるところ、なぜか極貧生活。どこまでもお金の使い方が下手な人ですね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

「絵馬医者」と「コルニー親方」

難波西鶴と 海の道

森田 雅也

西鶴の『日本永代藏』
元禄元(1688)年刊巻二「怪我冬神鳴」に描かれた大津の人々の続篇です。

前回の没落した「兵衛一家に続いてあがられています。」

(大津市松本1、2丁目辺り)の後家です。この女は、ひとり娘を田舎から出てきた伊勢参りの抜け参り姿にく見えるのですが、娘の者に御合力」と言つて、持参金を銀2千

て物いをせし、その金で生活する」と12、13年にも及ぶという悪女でした。

次に、池の川の針屋があげられます。この居住地から、モデルは、今の大津市追分町にあった大黒屋森越清兵衛とされています。

予期せぬ不景気の無念

【40】

枚(約2億円)つけると言っていると、仲人婆が聞きつけてきて、「もう少し押せば約2千万円弱ももうかる」としうるにござや

いたきたといふのです。この当時、仲人は、縁談を成功させると、持参金の10分の1を報

うこの夢も同様です。

「人の内訳は知れぬ

物、この大津のうちに

もよよぎもあり」とし

ましたので、仲人を商

売としている者が多

く、喜平次の女房はとて

も賣く、子供も身され

いに育て、人から借金

もせず、師走の取り立

てにもあわず、正月の

準備もきちりと整え

て、毎年を越していま

した。

しかし、毎年ぎりぎ

りの生活で、10匁(約

2万円)を持って年を

越えたことがないとい

う家計の苦しさ)でし

た。ある年の暮れ、冬

神鳴が家に落ちて、

たった1つ切りの鍋が

割れてしましました。

正月迎えの料理作り

には欠かせないので、

新しい鍋を購入する」

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

喜平次と女房の年越し逸話

津の話の視点人物はしようと云つてゐるが、わざか9匁が足りません。そこで、そのためだけに24、25カ所からお金を借りたために、方々から取り立てにあうと年越しにあたり、方々も賣く、子供も身されいに育て、人から借金もせず、師走の取り立てにもあわず、正月の準備もきちりと整えます。喜平次は、「これを見ると、世に、当所のかならず違ふものは世の中。私も神鳴の落ちぬまでは、世にこはき物はなかりしに」と、生活設計の予期せぬ破綻に悔しきを隠せませんが、大津の人々の、予期せぬ西回り航路開発による不景気到来の無念さに通じるかも知れませんね。

この針屋の話は、他のような貧乏話ではありません。針屋は店の外見からは身代が小さく見えるのですが、娘の夫の羽振りがいい商人があつたことを伝えているのですが、実在のモーテルの連想に配慮した結果といえるかも知れませんね。

ここまで紹介した大

正月迎えの料理作りには欠かせないので、新しい鍋を購入する」(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

(第3種郵便物認可)

難波西鶴と



【41】

森田 雅也

ところが、反対に西回り航路として新たな繁栄がもたらされた石川県の福浦港、兵庫県の柴山港、島根県の温泉

西鶴のころ、開拓されれた西回り航路は流通ルートに革命を起し、またが、そのことに

よって、旧来の敦賀、小浜ルートの繁栄に影響しました。その影響はそのルート延長上の琵琶湖の大津にまで影を落としました。

そのことが、西鶴の渡の小木庵の話が見当たらないのと同様と言えます。そこに共通するのは、それらの港の形成にもうかがえる」と述べておきました。

しない、航路上の單なる寄港地に過ぎないと言ふことです。寄港地とは、西回り航路の北前船が帆船のため、その日の風と潮の具合で立ち寄る港とし、定期航路として特定の船が立ち寄ることが保証されています。つまり、定期航路と

のように、定期航路と並んで、今まであげてきた松前、酒田なども寄港地なのです。が、右にあけた港湾設備だけの港では、せいぜい、船待ち客のための遊女屋まがいの安宿がにぎわうだけで、都市としての十分な機能は有していませんでした。中には、船を降り

ません。これは、おそらく佐渡の小木庵の話が見当たらないのと同様と言えます。そこに共通するのは、それらの港の形成にもうかがえる」と述べておきました。

しかし、これらの寄港地の近くには、鉢山津港などの新たに整備された日本海側の寄港地を舞台とした西鶴作品があつてもよいはずなのです。ですが、見当たりませんでし

ません。小木庵の場合、近くの相川に佐渡金山がありましたから、それなりにぎわったと考えられます。しかしながら、以前にも述べたように金山は幕府直轄地で、温泉としての湯治場としての利用は別とすれば、やはり、交易地ではなかつたのでしょ

舞台になる港ならぬ港

周辺都市や鉢山との関係

していない、航路上の单なる寄港地に過ぎないと言ふことです。寄港地とは、西回り航路の北前船が帆船のため、その日の風と潮の具合で立ち寄る港とし、定期航路として特定の船が立ち寄ることが保証されています。つまり、定期航路と並んで、今まであげてきた松前、酒田なども寄港地なのです。が、右にあけた港湾設備だけの港では、せいぜい、船待ち客のための遊女屋まがいの安宿がにぎわうだけで、都市としての十分な機能は有していませんでした。中には、船を降り

ません。これは、おそらく佐渡の小木庵の話が見当たらないのと同様と言えます。そこに共通するのは、それらの港の形成にもうかがえる」と述べておきました。

しかし、これらの寄港地の近くには、鉢山津港などの新たに整備された日本海側の寄港地を舞台とした西鶴作品があつてもよいはずなのです。ですが、見当たりませんでし

ません。小木庵の場合、近くの相川に佐渡金山がありましたから、それなりにぎわったと考えられます。しかしながら、以前にも述べたように金山は幕府直轄地で、温泉としての湯治場としての利用は別とすれば、やはり、交易地ではなかつたのでしょ

部文学言語学科教授

てに商業取引を自由にできることは言いがたいでしょう。むねろん、山にかかる人々自ら多くの労働者がいるわけですから、生活品の買賣は行われたでじようが、腰を据えて商売する場合もあり、ビジネ

下関舞台の西鶴作品

難波と北海道・東北・北陸などの国々を結ぶ海の道が、西鶴のころに大きな変革を起こしたことは述べました。その変革とは、西回り航路の開発によって、従来の北陸から敦賀・小浜から琵琶湖へ至るルートが捨てられ、石川から兵庫、鳥取、島根、山口の日本海側を通り、下関を経て、瀬戸内海航路を通り、大阪に到達するル

森田 雅也

ートを多く利用するようになつたことです。

西鶴は両方のルートから情報を得ました

が、作品として、北兵庫、鳥取沿岸、島根沿

岸の話が非常に少ない

ことは前回指摘しまし

た。実は、島根の松江の話は結構あるのです

かと推察できます。そ

の前に押さええておきた

いのは、瀬戸内海の西

口、関門海峡です。

「関門海峡」とは、

いわゆる「日本歴史地名大系」

によれば、「下関市と

福岡県北九州市門司区

との間の海峡で、東の

周防灘と西の響灘を結

ぶ。壇之浦と吉城山(現

在の北九州市門司区)

の間は海峡の最狭部で

570m、早朝の瀬戸

と呼ばれ、潮の干満に

より1日4度流れを変

え、潮流8mに達する

難波西鶴と 海の道

【42】

いかにも「海の道」情報源

といわれる。響灘への出口には彦島が横たわり、大瀬戸とよばれる潮の流れの速い海域を形成している。宍戸海峡・馬關海峡・下関海峡とも称された。(中略)

近世、海上交通の発達により関門海峡を通じて、往来する船も増加し、瀬戸内筋・西海筋・北国情筋の各航路の交錯する地でもあり、沿岸部は入り組み自然の要港となつた。さすがに関門海峡は、當時航海の最大難所で、ほとんどの船が一時停泊するならわしがなつた。さすがに北前船の寄港地としても栄えてきた。とくに北前船の寄港は下関の経済的発展に至大の貢献をした。尾張の商人愛屋翠七の「筑紫紀行」に「却此

所は北国西四国の廻船の津にして、日にとに入舟出舟数をしらず、誠に西国第一の大湊なり」とその繁盛ぶりが記されている。また慈嫁(沖女郎・冲惣嫁・浜出女ともい)といわれる遊女が港内に営業していた

以上、引用が長くなつたが、これでも一部です。日本の海運の中でも最も重要なゲートであり、最も長く日本と世界を結んできた地といえるでしょう。江戸時代には船改の番所も置かれた要衝ですが、源平壇之浦合戦の場ともなり、名勝の地でもありました。次回以降話を進めます。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

外洋での商い 堂々挑発

森田 雅也

前回は「関門海峡」の話をさせていたたまつた。ここまで話をしきた西回り航路も、中国、朝鮮、九州、長崎、琉球等からの航路も皆、関門海峡という「海の道」を通過します。西へ、我が宿の細瀬溝川した。(ここまで話をし

て、「時津風静かに」という書き出しは、秦平の世を礼賛する、この時期の作品の決まり文句ですが、あえて訳せば「時節になつた順風は静かに」となるでしょう。以下「船の日」の冒頭は、まさに、その「海の道」を巧みに利用する商人の紹介です。

「時津風静かに 日 日前から予測できぬよ

和見乗り覚えて、西国の一尺八寸といへる雲行も、三日前より心得て、今程舟路の懸念した。(ここまで話をし

て、「時津風静かに」という書き出しは、秦平の世を礼賛する、この時期の作品の決まり文句ですが、あえて訳せば「時節になつた順

うになって、最近ほど航海が安全になつたことはない」という当世は進んだ「海の道」の安全性を強調します。

「世に舟あればこそ、一日に百里を越し、十日間に千里の沖をはしり、万物の自由を叶へ

り、広き世界をしうぬ人こそ、口惜しけれ」「だから、大商人の心は波濤の舟にたとえられるのであり、我が家前の細い溝を一足飛びに越えるように勇

く飛ぶのであるが、船があるからこそ、1日に百里を行き、10日に千里の沖を走って、すべての物を自由にまかねる

「和國はさて置かず、唐へ投銀の大氣、先は見えぬ事ながら、唐土人は律義に、言ひ約束のたがはず、絹物に奥と口(反物の巻口と奥と

の品質を変える詐欺)せず、薬種にまぎれ物せず、木は木、銀は銀小槌で金銀がざくざく湧くように、銀の目方を量る天秤をせわしく調整する町人たちの朝の小気味いい音を聞くことはない。勇気のない商人は一生、いわば狭いばかりの中をぐる

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

難波西鶴と 海の道

【43】

まさに船の利便性、万能主義の公言です。

「されば、大商人の心を、渡海の舟にたどり、我が宿の細瀬溝川を一足飛に、宝の島へわたりて見すれば、打出の小槌に天秤の音さへ事あるべからず。一

生秤の皿の中をま

り、広き世界をしうぬ人こそ、口惜しけれ」「だから、大商人の心は波濤の舟にたとえられるのであり、我が家前の細い溝を一足飛びに越えるように勇く飛ぶのであるが、船があるからこそ、1日に百里を行き、10日に千里の沖を走って、すべての物を自由にまかねる

「和國はさて置かず、唐へ投銀の大氣、先は見えぬ事ながら、唐土人は律義に、言ひ約束のたがはず、絹物に奥と口(反物の巻口と奥と

の品質を変える詐欺)せず、薬種にまぎれ物せず、木は木、銀は銀小槌で金銀がざくざく

湧くように、銀の目方を量る天秤をせわしく

調整する町人たちの朝の小気味いい音を聞くことはない。勇気のない商人は一生、いわば狭いばかりの中をぐる

ぐる回っているだけで、広い世間を知らないのは、残念なことである」という、鎖国下の日本とは思えない、西鶴の外洋での商いへの堂々とした挑発はどうか。さらに、続けます。

海洋交易の利点説く

前回に示したように、西鶴の「日本永代藏」[元禄元(1688)年刊]巻四の二「心を疊込む古筆屏風」には、西鶴自身としか思えない視点から海洋交易の利点が説かれています。

中国人相手の投資は大胆でなくてはならぬ。中国人に約束を違えよう。商人はいなとい。その対して、約束破りは何と日本の商人だと指

します。日本の商人は、針を商っては、少し短くして売り、織り布の幅は少し細くし、傘の紙には保護用の油を節約し、何でも値段が安いことをもじつと」といふ

モラルなかかったのは日本商人?

中国人相手の投資は大胆でなくてはならぬ。中国人に約束を違えよう。商人はいなとい。その対して、約束破りは何と日本の商人だと指

します。日本の商人は、針を商っては、少し短くして売り、織り布の幅は少し細くし、傘の紙には保護用の油を節約し、何でも値段が安いことをもじつと」といふ

ざるに例として、日本と朝鮮との交易の事例をあげます。

「むかし、対馬行き

森田 雅也

摘要

この「安からう、悪

とはならざりき」

唐人(ここ)では朝鮮

です。

「唐人これをかく

恨み

その次の年、なほ

又過さる年の十倍も

あつらへければ、欲に

下づみ手抜きして、し

かも水にしたし道はし

けるに、舟わだけのう

にかたまり、煙の種

箱入りにしてかぎりも

なく時花り、大坂にて

その職人に刻ませける

に、当分知れぬ事とて、

海の道と

敵討ちですね。

お見事な朝鮮商人の

部文学言語学科教授)



【44】



【44】

正月の縁起物

新年を迎えて皆さまに寿ぎを申し上げます。前回は、西鶴の「日本永代藏」(元禄元(1688)年刊)に書かれている日本と朝鮮の海洋交易の逸話でした。ここで、新年のお神酒気分に許しを得て、西鶴から閑話を一つ。

今も昔も正月迎えは楽しいものです。歳末の買い物にはつい力が入り、高い物でも買ってしまうのです。そ

んな時の言い訳は必ず、「正月の縁起物だから」ですね。

同じ「日本永代藏」

巻四の五「伊勢海老の高賀」に面白い節約法

が書かれています。

「生あれば食あり」

世に住むからは、何事

も案じたるが損なり。

毎年、世間がつまり、

我人迷惑するといへ

ど、それぞれの正月仕

事舞・餅突かぬ宿もなく、

数子・買はぬ人もなし」

生きているものは何

とかして食べていける

ものだ、という」とわ

ざがありますが、明日

一般的に、人が始末

森田 雅也
新年を迎えて皆さまに寿ぎを申し上げます。

前回は、西鶴の「日本永代藏」(元禄元(1688)年刊)に書かれている日本と朝鮮の海洋交易の逸話でした。ここで、新年のお神酒気分に許しを得て、西鶴から閑話を一つ。

今も昔も正月迎えは楽しいものです。歳末の買い物にはつい力が入り、高い物でも買ってしまうのです。そ

んな時の言い訳は必ず、「正月の縁起物だから」ですね。

同じ「日本永代藏」

巻四の五「伊勢海老の高賀」に面白い節約法

が書かれています。

「生あれば食あり」

世に住むからは、何事

も案じたるが損なり。

毎年、世間がつまり、

我人迷惑するといへ

ど、それぞれの正月仕

事舞・餅突かぬ宿もなく、

数子・買はぬ人もなし」

生きているものは何

とかして食べていける

ものだ、という」とわ

ざがありますが、明日

一般的に、人が始末

難波西鶴と 海の道

【45】

すべきは正月準備だ。まだ使える道具を直し、家を直したり、墨表を替えて、籠の上塗りなど、一つ一つは目立たないけれど、総額ではかなりの無駄をしていると言ふので

す。続けて言つには、正月用だと特別視しているとある年江戸では、品切れのために、正月用の伊勢海老が1匹小判5面(約50万円)、橙が一つ3両にも高騰したと言うのです。武家方では無くてはならない縁起物です。江戸なうではの困った事情と言えるでしょう。

しかし、その年、大阪

でも、伊勢海老1匹、

2匁5分(約5千円)、

權1つ7、8分(約8百円)。高すぎます。

そんな時、今の堺市に

住む「樋口屋」という

賢い検約家が、

「蓬莱は、神代」の

かたのならはしなれば

ひ調べて、これをかさ

る事何の益なし。天

照太神もとがめさせ

給ひまじ」と言い出し、

正月の蓬莱飾りに、伊勢海老の代わりに車海老、橙の代わりに九年母を積んで済ませたところ、「才覚勇の仕出しが」と堺中に流行し、

その年は皆伊勢海老、

橙を買わずに済ませた

そうです。

最近は縁起を構わなくなつたとはいえ、高くて毎年の正月迎えの出費。考えさせられますが、私は正月ぐらいい祝儀をつめて、財布の口を緩めたいです。

ね。

西鶴はどう描いた?

「惣じて、人の始末は正月の事なり。また堪忍のなる道具を改め、内普請・疊の表替・籠の上塗・万事わ

ります。

江戸なうではの困った事

情と言えるでしょう。

しかしその年、大阪

でも、伊勢海老1匹、

2匁5分(約5千円)、

權1つ7、8分(約8

百円)。高すぎます。

そんな時、今の堺市に

住む「樋口屋」という

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

博多の金屋 再起かけた逸話

『難波西鶴と海の道』
『元禄元(1688)年刊』巻四の二「心を疊込む古筆屏風」に、朝鮮の商人に不実な商いを行った日本の商人を批判する記述があることを紹介します。西鶴はその評言として、「これを思ふに、人をぬく事は跡づかず。正直なれば神明も仏陀も心を照らす」と

森田 雅也

閑話休題。西鶴の長崎商いの話に戻します。前々回「日本永代蔵」〔元禄元(1688)年刊〕巻四の二「心を疊込む古筆屏風」を読んで下さるという人をたまたま事です。「貞廉」とは正直です。西鶴は何しろ、商売は正直にしなさい、そうすればお釈迦様もいいことをして下さるというのです。さすがは天下の商人が集まる難波を知る西鶴の言ですね。

長崎商いは運任せ。その商いで生計を立てている博多の金屋某という商人は、ある年に3度も海上で大風に遭い、船も積み荷も失い、その賠償などに今までの蓄えをつき込んでしまい、残った物は家藏だけとなってしまいます。

そこで家屋敷を処分し、少しばかりの商品を仕入れて、長崎の市場に立ちますが、舶来品が多く売られる市では勝負になりません。唐織・萬種・鮫皮・諸道具など、並ぶ舶来品はどれも宝の山。買つておけば値が上がるの

しています。
「人をぬく事」とは、人をたまたま事です。「貞廉」とは正直です。西鶴は何しろ、商売は正直にしなさい、そうすればお釈迦様もいいことをして下さるというのです。さすがは天下の商人が集まる難波を知る西鶴の言ですね。

長崎商いは運任せ。その商いで生計を立てている博多の金屋某という商人は、ある年に3度も海上で大風に遭い、船も積み荷も失い、その賠償などに今までの蓄えをつき込んでしまい、残った物は家藏だけとなってしまします。

難波西鶴と 海の道

【46】

にその日暮らしの生活となってしまいます。が嫌いになり、孫子の代まで海の商いはしないように心に誓いを立てて毎日といた日々を暮らすようになります。

ところがある日、ふと目にとまつた蜘蛛と目ととまつた蜘蛛と人がほろもつけするのを切歎扼腕。自暴自棄になってしまいます。ところで当時、商人が売買目的で長崎の舶来品を購入すること、それが売買目的で長崎の舶来品を購入する事、すなわち長崎貿易に参入するためには高いハードルがありました。これはいわゆる「市法貨物商法」と呼んでいます。

金屋も全財産を処分して挑んでいますから、革袋には「50両(約500万円)」も持っています。ただではとても足りません。まさしく「蠍姫の斧」だったのです。詳しくは次回に続きます。

そのため使用人たちも辞めさせ、妻子とも別離に宿り、貞廉なれば金屋とかやいへる人、海上の不仕合させ、一年

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

一獲千金狙う博多商人

「日本永代藏」〔元禄元(1688)年刊〕巻四の二「心を墨込む古筆屏風」には、長崎商いで一獲千金再起を狙う博多の商人、金屋某を描いています。50両も持つて、長崎商いに参加できないとあります。

前回、そのような状態になるのは、「市法貨物商法」だと紹介しましたが、もう少し詳しく説明します。(以下、「国史大辞典」を

江戸時代の初めには、生糸や反物・薬種などの輸入品の代価として、主として銀(子銀・灰吹銀・銀道具類)が日本からの輸出

森田 雅也

参考

品に当てられていましたが、その数量が次第に増加し、特に明暦元(1655)年の糸割

易において、寛文12(1672)年から貞享元(1684)年に至る13年間、唐船と出島のオランダ商館などを対象

その結果、国内使用銀の不足が懸念されるようになります。そこで幕府は、新たに派遣した長崎奉行の牛込忠左衛門を中心に貿易制度の大改革を試み、寛文12年市法貨物商法が成立するのです。

前回にも述べたように、目の前に、唐紙・薬種・鮫皮・諸道真など、並ぶ舶来品の宝の山を見ても、金属は手出しができないのです。

金屋は、五カ所では

ない博多商人です。

うに資本も足りませ

ん。それではどうやつ

て成功を収めたのでし

ょう。次回に続ります。

長崎商い参加できない

難波西鶴と 海の道

【47】

● 難波西鶴



● 海の道

持銀高の調査を行い、それに応じて長崎の貿易商人各自の輸入可能額を規定しました。

そうなると、金屋某

の場合、長崎貿易の過去の実績はあります

が、たかだか全財産50

両(約500万円)の

所持金では審査の段階

ではねられてしまいま

す。

逆に、この規定を受けた商人は、市法商人あるいは貨物商人と呼ばれ、輸入活動を公認された商人となって、

自由に長崎貿易に参加

できるのです。

前回にも述べたよ

うに、目の前に、唐紙・

薬種・鮫皮・諸道真な

ど、並ぶ舶来品の宝の

山を見ても、金属は手

出しができないので

す。

当時、特に長崎貿易

(関西学院大学文学

部文学言語学科教授)

「商人の中の商人」金屋某

前回まで書いてきましたように、西鶴の『日本永代藏』〔元禄元(1688)年刊〕巻四の二「心を疊込む古筆屏風」には、長崎商いにかかる博多の商人、金屋某を描いています。

金屋は、50両(約50万円)という全財産を持って長崎にやってきましたが、そんな大金も長崎商いでは足りません。商いに参入する資格もありません。

「わざくれ心(自暴

安時代から鎌倉時代にかけて、西鶴の『古筆切』とは、平

「今宵ばかりを一生足を踏み入れます。」と、『おやめ』と腹を据え、昔、商売が繁盛していった頃のつてを頼って、花鳥太夫と逢い、深いなじみとなりました。

そんなある夜、枕元の枕屏風をふと見ると、総金箔の立派なもので、「古筆切」や短冊がすき間もないほど貼つてありました。

金屋は、船載物、つまり輸入料紙だけでも中國から来歴や、書かれている古紙として価値があるものもあります。

軸に書道の手本に、江戸時代の人々の間でも1級の骨董品として、高く取引されました。

森田 雅也

自業」になった金屋は、三都の遊里に次ぐ大悪所、丸山遊郭へと

かけての歌集、物語、経巻など、数行また

は一枚に切断したもの

です。紀貫之筆の伝承

がある「高野切」、藤原行成筆の「本能寺切」

などは国宝級ですが、それ以外でも所有者の

来歴や、書かれている

ものはあります。

難波西鶴と 海の道

【48】

物に不足のない長崎の遊郭だけに、こんな上等な物が日常の枕屏風として用いられていたのでしよう。

金屋某は、その貼り

混ぜの屏風が相当に価値が高い」と見て取

りますが、中でも藤原定家の真筆に間違いな

い小倉色紙が逸物であ

ることに気づきます。

そうなると、花鳥と

の恋心は、この屏風を

手に入れる手立てにす

ぎません。手練手曾に

長けた遊女を逆に手玉

にとって、まんまと屏

風を譲り受けます。

金屋は屏風を手に入

れるやいなや、花鳥に

何も言わずに上方に行

て再び、大金持ちに

なり采えます。

(関西学院大学文学

部文学言語学科教授)

の男は商人として大成しても人間性が許せませんが、西鶴はちゃんと後日談を用意します。

大金持ちとなつた金屋は、再び長崎を訪れ、花鳥太夫を身請けしま

すが、そのまま、花鳥太夫の懸想人のいる豊前の大漁村に、嫁入り道具一式そろえてやつて、嫁がせてやります。

もちろん、花鳥の喜びと感謝の大きさは言うまでありません。

人は評して、「たゞ

は懶城(遊女)をたら

す(たま)すといへど、

これらは悪からぬ仕か

た、その自利(鑑識眼)

ぬからぬ男」です。

中の人ですね。

「好色一代男」世之介

難波西鶴と 海の道

[49]

森田 雅也

うに思います。
さて、長崎と言えば、

も本章は、旅立つ前年の59歳の話です。

世之介が女護ヶ島に旅立つことは最終章まで明らかにされません。

が、前章の二の話です。で準備にとりかかる様子が描かれています。

ます。世之介は、長崎商いに向かおうとする商人に、自分も後から長崎へ行くからと銀箱を預けます。金額は不明ですが、1箱でも数万円ですから、かなりの覚悟と見て、商人も「何か唐物（舶来品）御望みあそばし候

前回まで、西鶴の『日本永代蔵』元禄元（1688）年刊に登場する長崎商いの商人について書きました。その商人の名は、博多の「金屋某」でした。ところが金屋という名は、「日本永代蔵」初版本の版元の一つなのです。もっとも、こちらは京都の版元です。何か関係があるのか調査中ですが、福井藩の初期を支えた豪商の名も金屋です。金屋と西鶴の関係、何がありそ

は、その副題に「長崎丸山の事」とあるように、丸山遊郭を舞台としています。

まず、世之介は、長崎商いに向かおうとする商人に、自分も後から長崎へ行くからと銀箱を預けます。金額は

丸山では、オランダ人相手の女郎と中国人相手の女郎と3種に分類されていました。さ

ね。一方、「なげ銀」というのは長崎商いに投機することを意味して

ます。世之介もいよいよ長崎に向かいますが、その前にすることがあります。それは次回に

と尋ねますが、「日本物を賣ふべきなげ銀」と答えます。

つまり、商人としては、これだけの金額を長崎へと言う以上は、世之介が投機的に、前回まで述べてきた長崎商いに参入しようとしているのかと思つたわ

けですが、意外にも「日本物を賣うための「なげ銀だ」と言うのです。

「日本物」とは、丸山遊郭の日本人相手の女郎を指します。何と、丸山では、オランダ人相手の女郎と中国人相手の女郎と3種に分類されていました。さすが国際港長崎です。

世之介もいよいよ長崎に向かいますが、その前にすることがあります。それは次回に

ます。それには、商人に商業用語を使い（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

丸山遊郭を目指す世之介

西鶴の『好色一代男』
〔天和2（1682）
年刊〕巻八の四「都の姿人形」は「長崎丸山」を舞台とした話です。京都に住む世之介は59歳。突如、長崎の丸山遊郭を目指して旅立つと言えます。それに先立ち、「世之介は、おもぶかぎり（決心）あり」と言って、自己の金銀を落中にまき散らし、処分します。まず、社寺の堂塔や常夜灯を建立します。常夜灯は以前に紹介し

世之介も老いて、抹香臭くなり、篤志家にキャラクター変更かと思われますが、粧な好色ぶりも健在です。何ど、なじみの役者

崩れの若衆たちには家を与える。世之介生涯の男色相手は、72人なのですから、大変だったでしょう。なじみの遊女たちは、苦界から抜け出し、自由の身にしてや

森田 雅也

たように沿岸部では灯台、京都のような内陸部では、夜間の通行人

の道するべになります。

世之介も老いて、抹香臭くなり、篤志家にキャラクター変更かと思われますが、粧な好色ぶりも健在です。何ど、なじみの役者

難波西鶴と 海の道

【50】

離れる時に、気前よく金子500両（約5千円）を贈ります。こいだ世之介は、そんな金遣いをする理由を「とかく、歌舞伎若衆の盛りは短いもの。

人気の浮き沈みも激しく、その人気がなくなれば、せっかく買ってもらつた家も売り払つて、最後には、遊び客の多い京・江戸・大阪にさえ、定まった住みついに8月13日、長崎へと出立します。

京都伏見から淀川を下り、大坂道頓堀に着きますが、「ここ」で寄り道、なじみの歌舞妓役者たちは、丸山の遊女を出島に呼んでの豪遊。さぞ

ります。世之介生涯の女色相手は、3742人なのですから、これも大変でしょう。

そんなむちやな使い方をして、世之介の家の内蔵（金庫）の金はなかなか減りません。後顧に憂い無く、ついに8月13日、長崎へと出立します。

丸山遊郭では、1軒

の遊女屋で、80、90人もが夜見世に出ている（三都の遊女屋の倍近く）見世もあるという

遊女屋で、80、90人もが夜見世に出ている（三都の遊女屋の倍近く）見世もあるという

遊女屋で、80、90人もが夜見世に出ている（三都の遊女屋の倍近く）見世もあるという

人生を送るものだ」と説くのです。老後の生活資金にどうておけど

しかし、亭主の歌舞妓役者は、「（役者といふものに明日の番えといふ概念はありませんよ、頂戴したお金も無駄な使い方をしてしまいます）

（関西学院大学文学部文学言語学科教授）

ですが、世之介は宿屋も定めず、直接、丸山へと飛んで行きます。

舟は長崎港へと着きますが、世之介は宿屋も定めず、直接、丸山へと飛んで行きます。

船着き場まで送つてくれます。彼らのある種の意地でしょうね。

特異な遊郭・長崎丸山

森田 雅也
 「好色一代男」(天和2年刊)
 卷八の四「都の姿人形」
 は長崎の丸山遊郭を舞台にしています。

世之介は、京や大阪の恋人たちに別れを告げ、これから暮らし向きに必要な金銭的援助も与え、長崎へとやってきました。

宝年間(1673)81)刊「長崎土産」では、遊女屋30軒・遊女数335人(太夫遊里でした。「国史大辞典」によると、「丸山が遊里として開

かれたのは、寛永19(1641)年(二

全書)には、「江戸時代には京・江戸・大阪と並ぶ大規模な遊郭だ

とあります。

「好色一代男」にも、唐人行、オランダ行の遊女について書かれています。

「好色一代男」にも、唐人行、オランダ行の遊女について書かれています。

難波西鶴と海の道

[51]

藝料を払って遊女屋に在籍のまま唐人らの姿となるものがいた

どりのつややかな衣装に身を包み、世之介歓迎の酒宴を盛り上げます。

世之介も「我、京にて35箇(約350万円)の鶏を焼鳥にして太夫の肴にせし事」とあります。

世之介が長崎まで下つてきました。ニユースは、京都の四条河原での若衆遊びや島原の遊郭で一座を共にしたことがある人々を喜ばせました。そこで、丸山遊郭の女郎たちに能を演じさせてなります。

遊女たちは見事「定家」「松風」「三井寺」の三番を舞います。折しも初紅葉の美しいとき。さうに35名附遊女といって、名

制によって、市中にある寄合町が移転して來たため、丸山町と改められたとある。延宝年間(1673)81)刊「長崎土産」では、遊女屋30軒・遊女数335人(太夫遊里でした。「国史大辞典」によると、「丸山が遊里として開

て35箇(約350万円)の鶏を焼鳥にして太夫の肴にせし事」とあります。

世之介も「我、京にて35箇(約350万円)の鶏を焼鳥にして太夫の肴にせし事」とあります。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

郭ばかりでない長崎

前回まで、長崎の丸山遊郭へと京都へと下ってきた世之介の話をしました。長崎は郭ばかりではありません、「世間胸算用」〔元禄5(1692)年刊〕巻四の「長崎の餅柱」には、商人の話が出てきます。「霜月晦日」切に、唐人船残らず漆を出て行くべき、長崎も次第に物さびしくなりぬ。しかしこの所の家業は、よろづ唐物商ひの時分銀だ。本来秋船は9月20

まづけして、年中のたちは一度に仕舞ひ置き、貧福の人相応に緩々とぞくらし、万事こまかに胸算用をせぬ」といき事なし。正月の近づくころも、酒常住のたのしみ、この津はも寂くなり、景氣も身過の心やすき所な

り

「霜月晦日」切に、唐人船残らず漆を出て行くべき、長崎に交易でやつてくる唐人(中国人)の船は、入港する時期が、春船、夏船、秋船と分かれています。江戸時代の人々は、年貢のように年収制度

森田 雅也

まづけして、年中のた

日が最終の帰路船でし

難波西鶴と 海の道

【52】

で生活していました。誰もが正月に今年一年間、わが家がどのよう

な収支決算となるか胸算用して生活設計することが大切だという趣旨で書かれたのが「世間胸算用」です。

「1年を20日で暮らす良い男」は相撲取りの生活をうらやむ言葉ですが、長崎の人は1年を11月で暮らす賢い

人たれだと言うのですから、絶賛ですね。

さらに長崎の人々は、貧乏人も金持ちはゆるゆると暮らし、細かに胸算用しない土産

を一般的とする長崎は特異ですが、これも外國貿易を主軸としている地だからでしょう。

そのため、師走でも掛け取りに走ることもなく、酒を飲みながら、ゆとりある日々を送る長崎。まさに暮らしあい所ですね。

いで、節季払いにしないと言つのです。

当時の日本の精算方法は節季払いが一般的でした。いわゆる「つけ払い」として、節季と言つても盆正月前、

特に師走にまとめて支払う方法をとつていま

した。現金払いの「都度払い」は信用のない人が支払う方法として割高でした。

このよつた現金払いを一般的とする長崎は特異ですが、これも外國貿易を主軸としている地だからでしょう。そのため、師走でも掛け取りに走ることもなく、酒を飲みながら、ゆとりある日々を送る長崎。まさに暮らしあい所ですね。

因にあるのでしょう。加えて、長崎ではほとんどの買い物が現金払

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

風習異なる上方と長崎

森田 雅也

「世間胸算用」〔元禄(1692)年刊〕巻四の四「長崎の餅柱」の長崎商人の話をしています。今日、長崎までは、日本のどこからでも飛行機を使えば早いように、当時においても、「海の道」を使えば、そんな遠いところではありません。特に上方からは瀬戸内海航路を出れば、佐渡や松前などより身近な港でした。しかし、「世間胸算用」では存外、長崎の

風習が上方と違つていて、たと指摘しています。前回の外国人とのいわゆる「一見さん」との取引が多いためか、「当座払い(現金払い)」という方法もそれでした。上方の師走では、「つけ払い」の取り立てに走り回る商人たちの慌ただしい風景が常なのですが、長崎ではそれがなくして、なんひりしているのです。

長崎の人は「伊勢磨」を見て、昔からの「提灯」に従い、「燃揚(すす払い)」の師走13日が守られていました。このかもしれませんね。もち飾りにも特色を指摘します。もちつきの際に、最後の一日のものは大黒柱に打ち付けておき、正月の左義長(とんど焼き)のときには大黒柱にぶら下げるのです。これが「餅柱」です。

「餅柱」は今でも神社奉納などで行われてきました。

難波西鶴と 海の道

【53】

かまどにぎやかな正月祝い

いる地域もありますが、「世間胸算用」の挿絵では大黒柱に巻き付けていて、これが長崎の家の正月風景なら驚かれます。

他にも長崎の正月祝いは、何かにつけて「所ならし」(土地の習慣)」が違います。台所の土間に「幸ひ木」という物を横わたしにして、「鰯」「いり」「串貝」「雁」「鷗」「雉子」「塩鰯」「赤いわし」「昆布」「たら」「鰐」「ひほつ」「大根」など、正月三が日の料理に使つものだけをぶら下げるのです。これも異様な風景です。特に、さまざまなもので、鳥肉が用いられたことは今も昔も変わりませんし、山海の「ちらり」と用意するのは、日本料理の伝統でした。異様なのは、それをぶら下げることです。

長崎のクリスマスツリーであります。これも異様な風景です。特に、さまざまなもので、鳥が台所にぶら下がっているな」「生類憐れみの令」の時代に許されています。

長崎学院大学文学部文学言語学科教授

商いに抜かりない地・長崎

「船中八策」で有名な暮末に活躍した坂本龍馬。このように京都、長州、薩摩と駆け回りますが、その拠点は海援隊の本拠地「長崎」。もちろん、海の道を利用して、維新の大はりました。

「世間胸算用」〔元禄五(1692)年刊〕巻四の四「長崎の餅柱」は、西鶴のころの長崎の様子をあげます。その中に長崎では、正月の「おそつ用の山海の具材を台所につる

す風習が書かれています。他にも面白い大みそか風景が書かれています。女の物(いたちが、顔を赤く塗り、恵比須・大黒の土人形を持ち、粗塩を台にのせてやつてきて、「今年の恵方の海より潮が参りました」と言って家々を覗いて回ります。

西鶴は「(一)の惣並なればをかしからず。とかく住みなれし所、都の心ぞかし」と評します。「鄉にいれば郷に従え」「住めば都」というような意味であります。上方と違う長崎の年末年始の風景を楽しんで見ていました。

森田 雅也

難波西鶴と 海の道

【54】

す風習が書かれていることは、前回にあげま

した。他にも面白い大みそか風景が書かれて

います。女の物(いたちが、顔を赤く塗り、恵比須・大黒の土人形を持ち、粗塩を台にのせてやつてきて、「今年の恵方の海より潮が参りました」と言って家々を覗いて回ります。

西鶴は「(一)の惣並なればをかしからず。とかく住みなれし所、都の心ぞかし」と評します。「郷にいれば郷に従え」「住めば都」というような意味であります。上方と違う長崎の年末年始の風景を楽しんで見ていました。

今でも毎年「行く年来る年」といって日本各地の年末年始の風景を知る番組が人気ですから、当時なら当然でしょう。

そんな長崎には、いろいろなタイプの商人が出入りします。諸国

の商人の誰もが正月は故郷で祝いたいものなのに、京都から20年近く、長崎商いで下つてきで正月を通じている小商いの生糸商人がいます。

この男は万事に賢く、京都から長崎まで金一文無駄にせず、長崎に滞在中に丸山遊郭をのぞいてしません。したがって、評判の美人太夫「金山」のしやぎとした居姿も、「花鳥」の首筋の白い

丸山遊郭の「花鳥」のみは以前にも紹介しましたね。

枕などにはソロバン、商売の手控えを離しません。明け暮れ、中国人の愚かな商人を探し、もうけのよい商売をしようとするのですが、今時の中国人は日本語を覚え、億家を貸す以外、お金を出資してはくれません。利益の歩合が多い家を買っておくことが堅い商売だと学習してしまったからです。まじいや、日本人の知恵者は、よいもつけをさせてもらえないません。

長崎は商いに抜かりのない地なのです。賢いだけでは成功しない

いだけでは成功しない

厳しい所でした。

賢いだけでは成功せず

ん。丸山遊郭の「花鳥」のみは以前にも紹介しましたね。

枕などにはソロバン、商売の手控えを離しません。明け暮れ、中国人の愚かな商人を探し、もうけのよい商売をしようとするのですが、今時の中国人は日本語を覚え、億家を貸す以外、お金を出資してはくれません。利益の歩合が多い家を買っておくことが堅い商売だと学習してしまったからです。まじいや、日本人の知恵者は、よいもつけをさせてもらえないません。

長崎は商いに抜かりのない地なのです。賢いだけでは成功しない

いだけでは成功しない

厳しい所でした。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

生糸商人が一念発起

森田 雅也
 引き続ぎ「世間胸算用」〔元禄5(1692)年刊〕巻四の四「長崎の餅柱」の話です。万事に賄ぐ、正月にも長崎から京都に帰らず、仕事一筋の生糸商人がいましたが、成功できなっています。商売に一工夫いるのが長崎たというのを、前回までの話でした。

一方、同じく京都からやってきていた同じ生糸商人の中にも、丸山遊郭に通い、物見遊山や花見などして裕福に暮らしている商人た

ちも数知ります。
 この通りはどこにあるのでしょうか。西鶴はそのコツをあらわすために、この「西鶴はそのコツを見極めて、どこで大もうけするには、長崎特有の難しい生糸相場を理解して、どこで大もうけするには、長崎かは掛け合い(1年間の掛け売りの代金請求)の取り立てに来る商人を避けるため、いつも京都の自宅に戻れなく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

以前に長崎商いで紹介した「あま竜(コモドドラゴン)の子」、「火食い鳥」が珍しい

難波西鶴と 海の道

【55】

そのため、資金を借りた人たちに、そのもうけを利子として返してしまつて、手元にはさしてお金が残らず、自らの師走の支払いも十分にできず、大みそかは掛け合い(1年間の掛け売りの代金請求)の取り立てに来る商人を避けるため、いつも京都の自宅に戻れなく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

それでも懲りずに舶来の鳥を購入して、京都に帰りますが、誰も珍しがらずもうかりません。ところが、ありがたくなりな孔雀の人気で損だけはしませんでした。皮肉なものです。

中国の人に珍しい舶来品について相談しますが、「鳳凰も雷公(かみなり)も見た者はいません。伽羅も人参も日本で希少なものは中國でも少ないのです。そ」で、その一大決心とともに長崎に下り、いろいろと提案をめぐらせますが、もうかりそうな仕事はひとつもありません。仕方なく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

さすがにこの商人も自らの商人としてのあり方を世間と念を入れてよくよく見比べて、

大もうけのコツ

「だしきに小規模に商売しておれば大きな損にはならないが、皆があこがれているような大もうけができるない。今年は何でもよい、本業の生糸商売以外に一工夫して、大もうけせずにはおかないと一念発起します。そ」で、その一大決心とともに長崎に下り、いろいろと提案をめぐらせますが、もうかりそうな仕事はひとつもありません。仕方なく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

以前に長崎商いで紹介した「あま竜(コモドドラゴン)の子」、「火食い鳥」が珍しい

見世物なのですが、購入するツテがありません。

中国の人に珍しい舶来品について相談しますが、「鳳凰も雷公(かみなり)も見た者はいません。伽羅も人参も日本で希少なものは中國でも少ないのです。そ」で、その一大決心とともに長崎に下り、いろいろと提案をめぐらせますが、もうかりそうな仕事はひとつもありません。仕方なく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

それでも懲りずに舶来の鳥を購入して、京都に帰りますが、誰も珍しがらずもうかりません。ところが、ありがたくなりな孔雀の人気で損だけはしませんでした。皮肉なものです。

中国の人に珍しい舶来品について相談しますが、「鳳凰も雷公(かみなり)も見た者はいません。伽羅も人参も日本で希少なものは中國でも少ないのです。そ」で、その一大決心とともに長崎に下り、いろいろと提案をめぐらせますが、もうかりそうな仕事はひとつもありません。仕方なく、「ともかく、来春の見世物芝居の見世物が欲しい。もしや、海を越えてきた舶来品にこそ、いい物があるのではないか」と長崎中を探し回ります。

それでも懲りずに舶来の鳥を購入して、京都に帰りますが、誰も珍しがらずもうかりません。ところが、ありがたくなりな孔雀の人気で損だけはしませんでした。皮肉なものです。

文化

難波西鶴と 海の道

【56】

森田 雅也

前回は西鶴の住む難波と海の道でつながる長崎の話でした。今日は番外というわけではないのですが、韓国济州島の話です。先月末より海洋と文學の調査で济州島まで行つてきました。その余瀧として、書かせていただきます。

济州島は海の道の交差点のような島です。济州島を地図の中心に据えて考えれば、北は韓国本土、東は日本、西は中国、南は沖縄へと四方に海の道を介して通じているのです。これが江戸時代であれば、

济州島は、古代には耽羅と称した独立国家でした。百濟、新羅、後に高麗の支配を受けますが、朝鮮初期に至るまで隠然たる勢力を保ちました。この点が独立国家琉球王国と似ているのです。

今回訪れた「三姓穴」では、その济州島開闢伝説を学びました。高・栗・夫の三兄弟がガル船による発見（1642年）によります。以来ケルバーツ（Quelparts）として知られるようになりました（「国史大辞典」）。

中央に漢拏山がそびえ、全島ほとんどが火山岩よりなるこの島は、総面積が1848平方キロメートル。これは、大阪府とほぼ同じくらいの大さです。この島に海の道となると、「碧浪國」は日本ではないかと。うれしい限りです。最近歴史上の話題になつて、蒙古襲来を日本が打ち

です。

济州島は、古代には耽羅と称した独立国家でした。百濟、新羅、後に高麗の支配を受けますが、朝鮮初期に至るまで隠然たる勢力を保ちました。この点が独立国家琉球王国と似ているのです。

です。

济州大学の在日济州人センターにも訪問しましたので、現在の在日韓国人の方々の歴史にも書くべきですが、何かの折の別稱として、「三姓穴」では「海の道」といわれています。

です。

济州島の「海の道」で考えさせられるのは、琉球王国への漂流です。その漂流がもととなり、济州島と沖縄の交流が行われ、沖縄の造船技術が朝鮮に伝わり、秀吉の水軍を破ることとなるのですが、紙幅に余裕がありません。またいずれかの機会に述べます。

です。

それでも济州島と西鶴、何か関係があつても不思議がないと確信しました。

です。

それについても济州島と西鶴、何か関係があつても不思議がないと確信しました。

です。

それが琉球王国に似ている」と

です。

いる、蒙古襲来を日本が打ち

交差点のような济州島

琉球王国の歴史と相似

言語学科教授

(蘭西学院大学文学部文学

誰もが知る隠し名の大商人

**難波西鶴と
海の道**

森田 雅也

『感』と呼ばれる、遊里で散財できるほどの大金持ちたちがたくさん登場します。巻七の二「勤めの身は狼の切り売り」には、神楽庄左衛門の鶴籠、三十七挺、出口にかけ、両足おろして、百足大団と我に歸らされた」という昔話を語ります。

彼は、当時有名な末社(太鼓持ち)でした。太鼓持ちは遊里での宴会を盛り上げるためのコメディアンに相当しますが、太夫同様、大団はその資金力によって、自由になりますが、世介のように有名な面白い太鼓持ちを自分で活躍しません。むしろ、三都の遊里の太夫の逸話が中心に構成された38章の短編集といえます。

そのため、この作品には「大」なる太鼓持ちは何人もいます。

『西鶴の浮世草子』第2作目に「諸鶴大団(副題・好色一代男)」「貞享元(1684年刊)」があります。「好色一代男」の主人公世之介の逸見世伝を登場させていますので、「二代男」ということになりますが、世介のようには活躍しません。むしろ、三都の遊里の太夫の逸話が中心に構成された38章の短編集といえます。

『江戸時代に名前が残っています。そのため、この作品には「大」なる太鼓持ちは何人もいます。

【57】

が、「神楽庄左衛門」は、タモリや明石家さんまのように、ハイセンスな笑いを提供できる大芸人であったと言えます。その彼によれば、黄金さえあれば、1日という時間さえも、自由気ままに支配できるというのです。

格好の例として、以前に「長崎の唐人様」が、島原中の太鼓を持ちを集め、「芝居がへりよりは」には、神楽庄左衛門の鶴籠、三十七挺、出口にかけ、両足おろして、百足大団と我に歸らされた」という昔話を語ります。

『大団』のいづれの注釈を見て、も「長崎の唐人様」は未詳だとしますし、太鼓持ちは集めた行動も明確ではありません。

おそらく、この「長崎の唐人様」という名こそ、当時、京都から長崎へ通い商いをして大成功、大もうけした、誰もが知っていた大商人の隠し名、ニックネームだったのではないかでしょう。次回、もう少し論証してみます。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

1列になってスタンバイさせ、芝居がはねると太鼓持ちは、かから自らの足を出して歩き始め、大団自らも「百足大団」と称して、その先頭に立って歩いていったという事ではないでしょうか。

「長崎の唐人様」

しかし、想像するには、「長崎の唐人様」と呼ばれていた大団が、芝居がえりに乗る豪華で高価なかごを引台も借り切り、そのいすれにも多数の太鼓持ちは乗せ、出口に

金持ちの中の金持ち「唐人様」

前回は、西鶴の浮世草子『諸鶴大鑑』(副題・好色二代男)』(貞享元(1684)年刊)巻七の二「勤めの身は狼の切り売りよりは」に描かれている「長崎の唐人様」という大金持ちの逸話でした。

島原遊郭で有名な幫間(太鼓持ち)が話からば、京都から長崎への通い商いで大もうけした豪商の悪所(遊里)でのニックネームだったのでしょうか、「唐人様」というネーミングが気になります。

西鶴自身、俳諧仲間から、「阿蘭陀西鶴」と呼ばれて、

神社で一夜夜に2万3500もの句を詠んだ俳人・西鶴の超人ぶりを指しています。

オランダ人は、毛が赤く、目が青く、背丈が高く、異常に大きいなど、当時は何事も日本人の規格から外れてみえていました。西鶴も「諸鶴大鑑」巻五の二「四百七分の玉もいたづらに」には、自己破産した富商が全財産差し押さえになりながら、ネコの首に高価な珊瑚玉を纏して持ち出した話があります。この品は、富商が全盛時に「長崎通ひの商人」下り賣い求めた、

森田 雅也

前回は、西鶴の浮世草子『諸鶴大鑑』(副題・好色二代男)』(貞享元(1684)年刊)巻七の二「勤めの身は狼の切り売りよりは」に描かれている「長崎の唐人様」という大金持ちの逸話でした。

畏怖の念を抱かれていたことは、すでに述べました。

このニックネームは、佐吉

難波西鶴と 海の道

【58】

中国人を指します。

「唐人」がどうの意味

川から渡来した舶来品で
した。

「天川」とは「阿媽港」、

現在のマカオを指します

が、当時すでにボルトガル

の租借地です。この珊瑚玉

の重さが「四匁七分(約17.6g)」。そんな小さな

玉が「銀三貫目(約600万円)」という高値で売れたというのです。

この珊瑚玉がいかなるものか分かりませんが、中国

あるいはポルトガル産、

はたまた、はるか遠くの異

国からマカオ、長崎を経由

して渡来した舶来品の珍品

であったことに間違いはないでしょう。

数十年前の日本人も、歐米の製品に卑屈なほど信奉

しましたが、古代の『竹取物語』の5人の貴公子も姫

のためながら、舶来品に手

を出します。日本人は舶来

品に弱いのですね。

(関西学院大学文学部文

舶来品好きの心つかむ

学言語学科教授)

難波西鶴と
海の道

森田
雅也

西鶴が長崎商いの成功例を多く挙げていることはここまで述べてきましたが、まだまだあります。今までの例は京都から長崎への商いで成功した人でしたが、埠での成功者は、もっと詳しく描かれています。

「日本永代藏」(貞享5(1688)年刊)巻六の三「買賣」(きは世の心やすい時)には、「小力屋」という埠に住む「長崎商人」を挙げています。この商人は、40歳以降は毎年正月元旦に遺言状を書いて、いつ死んでも悔いが残らないように心を決めて、精いっぱい正

西鶴が言つには、この堺港は長者の隠れ里のようないくらでもいる。ことに「名物記」に載るような立派な茶道具類をはじめ、唐物・唐織などを先祖から五代このかた買ひ置きして、内蔵（金庫）に収めておく人もいると言うのです。

中世の堺は南蛮貿易で賑りなく栄えた地です。その後、豊臣秀吉がその富商たちを大坂へ移住させたことにより衰退し始め、関ヶ原以降、特に大坂夏の陣で町

が灰じんに帰したことから、消滅したように思われがちですが、実際は江戸時代にも別の考え方をしました。

い」「小力屋」は、当時の実感にあった発想に基づいていると言えるでしょう。ところが、西鶴は堺商人の衰えぬ、その底知れぬ経済力について、また付け加えます。

実は『長者の隠れ里』

堺は春らし向きの内実が
ゆつたりしているのが、こ
の地の特徴だと西鶴は絶賛
します。その地の長崎商人
の話。次回に続きます。

学部語学科教授

関西学院大学文学部文

暮らし向きゆつたりの堺

誠実な商売で繁盛

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

前回は「日本永代藏」「貞享五(1688)年刊」巻六の三「賣價は世の心やすい時」に登場する「小刀屋」という場に住む「長崎商人」の話でした。

「小刀屋」は、毎年遺言を書いて、後継に憂いをなくして、1年間力の限り、正直に商売をして一代で大金持ちになつた偉人でした。この人が初めて遺言状を書いた年の遺産総額は銀3貫500目(約700万円)に過ぎなかつたのですが、25年後に亡くなつたときの遺子に譲つた遺産総額は銀850貫目(約17億円)に

書いて、後継に憂いをなくして、1年間力の限り、正直に商売をして一代で大金持ちになつた偉人でした。この人が初めて遺言状を書いた年の遺産総額は銀3貫500目(約700万円)に過ぎなかつたのですが、25年後に亡くなつたときの遺子に譲つた遺産総額は銀850貫目(約17億円)に

汚い商売はせず、世間からはとても敬愛された商人であります。方法が詳細に書かれてあります。

彼が長崎に初めて行ったころ、長崎には中国からの交易船がたくさん来航していました。おそらく、明の遣臣、鄭成功が亡くなり、公海でのテロの危険性が取り除かれたのが、原因だつたのでしょう。

中國船の過多なる来航

(約3万7千円)まで下がつてしましました。「小刀屋」としては、これが底値の買取時と判断しましたが、手持ちのお金がありません。そこで、懇意な商売仲間に10人に、そのもうけの可能性を説明し、1人から銀5貫目(約1千万円)を出資してもらい、銀50貫目(約1億円)もの元手を得ることに成功します。

その元手で輸子を買っておいたと云ふ、案の定、翌年には価格が上昇し、銀35貫目(約7千万円)ももうけてしまいます。そんな喜びのなか、たった1人の息子がたいへんな生死を彷彿とします。その医者に頼んだところ、元の医者を紹介してくれた夫婦に礼と提示しますが、その金額について争いになります。「銀5枚(約50万円)」と相談しますが、その金額について争いになります。「銀3枚(約50万円)」と提示する夫婦に対しても、「銀3枚」と値切る「小刀屋」夫婦でしたが、実際の御札は、銀百枚に加え、真鯛20把、酒一斗樽(一升瓶10本分)、酒肴1箱。無茶苦茶の御札ですが、この人情あつさが、栄える信用になつたのです。商売繁盛には何よりも誠実が大切なのですね。

そこから全株しないので、親せき筋はその医者を見限り、名医と呼ばれる人に診察をお願いしたところ、不治の病とされてしまいます。そこで「小刀屋」夫婦は恥を擰らしてもう一度、元の医者に頼んだところ、元の医者を紹介してくれた夫婦に礼と提示します。そこで、医者への御札を出して、医者への御札を介してくれた夫婦に礼と提示しますが、その金額について争いになります。「銀5枚(約50万円)」と相談しますが、その金額について争いになります。「銀3枚(約50万円)」と提示する夫婦に対しても、「銀3枚」と値切る「小刀屋」夫婦でしたが、実際の御札は、銀百枚に加え、真鯛20把、酒一斗樽(一升瓶10本分)、酒肴1箱。無茶苦茶の御札ですが、この人情あつさが、栄える信用になつたのです。商売繁盛には何よりも誠実が大切なのですね。

難波西鶴と 海の道

【60】

森田 雅也

（約3万7千円）まで下がつてしましました。「小刀屋」としては、これが底値の買取時と判断しましたが、手持ちのお金がありません。そこで、懇意な商売仲間に10人に、そのもうけの可能性を説明し、1人から銀5貫目(約1千万円)を出資してもらい、銀50貫目(約1億円)もの元手を得ることに成功します。

その元手で輸子を買っておいたと云ふ、案の定、翌年には価格が上昇し、銀35貫目(約7千万円)ももうけてしまいます。そんな喜びのなか、たった1人の息子がたいへんな生死を彷彿とします。その医者に頼んだところ、元の医者を紹介してくれた夫婦に礼と提示しますが、その金額について争いになります。「銀5枚(約50万円)」と相談しますが、その金額について争いになります。「銀3枚(約50万円)」と提示する夫婦に対しても、「銀3枚」と値切る「小刀屋」夫婦でしたが、実際の御札は、銀百枚に加え、真鯛20把、酒一斗樽(一升瓶10本分)、酒肴1箱。無茶苦茶の御札ですが、この人情あつさが、栄える信用になつたのです。商売繁盛には何よりも誠実が大切なのですね。

人情家の「小刀屋」

“知恵才覚”と“攻め”的商人

前回は「日本永代藏」「貞享5(1688)年刊」巻六の三「貢徳きは世の心やすい時」に登場する坊に住む「小刀屋」という大金持の話でした。

「小刀屋」は「長崎商人」として、「海の道」を利用して大もうけしたのです。が、長崎商いには大きな資本力が必要だったことは以前も書いた通りです。

ところが、彼は親譲りの

西鶴は、「日本永代藏」においてもうけた商人でも、モ

ラルのない商人であれば、裏で恩路を歩むことも書かれています。以前に紹介し

ています。

ですが、その名医に対し、

出資金を募り、それを資本として、長崎で中国製の高

がそうでしたね。

難波西鶴と 海の道

【61】

級生糸・綿糸を底値で仕入れて、翌年高騰したときに売り、大もうけをし、一代で大商人として成功します。

人が誠実にお金を消費する人々から賞賛され、信用による工夫の賜物となります。

頼されたものです。

西鶴は、「日本永代藏」の最終章に京都に住む、誰からも愛され信頼されている親子三代の夫婦を描きます。それはただ、皆そろって息災に暮らし、祖父恵才覚」だけで一代で金持の米寿祝いに一家で集まっている様子でした。西鶴の理想は、こんな商家の姿にあつたと言えるでしょう。

西鶴は、「この気、大分出し、家計がえし」となります。

西鶴は、「この気、大分

出资金を募り、それを資本として、長崎で中国製の高

がそうでしたね。

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

西鶴の理想

御殿医と言った殿様の治療にあたる医者にいたっては豪華な「乗物」と呼ばれる大名薦籠のよくな立派なものを使っていました。ですから、「歩行医者」とは貧乏医者を指しました。そこで、「小刀屋」は医者にまで買い与え、薦籠医者にまでします。

西鶴は、「この気、大分出资金を募り、それを資本として、長崎で中国製の高

がそうでしたね。

取つて代わられた「海の道」

難波西鶴と 海の道

【62】

森田 雅也

今日は「海の道」に対する雑感です。

前回は「長崎商人」の話でした。今の大坂と長崎は、いろいろな交通網で結ばれていますが、当時は「海の道」しかありませんでした。この大坂と長崎は、「空港」という語の起源を知りませんが、英語の「Air port (空港)」の直訳で、飛行機の駆動装置だけなら「飛行場」ですみます。第一次世界大戦の攻防地は常に「飛行場」でしたが、まだ「空港」と制度ですが、「うまや」は呼んでいませんでした。その「空港」は世界に広がる関西空港、国内を網羅する伊丹空港、さらに神戸空港まであるのですから、流通の範囲は計り知れません。これが「空輸」と呼ばれました。ちなみに、「空港」という語は、戦前からも使用されています。

今日は、「海の道」と似た流通機能のために、「空港」という考え方の基点に「空港」という船の思想が入り込んだのでしょう。

ますが、その「海の道」と似た流通機能のために、「空港」という考え方の基点に「空港」という船の思想が入り込んだのでしょう。

全国に鉄道網が広がると、「港」に代わる「駅」が出現しました。

【62】
もありますが、それより先に明治と共に「鉄道」という画期的なものの出現に衰退を余儀なくされたのです。

港は明治になつても繁盛しましたが、北前船で栄えた往時には戻りませんでしめた。資料館で明治初期の三國港の人々の職業を地図に入れ展示していましたが、当時にさやかさが伝わってきます。

千石船を一隻造る注文があれば、多くの船大工さんが必要です。その人たちが使う独特の鉛などの工具やくさみを作り、鐵冶屋さん、櫓屋さん、帆布屋さん等々、船に携わる職業の人々が、人々が潤います。そのころの活気あふれる港町の様子が目に浮かんできます。

でも、「海の道」が消えただと、彼らはどうなったのでしょうか。文明の波はむ」といですね。

明治になって、日本は江戸時代の川の道、「海の駅」の周辺が街としていたところ、彼らはどうなったのでしょうか。文明の波はむ」といですね。

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

独自の交易した琉球

学言語学科教授
(関西学院大学文学部文

長崎の話を続けてきました。その先端は沖縄・鹿児島といふことになりますが、西鶴の「おはむちん、琉球・薩摩」という呼称です。琉球王国は薩摩に属していました。それについて述べる以下です。

「*くりゅうさつゆう*」の名が最初に現れたのは、「隋書」東夷伝中の「*流求國*」などの理由により、慶長14年である。(中略) : 薩摩藩

森田 雅也

長崎の話を続けてきました。たが、「海の道」をたどれば長崎の向こうには南九州

があります。

その先端は沖縄・鹿児島といふことになりますが、西鶴の「おはむちん、琉

は嘉吉元(1441)年に

室町将軍が琉球を島津氏に与えたといいわゆる嘉吉

の附庸「※9代・島津忠国

が8代將軍足利義教の弟・

大覺寺義昭を謀反の廉で

敗北したとき、義教が妻

として忠国に琉球を与

えとある説】を本に、豊臣秀吉の朝鮮の役に命ぜられ

た賦役「課せられた労働と

地代」を実行しなかったこ

と、徳川家康に漂船救助の

極力秘匿して進貿易を続

けなければならなかつた

ことになります。

琉球は薩摩藩の附庸国(属

国)となつたのであるが、

中国に対してはこの関係を

複雑な立場を維持します。

いつ、どこから攻められる

かもしない、小さな海洋

王国としての悲劇の歴史が

そこになりますね。

(『国史大辞典』より。□

難波西鶴と 海の道

【63】

略した。けれども「れは進貿易「周辺国が眞物を捧げる」と。この場合は対中(国)の利益を得る」ことが眞因と考えられている。「れは進

貿易は薩摩藩の支配する。長い引用になりましたが、これでも一部の説明しかありません。要するに、琉球王国は、江戸時代初期に徳川幕府によって、不本意にも薩摩藩に組み入れながら、その後もひそかに中國にも貿易を行い、庇護を受け、進貿易を行うといふ、鎖国体制を破った独自の交易方法をとっています。

これによつて琉球の物産は薩摩船によつて大坂などに運ばれ、盛んに交易されるとことになります。その一方で新しい徳川將軍に代わるたびに慶賀使を送るなど複雑な立場を維持します。

小さな海洋王国 悲哀の歴史

文化

難波西鶴と 海の道

【64】

森田 雅也

前回は琉球の話でした。本来は、もっと遡けられた時代は鹿児島県とともに薩摩の国でした。

薩摩を舞台とした西鶴の作品としては、「好色五人女」〔貞享3(1686)年刊〕巻五「恋の山源五兵衛物語」という話があります。源五兵衛は薩摩一の男に美童にめぐり会ってしま前。その上「かかる田舎には稀なる色」のめる男なり」というアレイボーリーでした。ところが、その「色」の炎を燃やし、美童も八十郎身を忘れて、またもや恋の道を聞いてからは、

道。26歳の源五兵衛が愛するものは、中村八十郎。「またあるまじき」美男でしたので、命がけの恋を続けていました。どくはある夜、

八十郎は夢のように突如亡くなってしまいます。悲しき恋の美童のものに立ち寄りました。源五兵衛は、世の無常をつづくと感じ、もう一度恋ばしないと、出家姿となつて、高野山へと向かいます。

とくのがどくのが、さてとも、源五兵衛は、旅の途中に美童にめぐり会ってしまします。おまけにその美童は「こうが」を何度も使っています。源五兵衛は、出家の身を忘れて、またもや恋の道を聞いてからは、

その思いに応え、互いに2人は、固く契約を「める」となります。さりながら、源五兵衛も高野山へ向かうという國元での約束は守らねばならず、とわからずは高野山まで行き、奥の院の参詣を「こ」に済まし帰路、再び、恋しい美童のもとに立ち寄ります。夢のような再会を果たしたはずの源五兵衛、とくのが明くる朝、美童の父から、息子は源五兵衛を待ち焦がれたあげく、死んでしまったと告げられます。

すなわち、昨夜の邂逅は夢だったのです。どくがに、愛した人に、2人までも先立たれた源五兵衛の落ち込み様は哀れの極みです。どうで、「こ」まで「ところ」を何度も使っているのでしょうか。本来は、悪文の結末やいかに。次週に続きます。

「好色五人女」は五つの話からなります。そのいずれもに実在のモデルが存在し、ほぼ実名で登場します。

卷一は、姫路のお夏と清十郎の悲恋。駆け落ちに失敗したあと、清十郎は無実の罪で死刑。残されたお夏は出家して菩提を弔います。卷二は、大坂の椿屋とおせんの恋物語。しかし、最後おせんは誤って長左衛門と姦通し、死刑となります。卷三は、京都のおさん、茂右衛門の姦通話。2人は

テレボム(展開)、こつけい味を出すことに成功しています。

恋の道は男色の道

薩摩一の男前の恋路いかに

(関西学院大学文学部文學言語学科教授)

男色家、源五兵衛に恋するおまん

難波西鶴と 海の道

【65】

森田 雅也

前回は、「好色五人女」

人公おまんでした。年は16歳。十六夜の月もねたむほどの美しい顔立ちで、心ぞしも優しく、「恋

商があり、その娘こそが主人公おまんでした。源のたた中」といえる色香た

だとう女性でした。もちろん、彼女を見た人は皆思いました。

男装しても女のおまん。

寂しい山里におびえながら

行きます。

悔しい、会って一言恨みたけでも言ってやる。密かに前髪姿の若衆となつて、源五兵衛の庵へと忍んで立たれてしまします。

男装しても女のおまん。男装しても女のおまん。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

なつてしまします。

そのよつなどとに、ある

人が、源五兵衛が出家した

ことをおまんに教えてくれ

ます。するとおまんは、猛烈に怒り、いつか時節を待つてこの思いを遂げようと

思っていたのに、出家とは

ついて

恥じ、会って一言恨みたけでも言ってやる。密かに前髪姿の若衆となつて、源五兵衛の庵へと忍んで立たれてしまします。

男装しても女のおまん。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

寂しい山里におびえながら立たれてしまします。

「真享3(1686)年刊」
巻五「恋の山源五兵衛物語」
の主人公おまんの恋人、源
五兵衛の紹介でした。
源五兵衛は薩摩一の男前
ですが、やめられないのが
男色の道。しかし、心から
愛した相手に2度まで先
立たれてしまいます。

ついに、この世を捨て、
恋を捨てて、まことの菩提
心から、片田舎の山かけに
返事はありませんでした。
返事はありませんでした。
それでも、おまんは数々の
ばかり考ふる生活を送るよ
うになります。そのころ、使
つて、独身を通している
同じ薩摩の国浜の町という
ところに琉球屋某という富

とこうが、おまんは昨年
の春から、男前の源五兵衛
の姿に恋して、何通もの恋
文を送っていました。でも、
女色に興味のない彼からの
返事はありませんでした。

（多情）な御かた」と些
か嫌気がさしますが、思
いこんだ恋。あきらめず、つ
いに源五兵衛に会います。

すると、2人の若衆は、お
まんに驚いて消えてしま
ります。2人は、前回書いた

どうやってハッピーエンドに?

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

このあたりが実にコミカルに描かれているのですから、「紹介できないのが残念です。鎌倉期の『とりかへばや物語』に似ていますね。源五兵衛はおまんの魅力にぞつこんとなり、あつさりと勇色を放棄。めでたくおまんと結ばれ、所帯を持ちます。しかし、収入の道はなく、みすぼらしい板づきの小屋住まい。ここから、夢のよくなハッピーエンドに向かいますが、次回にて。

どん底味わう源五兵衛とおまん

難波西鶴と 海の道

【66】

森田 雅也

に、衝撃的な作品でした。
もっとも、その各話が真

前回から続く、「好色五
人女」(貞享3(1686))特
に姫路の「お夏」の場合、
年刊「巻五」は、その巻題「恋
の山源五兵衛物語」が示す
とおり、薩摩一の男前、源
五兵衛の物語です。しかし、
「好色五人女」ですから、
本来は、女性主人公でなく
てはいけません。

なるほど、巻一は「お夏」、
巻二は「おせん」、巻三は
「おさん」、巻四是「お七」
が主人公です。それでは、
実在同名のモデルがあり、
特に巻一から巻四の話は事
件から3年も経つておらず、まだ、演劇における際
が「昔前に、2人が恋愛

物が定着していないとき
事件を起した」とは歌祭
文(はやり歌)で何となく
は知っていました。した
がって、前回のコミカルな
男色から女色への変節は、
西鶴オリジナルの創作部分
でしょう。

さて、前回の続きを。
愛し合って所帯をもつた、
源五兵衛とおまんの2人な
がら生計をたてる」などが
きず、困窮してしまいます。
仕方なく、源五兵衛は道
樂さんまいの掛け句、長く
立ち寄らなかつた親の家に
行きますが、浦島太郎。裕
福な両替商であった実家は
人手にわたり、近隣の人には
親の消息を尋ねると、亡くな
ったと告げられ、源五兵
衛に尋ねられているとは知
らず、「末々語りく(後の
世の語り草)」に、そいつめ
がつらを「目みたい事」と
知られていました。

おまんの恋物語は、大坂か
ら遠く離れた謎の「薩摩」
の地で「うことかく、よく
知られていました。

おまんの恋物語は、大坂か
ら遠く離れた謎の「薩摩」
の地で「うことかく、よく
知られていました。

琉球屋で億万長者に

文(はやり歌)で何となく
は知っていました。した
がって、前回のコミカルな
男色から女色への変節は、
西鶴オリジナルの創作部分
でしょう。

実家琉球屋が娘の所在を探
し当てる、おまん夫婦を迎
えてくれます。

両親だけではなく、琉球屋
は琉球屋のいろいろな鍵3
把を譲り受けます。

その鍵で内蔵を開くと、
源五兵衛とおまんの2人な
がら生計をたてる」などが
きず、困窮してしまいます。
仕方なく、源五兵衛は道
樂さんまいの掛け句、長く
立ち寄らなかつた親の家に
行きますが、浦島太郎。裕
福な両替商であった実家は
人手にわたり、近隣の人には
親の消息を尋ねると、亡くな
ったと告げられ、源五兵
衛に尋ねられているとは知
らず、「末々語りく(後の
世の語り草)」に、そいつめ
がつらを「目みたい事」と
知られていました。

さうに庭藏を開けると、
これが、「琉球屋」の屋号
にふさわしい、珍品ばかり
です。次回は、この品々に
注目してみます。

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)



「琉球屋」に眠る数々の珍品

前回見たように、「好色五人女」（貞享3（1685）年刊）巻五「恋の山源」の話はハッピーエンドでしたが、源五兵衛が譲り受けた、おまんの実家「琉球屋」の庭蔵に眠るお宝は珍品ばかりでした。その部分を引用します。

「人魚の塩引・めのふの手桶・かんたんの米かち杵・浦島が廻丁箱・井才天の前巾着・福禄寿の剃刀・多門天の枕鍼・大黒殿の千石どをし・ゑびす殿の球座」の見当もつかない富小遣帳、覚へがたし。世に有ほどの万宝、ない物はない。

しかし、「人魚の塩引」との諸注が指摘するように、

森田 雅也

は驚きです。以前述べた

難波西鶴と 海の道

【67】

これには深い意味はない、西鶴がよく用いている、俳諧的付合い法つまり、イメージの連鎖といえるかもしれません。

三つ目の「かんだんの米かち杵」がそうです。「かんだん」は「世間の夢」の

故事を指します。これは、

西生」という貧乏な青年が

趙の都邯鄲の宿でうたた

寝をする間に、五十余年の

富貴を極めた一生の夢をみ

る夢です。以前述べた

短い手鍼。「大黒殿の千石どをし」は、大黒様につきもの米俵から、米の含む詠の連想。「ゑびす殿の小遣帳」は、商売繁盛の神のイメージから、日々付け合いの遊びにすぎないので

でも、二つ目の「めのふの手桶」は、高価なめのうの洗面器ですから、存在しないとしても、舶来品商い

の象徴でしょう。

すると、「人魚の塩引」とは？ 案外と実際に、沖縄に生息するジユゴンあたりを「人魚」と呼び、希少

な珍味として取引していた

のではないのでしょうか。

それを乾物として所有する異

常さ。

そうなると「琉球屋」。

ご贅沢の品でもうけた実在

の抜け荷商人がモテルだつ

たのでは？ 考えすぎでし

実在の抜け荷商人象徴か

学言語学科教授

(関西学院大学文学部文

次回の「浦島が廻丁箱」もそんな存在しない物品が浦島太郎の玉手箱からの連想。「井才天の前巾着」は

の長い頭か

う月代剃りのカミソリ。「多

門天の枕鍼」は、「多聞天」

の持つ宝棒のイメージから

難波西鶴と 海の道

【68】



森田 雅也

来は、現在の中国・四国地方を指していました。

前回までは西鶴作品に出でてゐる薩摩、琉球貿易（とうり）（つまり密貿易）の話でした。

江戸時代、幕府の直轄領地を中心として、海のは天領と呼ばれました。その天領を管轄し、館内の訴訟・収税・庶務をつかさどった役職を「郡代」としまして、もっとも海の道を使えば、大坂から江戸へ行くと所用時間が変わらぬからですが、九州新幹線が全線開通した今、当時と同様の思いを実感できます。

長崎県・肥後（熊本県）・日向（宮崎県及び鹿児島県）と書かれるより、「西北部」の天領をつかさどった役職を「西國郡代」といいます。西鶴作品では「九県の一部」・筑前（福岡県）・筑後（福岡県）など、「西國」（西日本）と称される方が多くあります。「西國」は「東国」（関東）と称したことでも、幕府が公に対する言葉ですから、本的に九州のことを「西國」と

と呼ぶことがあります。

ちなみに右の「西國郡代」の管轄に含まれていない九州の地名、筑後（福岡県南部）・薩摩・大隅（鹿児島県東部及び種子島、屋久島などの大隅諸島）・壱岐・対馬には天領がありませんでした。

九州に限らないものもありました。「西國なま」」「西國船」「西國者」などです。西鶴の「諸説大鑑」（好色二代男）」「貞享元（1684年刊）」でも、「西國衆か」という間に「いかに備後福山（広島県福山市）ちかき里也」と書いてある例があります。

中でも「米番付」は好評でした。「播州米」「庄内米」「近江米」などが上位にきますが、味を競うの番付では、残念ながら「西國米」は、ようやく19位に入りました。

ところが「西國米」は、早く難波・大坂に入港していく米でした。そのためか、物語も多く残っています。次回に続きます。

（関西学院大学文学部文言語学科教授）

江戸時代、幕府も「西國」公認

意外な隣人は「九州」

西国米の拠点・八代

**難波西鶴と
海の道**

森田 雅也

的な知識を得ていたことも
紹介しました。さらに南に

前回は「西国」という語について述べました。西鶴通じ、そのルートからも西は「西国」を「九州」として使用する場合が多いです。が、それは上方が西の地方と九州航路で結ばれているという強い意識からだったのです。

この海の道の一つに、上方から瀬戸内、福岡を経て長崎に至る航路があり、西鶴は長崎と上方を往来し、成功した商人の話が多いことはすでに書きました。

もちろん、長崎が、鎮国時代の日本と世界を結んだ国際港でしたので、西鶴がその世界との接点から国際石割除の難工事を完成しました。

【69】

した。以来郡中産物の輸送や参勤交代路として活用されました(『国史大辞典』)。近世の海川の集積地が経済と文化を牛耳った例は大和川と天坂、最上川と酒田で述べてきた通りです。八代も藩の米蔵が設けられ、城下町・港町・富島町・物資集散地として栄えました。

「八代と文化」といえば、西鶴の俳諧の師「西山宗因」(1805~1868)が情報を得たことは薩摩の「八代」の地として知られています。

「肥後(熊本県)八代城

代加藤正方の小姓としてつ

かえ、京都で里村昌琢に

連歌をまなぶ。主家改易に

よし浪人し、正保4(1647)年大坂大藏宮の連歌

とほすでに書きました。

そこで寛文2(1662)年、林藤左衛門正蔵が、水圧倒した」(『日本人名大辞典』)

因に師事することによつて、「西」の字をもつ、「西鶴」となりました。ちなみに宗因は、以前紹介したように芭蕉の師でもあり、江戸時代の代表的な連歌師、俳人として名を残しました。しかし、八代の地で活躍したわけではありません。

むしろ、西鶴当時、「八代」の地は「好色一代男」にも出でる「八代衆」の出身地として知られています。

「好色一代男」は、元は肥後の代表的な国人衆でしたが、「好色一代男」に描かれる「八代衆」は大坂新

町遊郭で太夫遊びする姿でした。米商人御用達の社交場

新町ですから、西国米を運んで、相当繁盛していたの

ででしょうね。

(関西学院大学文学部文

学言語学科教授)

二つの九州の不思議話

難波西鶴と 海の道

【70】

森田 雅也

島大根という巨大な根があり、コンテストを行っています。

西鶴『日本永代藏』(貞享5年刊)卷三の「國に移して風呂釜の大臣」という話があります。副題は「豊後かくれなぎまねの長者」です。

「まねの長者」は、伝説の豊後の「真野の長者」のもうじりです。「真野の長者」もじりです。

「真野の長者」は江戸時代より随分以前に成立し、全国の人に広く知られた伝説であったことが分かります。

前回は西鶴と九州の「八代」の話でした。西鶴は九州について、とても多くの正確な情報を得ていたようです。

『西鶴諸国ばなし』(貞永15年刊)序正保2年(1645年刊)には、「筑前の國には、ひとつをさし荷ひの大無あり。豊後の竹は手桶となり」と九州の不思議話を二つあげています。

まず、筑前(福岡県北西部)には、大人2人でカゴを抱きよにしなければ持てない大きな無がある、というのです。不思議でも何でもありません。今でも桜州特産として書かれています。

島大根という巨大な根があり、コンテストを行っています。

西鶴『日本永代藏』(貞永15年刊)卷三の「國に移して風呂釜の大臣」という話があります。副題は「豊後かくれなぎまねの長者」です。

「まねの長者」は、伝説の豊後の「真野の長者」のもうじりです。「真野の長者」もじりです。

「真野の長者」は江戸時代より随分以前に成立し、全国の人に広く知られた伝説であったことが分かります。

それでは、西鶴の時代の「まねの長者」伝説とはどんな話でしょうか。次回に続きます。

(関西学院大学文学部文言語学科教授)

「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞しているだけで信じない感覚的な態度をややしていますが、その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報収集源があったといえるで

す。
「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞しているだけで信じない感覚的な態度をややしていますが、その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報収集源があつたといえるで

す。
「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞しているだけで信じない感覚的な態度をややしていますが、その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報収集源があつたといえるで

確固たる正しい情報源

「風呂釜の大臣」万屋三弥

**難波西鶴と
海の道**

森田 雅也

西鶴の『日本永代藏』「貞享5(1688)年刊」卷三の二「國に移して風呂釜の大臣」の副題は「豊後かくねの長者」が、当時の豊後(大分県)の伝説真この「まねの長者」が、當時の長者のもじりである。

作品では、今の大分市に住む万屋三弥の物語となっています。見事に天寿を全うした父。家督を繼いだ三弥は、父の3年の喪を守り、母にも孝養を尽くし、父譲りの堅実な商いを行います。しかし、父の喪があります。ついには、「西國にならびけると、遺言の「すぎはひなき次第長者(にわか成金)

(生活)の種を大事に商売の工夫を思いつき「菜種油」の商いに乗り出します。

まず、人里離れたスキ

原が何にも活用されている

ことになります。

そこで、浦在中に12人も

なっています。

（生活）の種を大事に商売の工夫を思いつき「菜種油」の商いに乗り出します。

まず、人里離れたスキ

原が何にも活用されている

ことになります。

そこで、浦在中に12人も

なっています。

まず、人里離れたスキ

原が何にも活用されている

ことになります。

そこで、浦在中に12人も

【71】

商売は多くの手代任せ。自分自身で上方に来る必要はなかったのですが、親孝行を思い立つたのでしょうか。

か、母を連れて春の京都見物へとやってきます。ところからは浪費がエスカレートし、豊後の水はいやど、毎日、京都清水寺の音羽の滝の水を運ばせ、風呂を沸かすという愚かな贅沢を楽しめました。

一家親族も、この姿を嘆きますが、全くやまず、しつかり者の手代が「くなつてからは浪費がエスカレートし、豊後の水はいやど、毎日、京都清水寺の音羽の滝の水を運ばせ、風呂を沸かすという愚かな贅沢を楽しめました。

一家親族も、この姿を嘆

りますが、全くやまず、しつかり者の手代が「くなつてからは浪費がエスカレートし、豊後の水はいやど、毎日、京都清水寺の音羽の滝の水を運ばせ、風呂を沸かすという愚かな贅沢を楽しめました。

昔にも、東北松島の塩釜の景色を京都六条に再現した源融大臣の愚行がありました。しかし、人々はそれをもじって「風呂釜の大臣」と呼んで嘲笑しました。この堕落案の定ある年、萬屋は赤字を出すと瞬く間に破綻し他界してしまいました。何とも惜めなサクセスストーリーですね。

京にはまって水運ばす

学言語学科教授

(関西学院大学文学部文

難波西鶴と 海の道

[72]

森田 雅也

いたところ、この地域の人々が「傘」というものを見知らず、村にあげて大騒動になつた」と記しています。

和尚肥後にて輪轍首を見給ふ事」でも、肥後の山奥に「ろくろ首」の一旗が住んでいたとするように、カルチャー・ショックの設定場所としてふさわしいイメージだったのでしょうか。

そういえば、夏目漱石『三

州の田舎者』の主人公が都

政策が、鎮國による国内貿易に限ったため、海外貿易が得意な博多商人の特性が生かされなくなつた」とが考えられます。

近松門左衛門の浄瑠璃『博多小女郎波枕』「享保3(1718)年11月大阪・竹本座初演」は長崎に実際についた密貿易団事件を扱い有名となりましたが、博多の遊女小女郎が筋に絡みます。

しかし、それより早く、「博多小女郎」は、西鶴の『好色一代男』「天和2(1682)年刊」や、「勇色大鑑」「真享4(1687)年刊」に登場します。詳しくは次回に譲ります。

西鶴の「日本永代蔵」「貞享5(1688)年刊」巻三の二「国に移して風呂釜の大臣」の副題は「豊後かくれなきまねの長者」は悲惨な没落話でした。しかし、それも京都在文化にあがれる気持ちから起きたカルチャー・ショック話はよ。

「西鶴諸国はなし」「貞享2(1685)年刊」巻一の四「傘の御託宣」の場合、和歌山城下の「掛い村」がありそうに思えるのです。作の観音」にあった1本の「傘」が、「神風」に吹き飛ばされて、肥後(熊本)語評判』「貞享3(1686)年刊」巻一の二「絶岸

実際は文化の開けた土地

カルチャー・ショック話多い九州

学言語学科教授

(関西学院大学文学部文

字彙元隣「百物語評判」、「貞享3(1686)年刊」巻一の二「絶岸

原の戦い前後に絶頂期を迎

した。また、西国肥後の山奥なら、より確実に傘を知らないい村がありそうに思えるのです。

同時代の山岡元隣「百物語評判」、「貞享3(1686)年刊」巻一の二「絶岸

原の戦い前後に絶頂期を迎

元は普通名詞だった「博多小女郎」

前回、「博多小女郎」の話を中途半端にあけてしまいました。海外との貿易で常に歴史の先頭にあった博多商人。近世に入つても活気づいていました。

海運で栄えた港には必ず、大きな遊女町がありました。博多では柳町(現在の福岡市博多区)にありました。その柳町の遊女たちを「博多小女郎」と呼んだようです。元は普通名詞なわけです。

江戸初期の慶長(1596~1615年)のころ、この柳町に、ある小女郎がおり、唐人たちの乱闘を抑え、その首領を捕らえた

前回、「博多小女郎」の話を中途半端にあけてしまいました。海外との貿易で常に歴史の先頭にあった博多商人。近世に入つても活気づいていました。

海運で栄えた港には必ず、大きな遊女町がありました。博多では柳町(現在の福岡市博多区)にありました。その柳町の遊女たちを「博多小女郎」と呼んだようです。元は普通名詞なわけです。

江戸初期の慶長(1596~1615年)のころ、この柳町に、ある小女郎が

森田 雅也

功績により幕府から姫長を拝命したとされます。以来、それが「博多小女郎」として

うかがわれる者がありました。そのときに人殺し事件があつて、「袖の姿」が大騒ぎになつて以来、夜の廻遊びが制限され、昼間でさえ、廻の出入り口である大門を開させて以降、夜の廻遊びが制限されるようになりました。

男」「天和2(1682)年刊」の巻五の大「当流の男を見知らぬ」では、世之介が博多を訪れた際を以下のように書いています。

「都より飛梅、筑前の柳町を見にまかりぬ。昔は博多小女郎波枕」「享保3(1718)年11月大坂・竹本座初演」を紹介しましたが、長崎で当時、実際に起つた密貿易事件を扱っているところから、この女主人公は、西鶴の言う「博多小女郎」とは別に、何と見えるでしょう。それでも博多の女は強いですね。

(1)『好色一代男』の頭注によれば、「遊客は申の下刻(午後5時ごろ)切に客をかへし、夜陰に留めず。腰の物帶する時は入口の番所を通さず。」(色道大鏡・博多柳町)。寛文8(1668)年12月の出火以来、夜見世を禁じたことがあります。ただ、この嚴戒態勢に「博多小女郎」が直接受絡んでいるかどうかは不明です。

前回、近松門左衛門の浄瑠璃「博多小女郎波枕」

【73】



亂闘劇で「伝説の気丈な美女」に

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

年刊」の巻五の大「当流の男を見知らぬ」では、世之介が博多を訪れた際を以下のように書いています。

「都より飛梅、筑前の柳町を見にまかりぬ。昔は博多小女郎と申して冠氣者ありける。人の命を取つて袖を引ける。この地を去つて、広島の宮島に行つてしまします。何とか大きさなどですが、またござら、この柳町の情報は

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

実体把握しにくかつた

難波西鶴と 海の道

森田 雅也

前回の「好色一代男」「博多小女郎」の話の際に、「袖の湊」という地名がでてきました。大坂は、流通ルートの集積拠点として「天下の台所」と呼ばれ、繁盛しましたが、特に九州とは海の道で強く結ばれています。

そのため、難波の西鶴にもたらされた情報量も多かったのでしょう。西鶴作品に九州の話が多いことは、これまで述べてきました。古来、九州における海の道において、博多は重要な地でした。博多の「袖の湊」

は、すでにそのにあわいを失っていました。

『国史大辞典』の「博多」の項によれば、「この時期の湊」という地名がでてきました。大坂は、流通ルートの集積拠点として「天下の台所」と呼ばれ、繁盛しましたが、特に九州とは海の道で強く結ばれています。

そのため、難波の西鶴に

た。

に「い」と

と「袖の湊」は伝説の博

多国交渉でした。「日本國語大辞典」の「袖湊」の項目には、「古く、博多（福岡市博多区）にあった港

通じていた入海で、唐船が

入港してにあわったが、御

笛川や那珂川の土砂がつも

り、慶長年間（1596）

1615年に埋没した。

として「夫木和歌抄」「延

慶3（1310）年頃成立

にある「まつうがた

寺を相ついで建立し難持し

てゆく。平安時代末期には

今津（福岡市西区）も開発

され國際貿易港となる。平

清盛が「袖湊」を整備し

て対宋貿易の根拠とした

いわ、博多は平氏の对外

貿易上重要視しなくてはな

らぬが、「袖湊」は歌語的

表現で、その実体は把握し

ています。

それでも、「袖の湊」の

のみならず、「いきよせん

もあ」、「いざなねの」とまり

もとめば「藤原有家」の

みなどに、「いきよせん

もあ」、「いざなねの」とまり

西鶴は、筑前の枕詞の

ように「袖の湊」や「袖

浦」という語をよく用いて

います。「西鶴名残の友

〔元禄8（1695）年刊〕

においても、「袖の湊のふ

る里思ふ筑前の侍ひ東武

（江戸）のつむねにぐだら

れしが」と、うなづかれた筑

前の武士の故郷として用い

られてはいるものの、話の

舞台ではありません。

「本朝二十不孝」「貞享

3（1686）年刊」では、

「露に、涙に、両袖の奏、

筑前の国、福岡の町はづれ

に」は、普通名詞と固有名

詞とをかけて用いています

が、舞台は筑前です。

最もその地に「だわって

用いているのが、「西鶴諸

国はなし」「貞享2（16

85）年刊】卷三の四「紫

女」です。「これは怪談。次

回にして。

伝説の博多国際港「袖の湊」

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

難波西鶴と

[75]

西鶴の「よみ」作品に筑前博多の「袖の奏」や「袖の浦」という語を用いています。前回、最もその地にこだわっているのが「西鶴諸国はなし」「真享2（1685年刊）巻三の四「紫女」だじしました。その書き田ひはひ下です。

「筑前の国」袖の奏といふ所は、むかし読（ママ）みぬる本歌に昔はり、今は人家となつて、看棚見え渡りける」。「読みぬる」は、本来、「詠みぬる」です。前回述べたように、「袖の奏」は歌枕として、古代

歌に替はり」とは、そんな歌に詠まれた風光明美な場所は過去の話となつてどうよくな意味です。

前回、近世初頭にかつての貿易港「袖の湊」がなくなったという記事を書きましたが、今は人家が建ち並び、魚を売る店が並んでいるといふのです。私事ながら昔、沖縄の島に行つた時、地元の人からこの辺りは自分足で魚を捕るので「魚屋」がないのだとか聞かれ驚いた思い出があります。

先日、韓国の海辺でもそのような話を聞きましたが、「魚屋」が必要となるのは、

人が増えてきた証拠なのでしょう。

話としては、そのような「磯くさぎ風」を嫌い、精進潔斎して武道修行に励む「伊織」という若い世捨て人が主人公となっています。おそらく、「磯くさぎ風」は単なる魚異さだけではなく、人間のにおいも含まれているのでしょうね。

「定家机(文机)」に向かって、毎日、「二十一代集(古今集)から『新続古今集』までの勅撰集)」を書写し、一人暮らしする文学青年のもとに、ある夜突然、美しい女性が訪れます。もちろん、伊織にとって見知らぬ女性でしたが、紫の下着をつけた美女は、自ら積極的に伊織をくどうき、一夜で男女の仲になってしまいます。その仲は日々深まり、伊織も精進を捨てて夢中になってしまい

西鶴諸国ばなし「袖の湊」

そんなある日、偶然数少ない友人の医師に会ったところ、伊織の顔に死相が表されていると指摘されます。信しようとしている伊織に、医師は、友人として付き合ひながら、その死を教えないで、伊織は、医師に相談する。どうれこそ妓女「紫女」。退治を勧められ、紫女に会つた際、抜き打ちに切りつけ、負傷させます。

逃げた後を追うと、狐穴があり、まさに化け物。その後も乗女として、人々を苦しめますが、国中の宗教者でどうにか封じ込めます。この話、古典は中国小説「剪燈新話」とか。人の人生を狂わす、キツネが化けた美しいお姉さん。怖いですね。

芭蕉と西鶴の旅

「江戸前期の地誌」4巻
4冊。井原西鶴著。絵師未詳。元禄2(1689)年刊。蝦夷十島から五島・奄美・宿駅・物産・社寺・名所・古跡・故事・古歌などを記述した絵入り旅行案内。「東海道名跡図会」(寶政)

ここまで西鶴と海の道について話を展開してきましたが、今まで断片的には述べながら、ちゃんと説明していない西鶴作品がありまして残している「『一目玉鉾』」です。それは西鶴が唯一地誌として残している「『一目玉鉾』」です。

「江戸前期の地誌」4巻
4冊。井原西鶴著。絵師未詳。元禄2(1689)年刊。蝦夷十島から五島・奄美・宿駅・物産・社寺・名所・古跡・故事・古歌などを記述した絵入り旅行案内。

森田 雅也

7年刊)は、この東海道の部分を求版再刷したもの(「日本国語大辞典」)。

仮に、この書のすべてが

西鶴の実際の見聞によるところは比較にならないほどです。それは西鶴が唯一地誌として残している「『一目玉鉾』」です。

「江戸前期の地誌」4巻
4冊。井原西鶴著。絵師未詳。元禄2(1689)年刊。蝦夷十島から五島・奄美・宿駅・物産・社寺・名所・古跡・故事・古歌などを記述した絵入り旅行案内。

難波西鶴と 海の道

【76】

「奥の細道」では、現在の宮城県白石市斎川村「甲冑堂」を訪れたときの場面を以下のように記述しています。「中にも一人の嫁がしるし先良也。女なれどもかひがひしき名の世に聞えつる物かなと袂をぬらしぬ」。

「一人の嫁」とは、源義経の忠臣として、淨瑠璃や歌舞伎などでなじみ深い「繩信・忠信」兄弟の妻を指します。芭蕉は「夏草や兵どもが夢のあと」の句でも有名なように「奥の細道」では、源平の盛衰にかかわる古戦場を意識して巡っています。

芭・対馬に至る間の城下町道」の章段「佐藤庄司の旧跡」です。「奥の細道」は、元禄15(1702)年刊の紀行文です。刊行された年には、すでに芭蕉(1644~94年)は「くなっている」。芭藤松信は、屋島の戦いで、平家方が義経を狙った

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

ですが、その旅は元禄2(1689)年3月27日、門第曾良を伴って江戸深川を出

発して、奥州、北陸の名所旧跡を巡り、同年9月6日伊勢に向かうため大垣に到着するという行程です。

矢を我が身で防いで戦死し、忠信は鎌倉勢に迫われて、吉野で義経の身代わりとなつた忠臣です。その妻たちとなれば、芭蕉は是非立ち寄らねばなりません。佐藤庄司は兄弟の親。その地に祀られている甲冑姿が、兄弟の留守を守る嫁たちの勇姿とすれば感動ですね。

ところが、意外にも、この甲冑姿が2人の嫁だと伝えている「奥の細道」以前の地誌は、西鶴の「一目玉鉾」だけなのです。西鶴の九州の情報が正確なものだったという例として、「一目玉鉾」だけなのです。西鶴の

もつしまい、本論を離れてこの芭蕉と西鶴の旅について述べてみます。夏休み特集としてお許しください。

対照的な芭蕉と西鶴

前回は西鶴の地誌「一目玉鉢」と芭蕉の紀行文「奥の細道」の関係について述べました。テーマからは脱線です。芭蕉は「奥の細道」で歌枕「しのぶもぢ拂り」(福島市山口)を訪れて、「明くれば、しおぶもぢ拂の石をたづねて忍ぶの里に行ななかば土に埋れてあり。里の童部の來りて教へる、昔は此の山の上に侍りしを往来の人の妻草をありし」と此の石を試み侍るぞにくみで、此の谷につま落せ

玉鉢」と芭蕉の紀行文「奥の細道」の関係について述べました。テーマからは脱

歌枕「しのぶもぢ拂り」の歌は「古今集」にある源氏と土佐の娘虎女との悲恋を歌った「みわのくのしのぶもぢ拂り」(誰ゆへにみだれんとおもひ我ならぬに)が有名です。「しのぶ

森田 雅也

ば、石の面下ざまに伏しだけといふ。さもあるべき事にや」と書き残しています。

難波西鶴と 海の道

【77】

歌がありますが、歌の意味から「忘れ草」がいいでしょ。「忘れ草」とは、今のカンゾウ(薺草)の一種。カリ科の多年草で、夏、花茎を伸ばし、黄赤色の八重咲きの花をつけるそうです。ただ、染料として使っていたかどうかは不明です。

とうかい 後味の悪さと韻晦性

芭蕉は「一本松(福島県二本松市)を出て、謡曲『安達ヶ原』で有名な鬼婆が住んだとされる黒塚の岩屋」を訪ねます。すると街からにはるかに離れた山かけの集落に半分土に埋もれたもじ拂石がありました。

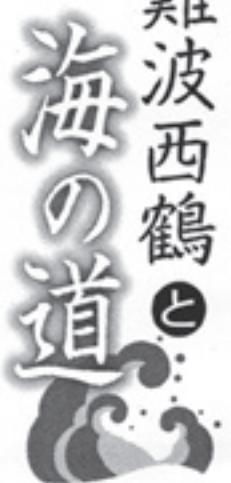
東北の名所旧跡は調べたけれど、北海道千島の有名な千鯛は見ていないから語りようがないが「忍拂の石」の方は火打ち箱には入らないほど大きかったよ、

どうのうですね。西鶴らしい

韻晦性ですね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

難波西鶴と



【78】

森田 雅也

前回は西鶴の地誌「一目玉鉾」
年刊】元禄2（1689）

の表現について述べました。「海の道」から
東北の「忍者石」の項
の表現の違いについて述べ
ました。「海の道」からは
脱線ですが、西鶴の「一目
玉鉾」とは、彼ならではの
面白い視点で描かれた地誌
です。

その「一目玉鉾」巻四には、「なんじいや四千百
四十里」は「四千百里」と呼び、「臥車」と記
しています。いずれにしても、「い
んじいや」とは「インティ
ア」の「」です。つまり、「
インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

「ゴア」は、「日本」の
「」です。「ゴア」は「日
本国語大辞典」によれば、
「東インド共和国西岸の州。
主都はパンジム（パナジ）。
1510年以来ポルトガル
の植民地となり、東洋貿易
の拠点として繁栄。196

1年インドに接収された。
イエズス会のアジア伝道の
中心地でザビエルの墓があ
る」という地です。

江戸時代は、オランダか
らもたらされたインド織物
そのものを「カニア」、「ゴ
ア」と呼び、「臥車」と記
しました。いずれにしても、「
いんじいや」は「インティ
ア」の「」です。つまり、「
インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

空港からのインドのアリーマ
で空路3427kmとあります。
約5500キロという
といふでしようか。

日本とインドが海路で
のくらいの距離で結ばれて
いるか存じませんが、西鶴
が「インテ」と「ゴア」で
海風数を盛えて表記してい
るには注目できます。も
しかすると、西鶴の知識の
中には、インドに、東海岸
のないところまで分かっていたの
ではないでしょうか。事実、
西鶴の頃、西海岸のボルト
ガル領「ゴア」では魔れは
じめ、東海岸の「ポンティ
シェリ」付近ではフランス
とイギリスの東インド会社
がしのぎを削り始めていた
のです。

その「一目玉鉾」巻四には、「なんじいや四千百
四十里」は「四千百里」と呼び、「臥車」と記
しています。いずれにしても、「い
んじいや」とは「インティ
ア」の「」です。つまり、「
インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

「ゴア」は、先にもあげ
たように日本にキリスト教
を初めて伝えた」とて有名
な「フランシスコ・ザビエ
ル」が拠点とした場所です。
彼はマラッカにおいて、日
本人アンジローと出会った
ことによって東洋伝道を思
い立つのですが、その宣教
師ゆかりの「ゴア」を西鶴
が重要視していたことに
驚かれます。

私事ながら、今夏運転の
間を縫って、イタリアに行
つきました。ローマでは
イエズス会の本拠地ジエス
教会を訪ねました。教会に
は「聖フランシスコ・ザビ
エル礼拝堂」があり、ザビ
エルの右腕が保存されてい
ます。見るとほかないま
せんでしたが、案外西鶴は
ザビエルのことをも知ってい
たのではないかと思いつめ
ぐらした次第。可能性があ
るかもしれませんね。

「一目玉鉾」

学言語学科教授
(関西学院大学文学部文

「インド」「ゴア」使い分けた?

難波と九州結ぶ話

森田 雅也
前回は「『日玉録』元禄2(1689)年刊」にあるインドのカアの記事でした。閑話休題。再び、九州と難波西鶴をつなぐ海の道の話をします。

西鶴の「武道伝来記」「貞享4(1687)年刊」巻四の二「誰捨子の仕合」

に難波と九州を結ぶ話がありま

す。昔、島原の港に辻岡角弥とい

う無法な役人がいました。役職は「浦の吟味役人」。この役職は船の出入りを取り締まるのが仕

事です。この角弥は武士としての奉公をなむべにし、毎

日せいたぐの極みを尽くし、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

州と難波西鶴をつなぐ海の

道の話をします。

西鶴の「武道伝来記」「貞

享4(1687)年刊」巻四の二「誰捨子の仕合」

に難波と九州を結ぶ話がありま

す。昔、島原の港に辻岡角弥とい

う無法な役人がいました。役職は「浦の吟

味役人」。この役職は船の

出入りを取り締まるのが仕

事です。

この角弥は武士としての

奉公をなむべにし、毎

森田 雅也

日せいたぐの極みを尽くし、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主

君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

州と難波西鶴をつなぐ海の

道の話をします。

西鶴の「武道伝来記」「貞

享4(1687)年刊」巻四の二「誰捨子の仕合」

に難波と九州を結ぶ話がありま

す。昔、島原の港に辻岡角弥とい

う無法な役人がいました。役職は「浦の吟

味役人」。この役職は船の

出入りを取り締まるのが仕

事です。

この角弥は武士としての

奉公をなむべにし、毎

難波西鶴と 海の道

【79】

名に、「辻岡角弥」上意討ちの命が下ります。両名は「辻岡角弥」を見事討ち渠たしましたが、その実は、茂右衛門の武道による手柄で、団平は何の役にも立ちませんでした。

元の立場過ぎるが、団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。そのうえ、武士は主君に勝手に他国から嫁を娶るが禁じられていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らていました。

団平は「さつき」、「じ」として、京から美女を取り寄せ、妾として暮らしていました。

「誰捨子の仕合」

学部文
(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

複雑な「敵討」制度

（関西学院大学文学部文
学言語学科教授）

前回は、西鶴の『武道伝来記』（貞享4（1687）年刊）巻四の一「誰捨子の仕合」、九州島原の話でした。といひて、以前にも書かせていただいたように、「武道伝来記」は副題として「諸国敵討」としています。西鶴はほとんどの作品を短編集としていますが、それが諸国の話として全國沿岸部を舞台とした場合が多く、そのリアリティーある素材から、情報源が「海の道」にあるのではないかというのが、この連載の要になります。

したがって、作品に「諸国敵討」としては古くからあります。『国史大辞典』（吉川弘

前回は、西鶴の『武道伝来記』（貞享4（1687）年刊）巻四の一「誰捨子の仕合」、九州島原の話でした。

といひて、以前にも書かせていただいたように、「武道伝来記」は副題として「諸国敵討」としています。西鶴はほとんどの作品を短編集としていますが、それが諸国の話として全國沿岸部を舞台とした場合が多く、そのリアリティーある素材から、情報源が「海の道」にあるのではないかというのが、この連載の要になります。

したがって、作品に「諸国敵討」としては古くからあります。『国史大辞典』（吉川弘

難波西鶴と 海の道

森田 雅也

【80】

文館）によれば、「敵討を当然とする思想は古代中國古代の「周礼」「礼記」や孔子などが、父の讐を不俱戴天として是認して以来受けつがれ、「日本では、層輪王（まゆわおう）（または「まゆわねう」）が、父を殺して母を皇后とした事をはじめとして、明治6（1873）年2月の太政官布告による敵討禁止の國法が公布されるまで盛んに行われた」ということです。

江戸時代、「敵討」を実行するためには、まず、自分が仕える幕府や藩などに届け出ることが必要です。

その後、許可を得て、敵討

の旅に出ます。許可なく相手を斬れば私闘と見なされ

ますし、勝手に旅に出れば

脱藩となつて罪に問われます。

す。勤め先から届け出は幕

府にわたり、幕府は帳簿に登録します。旅の間は、公務が停職扱いとなり、見事

「武道伝来記」=「諸国敵討」

本懐をひげて復職します。
復職の際には、多くは「武士の道」として禄が増加されますが、成功率は1%とも言われます。
それは広い日本。探し

所に許可を得たり、討ち果たしても検視役人を通じ、「敵討」として認定してもも、その場所を統括する役所に許可を得たり、討ち果たされないということもあります。
ですが、敵の相手を見つけて討てるのは、被害者が尊属（目上の親族。親、兄、祖父母、叔父、叔母など）でなければならず、卑属（自分より下の親族。弟、妹、子、甥、姪、孫など）の「敵」は討てません。したがって、敵を討てる資格は限られるのです。

もう少し、次回もこの複雑な「敵討」制度について述べます。

悪事で栄えた団平の運命は

前回では江戸時代の「敵討」の実態についての話でした。ふたたび、西鶴の『武道伝来記』「貞享4(1687)年刊」巻四の二、「誰捨子の仕合」の話に戻ります。

九州島原港の無法者、辻岡角弥の目に余る行状に、ついに櫻崎茂右衛門、矢切團平の両名に「辻岡角弥」上意討ちの命が下ります。

両名は「辻岡角弥」を見事討ち果たしますが、團平は茂右衛門をその場でやまし討ちにし、手柄を独り占めにしてしまいます。團平は角弥と茂右衛門が相打撃になります。特に家

の「武道伝来記」「貞享4(1687)年刊」巻四の二、「誰捨子の仕合」の話に戻ります。

一方の茂右衛門は、ふが

いなくも討たれたと不評を

買ひ、冷遇され、家に子も

ない「ひかわづ」に断絶。

妻は曰く「夫の武道が後

れをどうたつことに不審をい

だきながらも、21歳の若さ

で出家し、残された家財道

具もすべて兄茂左衛門の手

に渡ってしまいます。

さて、その悪事で栄えた

團平ですが、世間に評判が

いい「ひかわづ」の悪い上がり、次第に「ひかわづ」の主人とな

り、使用者たから恨まれるようになります。特に家

森田 雅也

なったと偽装し、そのよう

に検分されるなど、大手柄と

賞賛され、名声と増加を得

家は栄えます。

難波西鶴と 海の道

【82】

来る若党的「九市郎」の場合は、ある時、枕屏風の張り替えを命じられたところ、その張り方が悪いと团平に激しく叱責された上、け飛ばされます。「いくら主人でも」と、九市郎が不満の顔つきになると、さうに团平の怒りを買ひ、武家に長屋に押し込められ、もつとひどい目に遭わされ、近

日中に打ち首と決まります。

同じ屋敷に、かねてこの

九市郎と言ひ交わし、夫婦

の約束までして「久米

という腰元がいました。久

米は長屋の窓まで忍び行

き、九市郎と惡しい思いを

語り合います。その時、九

市郎は、さほどの罪もない

女ですね。この頃末はあ

といふ間に評判となり、团

平は逐電します。

藩でも調査し、まず、こ

の上意討ちの検分をした役

人に怠慢を罪として切腹させます。兄茂左衛門は「敵

討」となるのですが、目下

の敵は制度として討てませ

ん。どうなのでしょうか。

次回にて。

家来に恨まれ、逐電

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

茂左衛門自ら浪人に

享4(1608)年刊「西鶴の武道伝来記」「貞四の二「誰捨子の仕合」は、九州島原の話でしたが、複雑になつてきました。上意討ちの命をうけた団平と茂右衛門見事命を果たしたのは茂右衛門であったのに、団平にだまし討ちにあります。

遺族は藩内において、上意討ちで不覚をとった茂右衛門の家として冷遇されますが、手柄を立てて名前と加増を得て、家の栄えた団平でした。が、次第に高慢とな

り、罪のない我が家の使用人をむじい目にあわせ、処刑してしまいます。使用人には残された許嫁がいましたが、団平の悪事を茂右衛門の兄茂左衛門に告げ、自害して果てます。団平は

逐電して藩外へ逃亡していなくなります。

兄茂左衛門は弟茂右衛門の敵討ちをしたいのですが、自分より下の敵は当時の敵討制度のむどでは討つことが許されていません。藩の家老に敵討ちの申請をしたもの、特例を許すことはできないと許可されません。茂左衛門に恩子がいれば、名目上は叔父の

森田 雅也

り、罪のない我が家の使用人をむじい目にあわせ、処

刑してしまいます。使用人には残された許嫁がいま

して、敵討ちの申請をしま

す。

8月14日、茂左衛門は、

難波西鶴と 海の道

【83】

敵となるのですが、娘しかいないため、ついに自らが浪人して団平の跡を追い、諸国を尋ね回ります。

すると、2年過ぎた秋の頃、琵琶湖の志賀・唐崎の辺りに団平が潜伏していることを聞き出します。どこ

を聞き出します。とにかく邊境の邊で偶然、1歳ほどの捨て子を拾います。そこで名を「茂吉」として養子縁組をし、大津の代官所に、この捨て子を名目人として、敵討ちの申請をしま

す。8月14日、茂左衛門は、うまく団平を誘い出し、見事敵を討ち、本懐を遂げます。その時、茂左衛門は茂吉のために乳母を雇い、どうぞその乳母に抱かせた茂吉の手で刺させるというう

い重陽の節句の日にお目見

えに預かり、その後、家は栄えたという、誠にハッピーエンドとなりました。

捨て子と養子縁組し敵討ち

学言語学科教授

(関西学院大学文学部文

いる男に、十両を添えて養子にやります。

帰國した茂左衛門は、団平の首と敵討ちの首尾を記した大津の奉行の添え状を提出します。何とも見事な敵討ちの制度にのつた

あだ討ちとなりましたね。

「武道伝来記」の九州話

前回の西鶴の「武道伝来記」[貞享4(1687)年刊]巻四の一「誰捨子の仕合」は、九州島原の話でしたが、敵討ちが行われた場所は琵琶湖の志賀・唐崎の辺りでした。

こんなに移動距離があり、まさに「江戸の敵を長崎で討つ」ということわざのようですね。どうが、その意味は「意外な場所で、または筋違いな事で、昔の恨みの仕返しをする」(『日本国語大辞典』)だそうです。ただ、「この」とねは西鶴の時代より、もう少し後に

西鶴の頃なら、ここまで連載してきたように、「海の道」がありますから、「琵琶湖→淀川→大阪→瀬戸内海→九州航路」を利用している商人は多かったはずで

す。敵がそのままルートを頼って、琵琶湖周辺に潜伏したのも分かりますし、その情報が島原まで漏れてしまったことも、さして非現実的な話とは言えないで

森田 雅也

成立したようです(前掲書の補注によれば文政年間1818~30年とする)。



【84】

といいで、「武道伝来記」には、他にも九州の話があります。巻七の三「新田原藤太」は薩摩、鹿児島の話です。

鹿児島城の一室で、4人

の武士が泊まり番を勤める

ことになりました。浮橋太

左衛門と巻田新九郎の2人

は宵から夜中まで休んで、

それから夜明けまで勤める

順番でした。2人の休んで

いる間、寝る番をしてい

たのは、沖浪大助と中辻久

四郎でした。2人は弁当を開け、お茶を飲み、寂しい

夜を過ぎて、2人が起きた。

春の長雨が降り出し、カエルの声がやかましくなつて、眠気覚ましになっていました。

その後、大助が私用で町

通りにかかる時、南江主

善という成り上がりの重役

に出会ったところ、「これ

藤太殿、どこへお越した

と声をかけられました。大

助は「私の名前は大助だ。

藤太など」という名乗りは致

りました。

そんな時、天井で音がし

て、何か黒い物が落ちてき

たので、大助は腰差しで抜

き打ちに切り払いました。

行燈の灯火でよく見ると、

一尺四、五寸(約45センチ)の

百足が二つに切られていま

した。久四郎は「なんとい

う早業だ。まるで、その昔

に(大津の)瀬田の橋で百

足退治した田原藤太の剛の

よだ」と大助をもてはや

しました。大助も「あっぱ

れ、この男はまれに見る居

合いの名人でござる」と調

子に乗り、笑いとぼしました。

薩摩舞台の「新田原藤太」

その意味で、その頃は、まだ「江戸の敵を長崎で討つ」ということわざのようですね。どうが、その意味は「意外な場所で、または筋違いな事で、昔の恨みの仕返しをする」(『日本国語大辞典』)だそうです。ただ、「この」とねは西鶴の時代より、もう少し後に

て事実かと言えば、他の西

鶴作品がそうであるよう

に、定かではありません。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

からかう南江主善討つ

前回から西鶴『武道伝来記』「貞享4(1687)年刊」巻七の三「新田原藤太」の藤太の薩摩の話です。ある夜、鹿児島城の一室で泊まり番を勤めていた沖浪大助は、たまたま天井から落ちてきた黒い物を抜き打ちに斬り払います。正体は「百足」でしたが、同僚の中辻久四郎がもてはやすまま、平安時代の百足退治で有名な「田原藤太」氣取りになってしまいます。

もっとも、そんな悪ふざけは、その場限り、笑い捨てにします。ところが後日、大助が町を通りかかった

森田 雅也

難波西鶴と 海の道

【85】

時、成り上がりの重役、南主善に出会いますが、その時、「これ藤太殿、どこへお越しだ」と声をかけられました。大助は「私の名前は大助だ。藤太などといふ名乗りは致さぬ」と言い返しますが、「百足退治の話は、家中的のうわ、誰知らぬ者はいない」と言って、再度、「田原藤太殿」とか

らかわれます。怒り心頭に発した大助は、この百足事件を最も知る久四郎の宿に行き、うわさを聞いたとへの苦情不満を申し立てて詰め寄ります。ところが久四郎は「な

事件の調査をしますが、久四郎からの命がけでの「非立てを取り立てて詰め寄ります」とし、お家お取り潰しと裁決されます。さうが久四郎の申し立ての件では久四郎の申し立ての

に覚えがない。この件は当日、同室で寝ていた2人の仕事に違いない」と大助を納得させます。

前回紹介したように、大助らが夜勤していた一室には、他に浮橋太左衛門と卷

のお褒めの言葉を頂き、帰宅します。主善側では受け容れたがたの連子善太郎は母とともに家来筋の家で養われます。

月日が経ち、16歳となつた田新九郎の2人が寝ていま

した。大助はあまりに頭に血が上っていたので、ようそのまま一人で「田原藤太殿」と言った主善の屋敷へ乗り込み、主善を斬り捨てます。主善の弟善八が斬りかかるますが、これも討ち、家来たちも討ち果たして、心静かに立ち退きます。

この事件を知った藩主は

善太郎は、その地の庵の住持と知り合い、一夜の宿

とします。その夜、夢うつ

つのうちに、たけ十丈(約30尺あまり)ほど)の血みどろの「百足」が枕元に現れます。そして、「私はそな

たの故郷坊津に住むもの

です。あなたの敵は横津の国小曾根(現西宮市)にい

ます」と告げて消えてしま

います。奇怪ですね。次回に。

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

遺子の奇怪な秘話

善太郎の敵討ち

前回から西鶴「武道伝来記」[貞享4(1687)]年刊]巻七の三「新田原藤太」の薩摩の話の敵討ちです。ある夜番の際、百足退治をした冲浪大助は、平安時代の百足退治で有名な「田原藤太」とと言われて得意になってしまいます。

ところが後日、その場にいなかつた上司南江主善に「田原藤太殿」とからかわれ、「私はそなたの故郷坊津に住むものです。そなたの敵は攝津の国小曾根(現西宮市)にいます」と告げて消えてしまいます。

そこで善太郎は、夜の明けの屋敷へ乗り込み、主善や彼の弟などを斬り捨て逃走します。主善側には6歳の遺子善太郎しかいません。母とともに家来筋の家で

16

城まで養つてもらつた善太郎は、親の敵を討ちたいと4、5年も無駄に過ごしました。

後

、四国にわたり、阿波の

磯崎の庵に着きます。

善太郎はその夜、夢うつ

つのうちに、たけ10丈(約

30メートルあまり)

ほどの

血みどろの百足が枕元に現

れます。

西宮に着いた善太郎は草

連、村の貧家に立ち寄り、こ

の辺りに、もしや西国方面

からやって来た者はいない

か」と尋ねると、「向こうの

家の主人が、西の果てから

来られた浪人だということ

です」と教えてくれました。

その家を訪ねると、人気が

ないので怪しく思い、中ま

で入ってみると、40歳ぐら

いの女が座氣づいたまま、

怖気づき、今にも死にそう

になっていました。

善太郎が、お産を助けて

あげると、夫が西国の者で

あります。以前に特集して、

唐無縫と思われるかもしれ

難波西鶴と 海の道

【86】

森田 雅也

前回から西鶴「武道伝来

記」[貞享4(1687)]

巻七の三「新田原

藤太」の薩摩の話の敵討ち

です。

善太郎は、親の敵を討ちたいと4、5年も無駄に過ごしました。

後

、四国にわたり、阿波の

磯崎の庵に着きます。

善太郎はその夜、夢うつ

つのうちに、たけ10丈(約

30メートルあまり)

ほどの

血みどろの百足が枕元に現

ります。

西宮に着いた善太郎は草

連、村の貧家に立ち寄り、こ

の辺りに、もしや西国方面

からやって来た者はいない

か」と尋ねると、「向こうの

家の主人が、西の果てから

来られた浪人だということ

です」と教えてくれました。

その家を訪ねると、人気が

ないので怪しく思い、中ま

で入ってみると、40歳ぐら

いの女が座氣づいたまま、

怖気づき、今にも死にそう

になっていました。

善太郎が、お産を助けて

あげると、夫が西国の者で

あります。以前に特集して、

唐無縫と思われるかもしれ

ません。しかし、この連載では、題名にある「海の道」が江戸時代の難波と日本を結ぶ高速道路と同様の働きを果たしていたことを振り返し述べてきました。決して荒唐無稽ではなくむしろ、納得できる経路なので

ます。

「西園」が「九州」を指すことは述べました。女は夫が7カ月前に亡くなり、忘れ形見が、今、生まれた女の子である」と話をしてくれます。

西宮に着いた善太郎は草連、村の貧家に立ち寄り、「この辺りに、もしや西国方面の主人が、西の果てからやつて来た者はいないか」と尋ねると、「向こうの家の主人が、西の果てから来られた浪人だということです」と教えてくれました。その家を訪ねると、人気がないで怪しく思い、中まで入ってみると、40歳ぐらいいの女が座氣づいたまま、怖気づき、今にも死にそうになっていました。

善太郎が、お産を助けてあげると、夫が西国の者であります。以前に特集して、唐無縫と思われるかもしれ

むなし残る結果に

さらに息子の名前は父親の名をとって、「大七」。ついに親の敵「冲浪大助」の子だと分かりました。善太郎としては、この息子大七が敵です。女に聞けば、大七は今日も父の残した大刀「百足丸」を振り回し、芥川(大阪高槻市)で殺生を繰り返しているとのことでした。

善太郎は芥川まで行き、途中で見事大七を討ち果たしますが、「むなし」だけが残る敵討ちとなりましたね。

善太郎は芥川まで行き、途中で見事大七を討ち果たしますが、「むなし」だけが残る敵討ちとなりましたね。

そこで善太郎は、夜の明けの屋敷へ乗り込み、主善や彼の弟などを斬り捨て逃走します。主善側には6歳の遺子善太郎しかいません。母とともに家来筋の家で

(関西学院大学文学部文
学言語学科教授)

九州から近畿への出奔

難波西鶴と 海の道

【87】

森田 雅也

前回までは西鶴「武道伝来記」(貞享4(1687)年刊)に描かれた九州の話でした。薩摩から西宮への逃避行のように、九州諸藩から近畿圏への出奔例は多く描かれています。

何度も繰り返してきたように、それは九州航路(西国)→瀬戸内航路→大阪といたしました。西国からの物

通り手形なども必要で庶民にとって旅に出ることが難しい状況であったことは確かです。しかし、現在と同様に、国の繁榮のために物流は欠かせず、商人の往来は盛んでした。

さらに「武士たちは参勤交代や国替えがあるわけですから、結構日本での移動が

ありました。今でも書簡などの発見で思わず人同士の交友が確かめられるものためです。

「武道伝来記」(巻三の二)も遠く、豊後府内(大分市)の話です。冒頭に説明、「今

の世は人すなほになりて、信心ぶかく、神國の風俗現

れ、悪魔を払い、松に音なぐ、海に浪立たずして」と

平和な日本(神國)の姿を強調しますが、これは当時

すでに出版禁止令があり、「幽霊・怪異の類を出版し

て世の中を混乱させではない」という条に配慮した書き方だと言えます。

府内に豪傑の良い武家屋敷がありました。住む人

がなく荒れ果て、百年も廃の住處となっていました。

この化物屋敷を新参者の軍学者、梶田奥右衛門は拝領を希望します。家老た

ちは許可しませんでしたが、その熱意によりやく賜

ります。國中はその勇を譽めますが、やはり怪異はあ

りました。

ある夜、八角の牛で剣を並べた羽を広げた化け物が奥右衛門の枕元に現れます。奥右衛門が手拂りにしてやううと思つて、その殺氣を感じ、消えてしまいますが、怪異は続きます。

(関西学院大文学部文学言語学科教授)

西鶴作品化のいい情報源

按摩とらする化物屋敷

前回から、西鶴「武道伝来記」(貞享4(1987)年刊)巻三の二「按摩とらする化物屋敷」の大分の話をしています。新参者の軍学者柳田與右衛門は、自ら熱望して城下の有名な化物屋敷を拝領します。早速ある夜、異様な牛の化け物が現れます。が、與右衛門の殺氣に嚇して退散します。

次には14、15歳の女に化けて真宗の銘力と孫六の大脇差しを持って現れ、「今まで人を化かしておびえさせ家から追い出します」としたが、あなたは肝の据わった方なのですのであきらめます。この刀は、その人たちから奪つたのですが、これが差し上げますので、どうかお屋敷の片隅の穴に今まで通り、住まわせて下さい」と元気なく話します。與右衛門はおかしくなつ

そのよろくな時、郷里の但馬から早飛脚があり、兄が不慮のけんかで討たれ、相手の戸塚宇左衛門は四国の方へ逃走した旨の知らせが届きます。早速、與右衛門は敵に敵討ちの許可と上意を得て、四国松山へと舟で乗りつけます。その地の叔母の家を隠れ家として、敵討ちの居場所を土佐に、讃岐に

難波西鶴と 海の道

【88】

森田 雅也

て、「おひやう古たぬきのようだな。そうこういふなら許す。しかし、今夜は寂しいから二人で話そう」と肩までもませ、明け方まで付き合われます。その後は、化け物は現れなくなり、與右衛門は歓から勇武の者として加増され出世します。

そのよろくな時、郷里の但馬から早飛脚があり、兄が不慮のけんかで討たれ、相手の戸塚宇左衛門は四国の方へ逃走した旨の知らせが届きます。早速、與右衛門は敵に敵討ちの許可と上意を得て、四国松山へと舟で乗りつけます。その地の叔母の家を隠れ家として、敵討ちの居場所を土佐に、讃岐に

恋人・兵之助が敵の手がかり

探し求めるが、むなしく2年の月日が流れます。その間、軍学を教えて糧を得ましたが、弟子に大津兵之助という美少年がいました。いつの間にか與右衛門と2人は深い恋仲となり、敵討ちの旅の身の上であることを告げると、意外にも敵の宇左衛門と彼の父が知り合いで兵之助自身も顔を見知っていることが分かり喜びます。

そこに敵が今治に潜伏しているという情報を得ます。が、與右衛門は急に激しい腹痛を起こし、生死をさまよいます。誠心誠意看病する兵之助。次回へ。

(関西学院大学文学部文言語学科教授)

難波西鶴と

海の道

【89】

森田 雅也

前回は、西鶴『武道伝来

記』「貞享4(1687)

年刊」卷三の二「按摩とら

する化物屋敷」の大分の敵

討ちの話でした。

松山まで追いかけ、よう

やく敵の戸塚宇左衛門の隠

れ家を突き止めた軍学者梶

田奥右衛門。いざ、敵討ち

という時に生死にかかるる

激しい腹痛に襲われます。

しかし、弟子で衆道關係に

ある大津兵之助の獻身的な
看病によって、どうにか回
復します。

そこで兵之助は平癒祈願

のお札に参詣しますが途

中、屈強な若狭守に守られ、

船出せんとする宇左衛門一

行を見つけます。多勢に無

勢ながら、逃すまじと名乗

りをあげ、宇左衛門と斬り

離れた地理觀を「海の道」

から得たのでしょうか。次

回、九州を縦括します。

(関西学院大文学部文学

の情報を得て、2人は隣

けが乗り越え本懐遂げる

奥右衛門と兵之助

言語学科教授

とひろが、宇左衛門は若党の守られて舟に乗り、機会を待ります。初雪の日、2人はついに沖に泊れます。兵之助はこの事件を、未だ全快してない奥右衛門の耳に入れまいと一人治療に専念し、腰を見せない兵之助を心配して屋敷を訪れた奥右衛門の前でも、ひたすら腰をうどじますが、ついにはれてしまった奥右衛門は、涙を白状。奥右衛門は涙に深く沈みます。茫然自失となった奥右衛門でしたが、ますます二人で死ぬ決意を固め、主家に助太力を許可された兵之助に逆に勧められ、2人で敵討ちの旅に出かけます。探索の末、宇左衛門が但馬出石のある寺に潜伏しているとの情報を得て、2人は隣

事に果たした奥右衛門は、豊後に帰り再び武名をあげ、兵之助も伊予で名聲を得ます。その後も2人は「万里」を隔てて交遊したとのことです。

「れも九州豐後と四国、兵庫県但馬を結ぶ話ですが、西鶴はこのよつと遠く離れた地理觀を「海の道」から得たのでしょうか。次回、九州を縦括します。

(関西学院大文学部文学の情報を得て、2人は隣

九州に素材情報の提供者?

さじ、ここまで書いてきたように、西鶴にはとても九州の話が多く、しかもどちらが創作だけとは思えません。おそらく作品の素材にしたくなるような情報提供者が九州に存在していたた。

「中村西国」(1647)
1695)江戸時代前期の俳人。豊後(大分県)の人。上方で井原西鶴にまなび、延宝6(1678)年、西鶴前川自入とともに「俳諧通はね」を出版。書画、彫刻、淨瑠璃などにもすぐれた才能を持った。

西國は九州俳壇の要でした。元禄8年6月6日死去。49歳。通称は島屋勝(庄兵衛。別号に松葉軒、蓬安會と幽庵)。著作に「雲

森田 雅也

難波西鶴と 海の道

【90】

『『日本人名大辞典』など』
西國は大分県臼田市の人です。先日、日田市を訪れて調査してきましたが、今から300年以上前の人には、多くの調査すべき点が残っていました。

『『日本人名大辞典』など』
西國は、内陸部の「日田」から船に乗り、三隅川から博多、長崎、熊本などに比べ、あまり語られることがない「日田」ですが、江戸時代は天領でした。荒川、筑後川を下り、有明海に出たのでしょう。博多に出るルートもあったようですが、海路上方に行き、西鶴の弟子となり、江戸の芭蕉にも会いに行っています。

俳諧師時代の弟子・中村西国

『『日本人名大辞典』など』
西國は、この地の大商人

がそうであったように、元禄期の大商人は船の物流ルートを利用して、京都、大阪、江戸を自由に往来しました。見聞も広ります。西國は、内陸部の「日田」から船に乗り、三隅川から博多、長崎、熊本などに比べ、あまり語られることがない「日田」ですが、江戸時代は天領でした。荒川、筑後川を下り、有明海に出たのでしょう。博多に出るルートもあったようですが、海路上方に行き、西鶴の弟子となり、江戸の芭蕉にも会いに行っています。

『『日本人名大辞典』など』
西國は、この地の大商人

がそうであったように、元禄期の大商人は船の物流ルートを利用して、京都、大阪、江戸を自由に往来しました。見聞も広ります。西國は、内陸部の「日田」から船に乗り、三隅川から博多、長崎、熊本などに比べ、あまり語られることがない「日田」ですが、江戸時代は天領でした。荒川、筑後川を下り、有明海に出たのでしょう。博多に出るルートもあったようですが、海路上方に行き、西鶴の弟子となり、江戸の芭蕉にも会いに行っています。

『『日本人名大辞典』など』
西國は、この地の大商人

広島と宮崎を結ぶ妙な話

難波西鶴と

海の道

【91】

森田 雅也

西鶴のころ、難波と九州を結ぶ瀬戸内海航路は大切な流通ルートであるとともに、情報交換の大切なるトでした。「懐穀」「貞享3(1686)年刊」巻五の一「佛の似せ男」は、奇妙な話です。

日向の国(宮崎)に櫻森与太夫という賢くて裕福な百姓が妻と幸福に住んでいました。ある日、いつものように畠仕事に出ますが、

なぜかそのまま行方不明になってしまいます。残された美しい妻は悲しみと困惑の中に、3歳になる子を立てて、気丈に家を守ります。

近くに溝越伝介という百姓が住んでいましたが、飢餓などで貧乏をして、土地も鎌などで耕作をし、土地も家族も捨てて、袖立いとなつて、放浪生活をしていました。安芸(広島)の宮島した。安芸(広島)の宮島与太夫の女房は会つや嬉しく涙を流し、彼に間違いないと、同じ境遇の男に目を見張ります。その顔は与太夫になりました。ある日、いつものように畠仕事に出ますが、

「佛の似せ男」

言語学科教授
(関西学院大文学部文学

声をかけると、「私は与太夫ではない。鹿児島の大隅が生國の小平太だ」と言い張ります。

伝介はそれでも与太夫と首の場まで同じところにある彼をあきらめられず、彼に与太夫のすべてを語る

と、小平太は美人妻自當てに欲心が出て、日向へと向かいます。まずは、「天狗にさわられた者」として、果けたぶりをして村の近くに住みますが、この噂を与太夫の女房も耳にします。

与太夫の女房は会つや嬉しい涙を流し、彼に間違いないとして家に迎え、近所や遠い親せきまで呼んで祝いの宴を催します。2年目の春には2人の間に子どもま

引き裂かれた村之助と小督

前回は安芸(広島)の言島の話でした。広島は瀬戸内海航路の要であるとともに西国大名に対する幕府のとりででした。したがって、武士の話も多く残ります。

『武道伝来記』(貞享四年刊)卷二の一思ひ入れ吹く女尺八では、京より蹴鞠の名人枯木内匠が広島に下ってきたことから展開します。蹴鞠は広島城下の武家方に、あ

に日々送っている武士がいました。特に蹴鞠が好きで、仲間を集め、七夕の蹴鞠の会を催しました。その門弟の鳥川某右衛門の弟、村之助は、当年18歳の角前髪(半元服)姿ながら、まだ美少年の面影が残っていました。

小督も広島を立ち退きました。そこで鞠を取ってくれるよう頼みますが、姫も好意を持ち、2人の恋の始まりとなります。

2人は心を交わし、逢瀬を重ね、ついには姫のおな

かに子を宿すまでの深い仲となりました。姫の名は小督

父は藤沢基太夫。藩の組頭

として江戸に参勤してお

り、帰國の際、遠州浜松の

村丸と名付け、気丈に育て

やがて美しい13歳の立派な

若衆に成長します。

いよいよ、長い時間を経た敵討ちになりますが、次回にて。

難波西鶴と 海の道

森田 雅也

つという間に広がります。
ここに福嶋安清といっ

【92】

て取りに行くと、その家の息女が居合わせました。七夕の梅の葉の儀式を行うその姿は天女のようにも美しく、つい見ほれてしまいま

す。そこで鞠を取ってくれるよう頼みますが、姫も

好意を持ち、2人の恋の始まりとなります。

2人は心を交わし、逢瀬を重ね、ついには姫のおな

かに子を宿すまでの深い仲

となりました。姫の名は小督

父は藤沢基太夫。藩の組頭

として江戸に参勤してお

り、帰國の際、遠州浜松の

村丸と名付け、気丈に育て

やがて美しい13歳の立派な

若衆に成長します。

いよいよ、長い時間を経た敵討ちになりますが、次

回にて。

「思ひ入れ吹く女尺八」

小督はいろいろと理由をつけて縁談を拒み続けます。が、不愉快に思っていた甚平は、ある夜忍んできた村之助を闇討ちにします。これで2人の密会が世間に露見し、基太夫は謹慎、甚平も広島を立ち退きます。

小督も広島を去り、縁を頼り、一人で播磨明石の田舎家を借りて、貧しい暮らしを送ります。小督はその家で村之助との子を産み、村丸と名付け、気丈に育て、やがて美しい13歳の立派な若衆に成長します。

いよいよ、長い時間を経た敵討ちになりますが、次回にて。

(関西学院大文学部文学言語学科教授)

13歳になつた息子・村丸

西鶴「武道伝来記」〔貞享4(1687)年刊〕巻二の一「思ひ入れ吹く女尺八」は、広島での紳愛が悲劇を語った話でした。しかし、その仲親に隠して忍び会う村之助と小督。しかし、その仲親の父親が一方的に決めた許嫁、甚平が知ると平は廣島から逐電しますが、小督も恥ぢらしの娘と

丸は立派な13歳の若武者となります。もう全てを話してよいだろうと村丸に父の最後と敵のある身であることを告げるが、早速旅支度と口走ります。その武士は村丸を見て誰かに似ていると驚き、下僕は「村之助様の幽靈」と口走ります。その話を耳にした一行は立ち止まり、わざと琵琶湖と広島

森田 雅也

難波西鶴と 海の道

【93】

も敵討ちに向かおうと用意していたと髪を切り、鎮めに覚えた尺八を持ち、男の姿となり、ともに旅立ちます。乳母を加えた三人は、

明石から神戸を経て、西国街道・東海道へと進みます。

さすがに旅に疲れ、一

山寺に宿です。

古代にも素戔部という熱

い女性がいたことに勵まされますが、その時、下僕を

連れた40歳ぐらいの武士と遭遇します。その武士は村

丸を見て誰かに似ていると

平を討ち果たします。

處を探し出し、村丸の後見

をし、村丸は見事、敵、甚

平を討ち果たします。

「昔を今に語り伝へり」

と終わるこの敵討ち物語。

西鶴は広島か明石に、確かに

な情報源を持っていたので

しょうね。

難波西鶴と 海の道

【94】

森田 雅也

西鶴の時代に限らず、海の道を用いるようになつたはるか古代から、瀬戸内海航路は日本人の生命線でした。当然、海浜部の港は整備されますし、山間部は積み出し港へのアクセスを探ります。多くは川運を整備しました。先日も島根津和野で調査していると、藩の御用商人

を勤めていた伯家の「子孫

が、江戸時代から今日も京

都祇園と交連がある」ことを

教えて下さいました。当然

難波に住む西鶴も、今日の

我々の交通網からは意外な

地域の人々と親しく交遊し

ていたと考えられます。そ

れは「海の道」を利用して

いたのです。

西鶴の「男色天鑑」「貞享4(1687)年刊」巻七の二「女方も為なる土佐日記」には、「土佐日記」を模した瀬戸内海の船路風

景の描写が出ています。それは5日に道頓堀を発ち、「明くれば、六日の朝駆、いかりをあけてとり楫の音、砲ひたひを行くに…」と「尼崎」「鳴尾(西宮)」「広田のやしろ(西宮)」「和田の御崎(神戸)」「武庫山(神戸六甲山)」を通じ、兵庫の港に上陸。7日は須磨、塩屋の沖を過ぎ、遠く明石の人丸社を拝み、8、9日と過ぎ、10日は唐琴(倉敷)、虫明の瀬戸(岡山邑久)をこえ、11日には柄の浦(広島福山)に入港。

西鶴は「海の道」を熟知していた作家であり、その知識を駆使して読者を獲得していました。

西鶴は「海の道」を熟知していた作家であり、その知識を駆使して読者を獲得できただけでなく、その地域の産物についても詳しいのですが、それは別稿にして、いずれまた。

熟知した作家の説得力

知識を駆使し読者魅了

西鶴には「一目玉錦」「元禄2(1689)年刊」という沿岸地誌ともいづべき作品があったことは既に述べました。

西鶴は「海の道」を熟知していた作家であり、その知識を駆使して読者を獲得できただけでなく、その地域の産物についても詳しいのですが、それは別稿にして、いずれまた。

(関西学院大文学部文学

言語学科教授)

難波西鶴と



【96】

森田 雅也

前書きの如く、西鶴の『好色五人女』(貞享3年刊)巻1、(1686年刊)巻1、姫路の「お夏清十郎」物語は悲劇に終ります。清十郎が処刑された後、そのことを座敷牢で聞いたお夏は出家して、その菩提を弔います。

姫路の飾磨港から大阪への乗合船に乗りますが、当時は定期便があつたのかどうか定かではありません。姫路の北の「千種」では砂鉄・姫路の「お夏清十郎」物語を産出していました。

当時、大阪に住友(泉屋)の「銅吹所」があったこと

は有名ですが、住友の分家

が砂鉄を扱っていたので、

もしかすると、姫路飾磨か

ら大阪への定期便は存在し

たのかもしれません。そ

のため情報量が多かったの

でしょうか。西鶴作品には

多くの播州地方の話があります。

『西鶴諸國ばなし』(貞

享2(1685年刊)巻1

の一七「狐四天王」も姫路

の話です。以前にも紹介し

たように、この話は姫路に

伝わる佐賀部狐の伝説

が中心になっています。姫路

城は池田輝政によって慶

長14(1609)年に完成

しましたが、もともとの

話題は刑部神社がありま

した。その地は妖力の強い

野原に遊ぶ白狐に石を投げ

たところ、当たり所が悪く

死んでしまったという

事件から始まります。その

場所には刑部神社がありま

した。その地は妖力の強い

野原に遊ぶ白狐に石を投げ

たところ、当たり所が悪く

死んでしまったという

事件から

海路から一番乗りを目指す

**難波西鶴と
海の道**

森田 雅也

一昨年より、西鶴が江戸時代の西回り航路、九州航路などの「海の道」を情報源として利用し、作品を創作していることを述べてきましたが、ついに瀬戸内海航路の話となり、昨年は姫路の話までいたしました。

本来、次は明石と来るべきですが、本日が「宵えびす」のために、先に「西宮神社」について書かせていただきます。

【97】

西鶴の『日本永代藏』〔元禄元(1688)年刊〕巻二の四「天狗は家名の風車」には、今も続く西宮神社への参詣争いが描かれています。『西宮神社』の公式ホームページには、「今では宵えびすの1月9日の深夜12時以降に神社のすべての門を閉じて忌籠を行い、10日前4時までいたしました。

西宮の人々は家に籠もり、「西宮神社」へおわたりに参詣です。しかし、西鶴が記すところによれば、江戸時代の「西宮神社」は「十日えびす」が中心で、9日は「西宮神社」へおわたりに参詣です。実際、昔は四国などから船で駆けつけていました。伝わりますから、勇壮な西宮浜の光景だったでしょうね。

日本永代藏 西宮神社えべっさん

た。ですから、10日は「えびす大祭」の神事の後、人々は先を争って、福に授かるとしたわけです。「日本永代藏」の話も例年、早参りしている和歌山太地の鯨漁師のリーダー「天狗源内」がある年、寝坊して後れをとつて、悔しがるという話です。

ただ、現在の「走り参り」ではなく、海路からの一番乗りです。実際、昔は四国などから船で駆けつけていました。伝わりますから、勇壮な西宮浜の光景だったでしょうね。

(関西学院大文学部文学言語学科教授)

難波西鶴

森田
雅也

前回は「西宮えびす」の話をしましたが、西鶴の「西宮」は、西宮は港というより浜でした。「海の道」として何度も述べてきましたように、海路は高速道路。大坂までの大きなインター「エンジ」は姫路・美津の後は明石でした。

て、陸海の要衝の地でした。

[98]

談林俳諧の祖・西山宗因は、この地を數度にわたり訪問しています。それは弟子が明石にいたからで、西鶴にどうては同門です。

その「」は「西郷名残の
友」「元禄8（1695）
年刊」巻四の五「何とも」
れぬ京の杉重」に明言しま
す。

酒樽一つ。それには、西鶴先生が今年こそ奈良の八重桜を見に来られると心待ちしていたのに残念だと書き付けられていました。

門人と風流なやりとり楽しむ

言語学科教授

(関西学院大文学部文学
言語学科教授)

難波西鶴と 海の道

【100】

森田 雅也

感謝したでしよう。

この連載は一昨年3月か

江戸時代、西回り航路を

使って、北海道・松前・山形

酒田・越後・加賀石川・越

中富山・越前福井・兵庫・

鳥取・島根から、九州航路

を使って、西国九州から、

瀬戸内海航路を経て無数の

船が難波へとやってきました。

た。

明石、兵庫、西宮と大阪

へと近づいて、船を

操る船頭や積み荷を商あつ

とする商人は、希望にあふ

「海の道」の便利さに

舞台とした諸国語形式でし

た。
当時の旅行は、今のように手軽でなく、関所が厳しく、道中手続きも煩雑な上、五街道以外は道路も十分に整備されておらず、とても苦労しました。そのことは、西鶴と同時代の芭蕉「奥の細道」なども示して、再三、指摘してきました。

といふが西鶴の浮世草子

には、日本中の何十、何百

の地域が面白おかしく登場

します。中には酒田や敦賀

が、海につながり、簡単に上方に出られたからです。

もと、紹介したかったで

すね。「航海」ならぬ「後悔」は後半、版権の煩雑さ

があつて挿絵を用いるのが少なかつた」といいます。怠慢

が許しがた」。

この記事で「西鶴忌」を

お知りになった方も多いと

思います。毎年9月、西鶴

の菩提寺・大坂誓願寺で行つ

ています。また、お運びく

ださい。長いものの「愛読あ

りがとうございました。

(関西学院大文学部文学

言語学科教授)

(おわり)

大坂へ近づくにつれあふれる希望

「海の道」の便利さに感謝

がる川の流域の話も多く存在しているとして、いくつかあげました。今、不便な内陸部でも川を利用すれば、海につながり、簡単に上方に出られたからです。

もと、紹介したかったですね。「航海」ならぬ「後悔」は後半、版権の煩雑さがあつて挿絵を用いるのが少なかつた」といいます。怠慢が許しがた」。

この記事で「西鶴忌」をお知りになった方も多いとと思います。毎年9月、西鶴の菩提寺・大坂誓願寺で行っています。また、お運びください。長いものの「愛読ありがとうございました。

(関西学院大文学部文学